パチンコ・パチスロ遊技障害
および
公営競技における問題ギャンブリング

調査研究報告書

２０２５年（令和７年）７月

公益財団法人　日工組社会安全研究財団

目次

第１章　本研究の目的と調査概要 1

１．本研究の目的 1

２．調査概要 2

３．回答者の基本属性 3

１）性別 3

２）年齢 4

３）居住地域 5

４）配偶状況および子どもの有無 5

５）学歴 6

６）職業 6

７）個人年収 7

８）世帯年収 8

９）世帯の貯蓄額 9

１０）１か月の遊興費 9

１１）補足：個人年収、世帯年収、世帯の預貯金額、遊興費の相関 10

【コラム①】パチンコ・パチスロ産業の依存問題対策に対する評価 11

第２章　各種ギャンブル等への参加状況 13

１．直近１年での趣味・娯楽の行為者率 13

２．ギャンブル等の種類別　参加状況 14

１）参加頻度 14

２）１年前と比べた参加時間の変化 16

３）各ギャンブル等の使用額 17

４）各ギャンブル等の負け額 17

５）店や競技場での滞在時間 18

６）参加動機 19

【コラム②】日本語版修正ギャンブル動機尺度の紹介とその意義 25

３．パチンコ・パチスロの遊技状況 29

１）頻度・使用額・負け額 29

２）パチンコとパチスロのプレー比率 30

３）通常価格台と低価格台のプレー比率 30

４）行きつけの店舗数 31

５）2017 年調査と 2023 年調査の結果の違いとその原因 32

６）【補論】パチンコ・パチスロへの参加時間の変化とその理由 33

4．公営競技とインターネット投票 34
1）競技場に行く頻度 34
2）インターネットでの投票券購入経験 35
3）投票券購入時における、窓口とインターネットの使用比率 36
4）インターネットでの投票券購入の頻度の変化 38
5）インターネット投票サイトへのアクセス頻度 38
6）インターネット投票において重要と考える事柄 39
7）公営競技場に行く理由 41
8）【補論】パチンコ・パチスロと公営競技のオンライン化 43
【コラム③】2017 年以降の調査結果を振り返って 45

第 3 章　ギャンブル等の重複 48
1．直近 1 年で参加したギャンブル等の種類数と組み合わせ 48
2．ギャンブル等の重複のしかた 50
1）週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数 50
2）直近 1 年間に参加したギャンブル等の種類数と、週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数の相関 50
3．【補論】パチンコをしながらの公営競技への参加 51
1）「ながら参加」の割合 51
2）「ながら参加」の理由 51
3）「ながら参加」が多い人の基本属性 53

第 4 章　問題ギャンブリング 57
1．問題ギャンブリング疑いがある人の割合と基本属性 57
1）使用した問題ギャンブリング測定尺度 57
2）問題ギャンブリング測定尺度の単純集計 58
3）問題ギャンブリング疑いがある人の割合 61
4）問題ギャンブリング疑いがある人の基本属性と遊技状況 63
【コラム④】本報告書に用いられる用語について 75
2．ギャンブル等の種類別　問題ギャンブリング 77
1）ギャンブル等の種類別　問題ギャンブリング疑いのある人の割合 77
2）パチンコ・パチスロの遊技状況と問題ギャンブリング疑い 77
3）競馬の遊技状況と問題ギャンブリング疑い 85
4）ボートレースの遊技状況と問題ギャンブリング疑い 87
5）競輪の遊技状況と問題ギャンブリング疑い 89
6）オートレースの遊技状況と問題ギャンブリング疑い 91
7）【小括】各ギャンブル等の遊技状況と「重度の」問題ギャンブリング疑い 94

３．公営競技のインターネット投票と問題ギャンブリング疑い.....98
１）インターネット投票と問題ギャンブリング疑い.....98
２）「ながら参加」と問題ギャンブリング疑い.....102
【コラム⑤】スマート PLAY スタイルのすすめ.....104

第５章　まとめ.....106

引用参考資料.....110

付録：調査票.....111

パチンコ・パチスロ遊技障害研究会.....128

第１章　本研究の目的と調査概要

１．本研究の目的

日工組社会安全研究財団においては、2013 年に「パチンコ依存問題研究会（現「パチンコ・パチスロ遊技障害研究会」)」を発足して以降、パチンコ・パチスロにかかわる遊技障害について調査研究を続けており、2017 年には全国の 18 歳から 79 歳までの 9000 人の男女を対象とした大規模調査（有効回答者数 5060 人）をもとに、パチンコ・パチスロ遊技障害のおそれがある人びとの人口統計学的数値がおおよそ 40 万人であることなどを明らかにすると同時に、こうした調査結果を活用し、パチンコ・パチスロ遊技障害の低減や予防に向けた方策について研究を行ってきた。

一方で、近年、競馬に代表される公営競技の馬券・車券・舟券の購入においてオンライン化が進み、以前に比べてギャンブルへの参加が簡単かつ手軽になったことや、オンラインカジノ等が注目を集めるようになったことで、ギャンブルのオンライン化が依存症問題の中心課題のひとつとなりつつある。

そもそもこれまでの依存症問題では、パチンコ・パチスロとの関連性が注目されやすく、公営競技はそこまで大きな注目を集めてこなかった[1]。その原因のひとつとして、両者の営業形態の違いが指摘される。

パチンコ・パチスロ店は 47 都道府県全てに存在し、2023 年時点の店舗数は全国あわせて 7083 店舗となっている（警察庁生活安全局保安課，2024：3)。都道府県別で見ると、もっとも店舗数の多い東京都で 549 店舗、もっとも店舗数の少ない山梨県でも 45 の店舗がある（日本遊技関連事業協会，2024：26)。そのため、パチンコ・パチスロは、全国のどこに住んでいても、365 日いつでも[2]楽しめる、国民にとって身近な娯楽のひとつとなってきた。それに対し公営競技は、中央競馬場が全国に 10 箇所[3]、地方競馬場が 15 箇所[4]、ボートレース場 24 箇所[5]、競輪場 43 箇所[6]、オートレース場 5 箇所[7]となっており、インターネットが発達していなかった頃には、居住地域によってはギャンブルに参加するどころか、観戦さえ難しい状況にあった。また、パチンコ・パチスロと違い、公営競技は決まった日

---

[1] 例えば早野（2023）は、ギャンブルの依存問題においては、パチンコが原因とされやすく、規制も多いのに対し、宝くじや公営競技においてはその射幸性の高さが問題とされることはほとんどなく、規制もほとんどなされていない点について指摘している。

[2] パチンコ・パチスロ店の営業時間は都道府県によってばらつきがあるが、9 時開店、23 時閉店とする都道府県がもっとも多い。なお、もっとも長く営業ができる宮城県においては、8 時開店、24 時閉店となっている。

[3] JRA ウェブサイト内「JRA の全競馬場」（https://www.jra.go.jp/facilities/　2024/11/14 閲覧）

[4] 地方競馬情報サイト KEIBA.GO.JP 内「競馬場一覧」（https://www.keiba.go.jp/guide/index.html　2024/11/14 閲覧）

[5] BOAT RACE 内「ボートレース場」（https://www.boatrace.jp/owpc/pc/site/place/stadium/　2024/11/14 閲覧）

[6] KEIRIN.JP 内「競輪場一覧」（https://keirin.jp/pc/jyolist　2024/11/14 閲覧）

[7] Auto Race.JP 内にレース場一覧はなかったため、「開催日程」ページで確認（https://autorace.jp/calendar/ 2024/11/14 閲覧）

程・時間に開催されるため、競技場に比較的行きやすい地域であっても、365 日いつでも参加するということは不可能であった。こうした営業形態の違いを理由に、「いつでも」「どこでも」楽しめるパチンコ・パチスロは、これまで、公営競技よりもギャンブル等依存症へつながりやすい種目として注目を集めやすい傾向にあった。

しかし、インターネットの発達とともにそうした相違は取り除かれ、現在では、公営競技においても、競技場に行かなくてもライブ中継で観戦が可能となり、窓口に行かなくてもオンラインで投票券の購入ができるようになった。つまり、公営競技もまた、パチンコ・パチスロと同様に、「いつでも」・「どこからでも」楽しめる国民の娯楽となったのである。そして同時に、そうしたメリットの裏返しとして、ギャンブルのオンライン化による依存症問題が注目されるようになってきた。パチンコ・パチスロ店においても、客がパチンコ・パチスロをしながらスマートフォンを用いて公営競技にも参加する姿が散見されるようになっており、遊技業界においては、こうした行為がギャンブル等依存症を促進、あるいは深刻化させるのではないかという懸念が出ている。

以上のような社会状況の変化を踏まえ、本調査研究においては、パチンコ・パチスロと、オンライン化した公営競技との比較検討をとおし、どのような遊び方が依存症につながるリスクが高いのかを明らかにすることで、その予防や軽減に役立てることを目的としている。本調査研究の成果が、パチンコ・パチスロ業界はもとより、公営競技も含め、広く、ギャンブル等依存症の予防や対策を行おうとする団体等にとって、そして社会にとって、有益な資料となれば幸いである。

２．調査概要

◆ **調査期間**：2023 年 10 月 26 日（木）～2023 年 10 月 27 日（金）

◆ **調査方法**：調査会社の登録モニターを対象とした web アンケート調査

◆ **調査委託先**：マクロミル

◆ **調査対象**：過去 1 年以内に、パチンコ・パチスロ、競馬、ボートレース、競輪、オートレースのいずれかを行ったことがある、全国の 20～69 歳の男女

◆ **調査名**：「ご自身に関するアンケート」

【具体的なスクリーニング方法】

本調査では、調査会社の登録モニター（全国の 20～69 歳の男女）に対し、図表 1-1 のとおりのスクリーニング項目を用意し、「ｏ．パチンコ・パチスロ」、「ｐ．競馬の馬券購入」、「ｑ．ボートレースの舟券購入」、「ｒ．競輪の車券購入」、「ｓ．オートレースの車券購入」（以下、馬券、車券、舟券をまとめて「投票券」と呼称する）のいずれかについて、「最近 1 年以内にしたことがある」と回答した者を先着順で、本調査の調査対象として選出した。

年齢や地域による割付等は行わず、有効回答者数が 5200 名以上となるよう調査会社に依頼した結果、有効回答者数は 5356 名となった。

図表 1-1　スクリーニング用項目

		最近１年以内にしたことがある	最近１年以内にはしていないが、**１年以上前に**したことがある	今までに一度もしたことがない
a	**国内旅行**（日帰り含む）	1	2	3
b	**海外旅行**	1	2	3
c	**コンサート、ライブ**に行く	1	2	3
d	**遊園地、水族館、美術館**などに行く	1	2	3
e	**映画館**で映画を見る	1	2	3
f	**スポーツ、運動**をする	1	2	3
g	**スポーツ観戦**をする（TV等含む）	1	2	3
h	**読書**	1	2	3
i	**飲酒**	1	2	3
j	**喫煙**	1	2	3
k	**宝くじ**購入	1	2	3
l	**LOTO**購入	1	2	3
m	**ナンバーズ**購入	1	2	3
n	**スポーツくじ**（サッカーくじなど）購入	1	2	3
o	**パチンコ・パチスロ**（ゲームセンターは除く）	1	2	3
p	**競馬**の馬券購入 ※「競馬」には、中央競馬・地方競馬・ばんえい競馬を全て含めます。	1		
q	**ボートレース**の舟券購入	1		
r	**競輪**の車券購入	1		
s	**オートレース**の車券購入	1	2	3
t	**カジノ**	1	2	3
u	ソーシャルゲームでの**ガチャへの課金**	1	2	3
v	**証券等取引、FX**など	1	2	3

これらの
いずれかの項目で
「1」を選択した人が
本調査の対象者となる

３．回答者の基本属性

ここではまず、本調査の有効回答者 5356 名の基本属性を見ていく。

今回の調査では、「最近 1 年以内に一度でも、パチンコ・パチスロ／競馬／ボートレース／競輪／オートレースのいずれかに参加した者」のみを調査対象としているため、基本属性の偏りは、そうした調査対象者の選定条件による偏りでもあることに注意されたい。

１）性別

回答者の性別は、8 割が男性によって占められていた（図表 1-2）。

久里浜医療センターが 2023 年に行った全国調査でも、「過去 1 年間にパチンコ・パチスロ、競馬、競輪、競艇、オート

図表 1-2　回答者の性別

	n	%
男性	4268	79.7
女性	1088	20.3
合計	5356	100.0

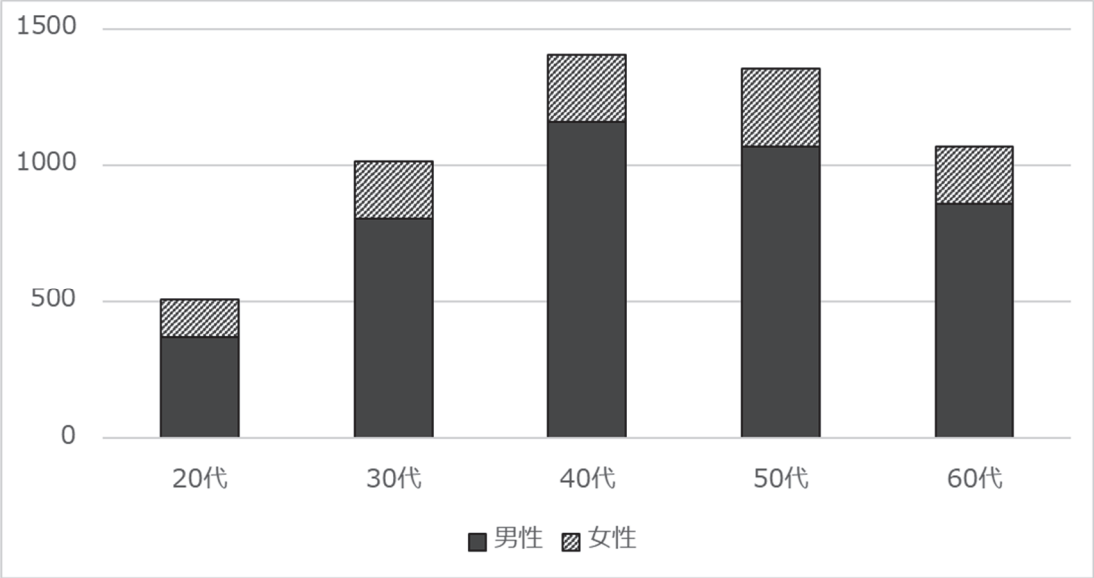
レースを経験した人」の男女比率は 78.7%：21.3%とされる[8]ため、本調査は、全国を対象とした無作為抽出調査とほぼ同様の男女比率でサンプルを得ることができたと考えて良い。

２）年齢

回答者の年齢は、40 代・50 代がそれぞれ全体の 4 分の 1 を占めており、次いで 60 代が 20%、30 代が 20%弱、20 代が 1 割弱となっていた（図表 1-3、図表 1-4）。

性別によって年齢構成に大きな違いはないが、それぞれの性に占める 20 代の割合や平均年齢を見るに、女性の方が若干、男性に比べて年齢が若い傾向にあった（図表 1-4、図表 1-5）。

図表 1-3　回答者の年齢分布（度数）



図表 1-4　回答者の男女別 年齢分布（百分率）

	20代	30代	40代	50代	60代	合計	n
男性	8.7%	18.9%	27.2%	25.0%	20.2%	100.0%	4268
女性	12.6%	19.0%	22.7%	26.4%	19.3%	100.0%	1088
合計	9.5%	18.9%	26.3%	25.3%	20.0%	100.0%	5356

図表 1-5　回答者の男女別　年齢の記述統計量

	平均値	標準偏差	度数
男性	47.64	12.173	4268
女性	46.41	12.698	1088
合計	47.39	12.290	5356

[8] 久里浜医療センター（2024b）参照。なお、「過去 1 年間にパチンコ・パチスロ、競馬、競輪、競艇、オートレースを経験した人の男女比率」については、報告書 p.20 に掲載された表 2-10 から算出した。

３）居住地域

回答者の居住地域(図表 1-6)では、関東が全体の 3 分の 1 を占める一方、北海道・東北・中国・四国・九州・沖縄地方はいずれも 1 割未満となっていた。

2020 年の国勢調査結果と比較すると、いずれの地方においても大きな違いはなく、居住地域に限って言えば、ほぼ忠実に日本の縮図となるサンプルを収集できたと見てよい。

図表 1-6　回答者の居住地域

	n	%	【参考】2020年国勢調査結果
北海道	337	6.3%	4.1%
東北地方	336	6.3%	6.8%
関東地方	1872	35.0%	34.6%
中部地方	877	16.4%	16.8%
近畿地方	996	18.6%	17.7%
中国地方	275	5.1%	5.8%
四国地方	147	2.7%	2.9%
九州・沖縄地方	516	9.6%	11.3%
合計	5356	100.0%	100.0%

４）配偶状況および子どもの有無

回答者全体の配偶状況を見ると（図表 1-7)、全体の半数超が既婚であった。男女別でみると、男性は女性に比べ未婚者が多く、女性は男性に比べて既婚者や離死別者が多い傾向にあった。

また、子どもの有無では（図表 1-8)、子どものいる人といない人はほぼ半数ずつとなっていた。男女別では、女性においてのみ、子どものいない人よりも子どものいる人のほうがやや多い傾向が見られた。

図表 1-7　回答者の配偶状況

	未婚	既婚 ※ 内縁や 事実婚を含む	離別 あるいは死別	合計	n
男性	37.9%	53.8%	8.3%	100.0%	4268
女性	24.9%	62.1%	13.0%	100.0%	1088
合計	35.3%	55.5%	9.3%	100.0%	5356

図表 1-8　回答者の子どもの有無

	子どもなし	子どもあり	合計	n
男性	50.8%	49.2%	100.0%	4268
女性	47.3%	52.7%	100.0%	1088
合計	50.1%	49.9%	100.0%	5356

５）学歴

回答者全体の学歴（図表 1-9）は、大卒者が 4 割超、高卒者が 3 割超となっていた。男女別では、男性では約半数が大卒者であり、次いで高卒者が 3 割弱となっているのに対し、女性では高卒者が 4 割弱でもっとも多く、次いで大卒者が 3 割弱となっていた。

2020 年の国勢調査結果と比較すると、男女ともに大卒者が顕著に多くなっていた。

図表 1-9　回答者の学歴

	中学校	高等学校	専修・専門学校	短大・高専	大学 ※ 6年制含む	大学院	その他	合計	n
男性	3.8%	29.5%	12.2%	2.4%	48.9%	3.2%	-	100.0%	2682
女性	3.7%	38.5%	13.4%	16.1%	27.0%	1.3%	-	100.0%	2674
合計	3.8%	31.4%	12.5%	5.2%	44.5%	2.8%	-	100.0%	5356

【参考】2020年国勢調査　20～69才の各学校卒業者総数を100％とした場合の学歴

	中学校	高等学校	専修・専門学校	短大・高専	大学 ※ 6年制含む	大学院	その他	合計
男性	6.3%	35.6%	－	9.4%	28.8%	3.9%	16.0%	100.0%
女性	4.7%	36.9%	－	24.8%	18.5%	1.3%	13.8%	100.0%
合計	5.5%	36.3%	－	17.1%	23.6%	2.6%	14.9%	100.0%

※ 国勢調査では、「専修・専門学校」は教育年数等に応じて高等学校・短大・大学などに振り分けられる。
※ また、国勢調査においては選択肢に「小学校卒」があったが、それは「その他」に含めた。

６）職業

回答者の職業（図表 1-10）では、全体の 82.2%が何らかの仕事に就いており、就業上の地位においては、「正社員（職員）」がもっとも多く 53.8%、次いで「パート・アルバイト」が 11.2%となっていた。非就業者は 17.6%で、うち 7.4%は「無職」、5.0%は「専業主婦（主夫）」であった。

男女別で見てみると、男性では 86.0%が何らかの仕事に就いており、就業上の地位においては、「正社員（職員）」が 6 割ともっとも多く、次いで「自営業・自由業」が 1 割であったのに対し、女性では仕事に就いている人が 67.1%と男性に比べて少なく、就業上の地位においても、「正社員（職員）」は 3 割と少なく、代わりに「パート・アルバイト」が 26.8%となっていた。また、非就業者の割合を見ると、男性の場合には非就業者は 14%と少なく、そのうちの半数以上を「無職」（7.9%）が占めていた一方で、女性の場合には、非就業者が 32.9%と多く、その多くを「専業主婦」(23.2%)が占めていた。ただし、国勢調査（2020）の結果と比較すると、こうした傾向のほとんどは、今回の調査対象者に限ったものではなく、日本社会全体におけるジェンダー差であることがわかる。

また、国勢調査結果との相違点に着目した場合には、今回の調査対象者では、男女ともに「正社員（職員）」や「派遣・契約・嘱託・非常勤」、「自営業・自由業」、「無職」が多い

こと、また、女性においては「専業主婦」が多く「家族従業員」が少ないことなどが指摘される。こうした違いが生じた要因としては、本調査対象が「直近 1 年間で 1 回以上ギャンブル等を行ったことがある」層に限られていたために、ギャンブル等に参加する時間やお金に余裕のある人びとが多くなった可能性が考えられる。

図表 1-10　回答者の職業

	就業者						就業者のみの合計
	正社員（職員）	派遣・契約・嘱託・非常勤社員（職員）	パート・アルバイト	自営業・自由業	自営業の家族従業員	経営者	
男性	59.9%	7.0%	7.2%	10.0%	0.4%	1.5%	86.0%
女性	29.7%	5.4%	26.8%	4.3%	0.4%	0.5%	67.1%
合計	53.8%	6.7%	11.2%	8.8%	0.4%	1.3%	82.2%

	非就業者								就業者＋非就業者合計	n
	学生	専業主婦・主夫	家事手伝い	年金受給者※老齢、障害、遺族年金等	失業手当受給者	生活保護受給者	無職	その他		
男性	1.6%	0.4%	0.1%	3.4%	0.1%	0.4%	7.9%	0.1%	100.0%	2682
女性	1.8%	23.2%	0.3%	1.4%	0.3%	0.5%	5.2%	0.3%	100.0%	2674
合計	1.6%	5.0%	0.1%	2.9%	0.1%	0.4%	7.4%	0.1%	100.0%	5356

【参考】2020年国勢調査　20～69才の人口総数を100％とした場合の職業

	就業者						非就業者			合計
	正規の職員・従業員	労働者派遣事業所の派遣社員	パート・アルバイト	雇人のない業主・家庭内職者	自営業の家族従業員	役員・雇人のある業主	通学	家事	その他不就業	
男性	51.8%	1.5%	7.8%	4.9%	0.7%	6.7%	1.7%	1.6%	5.7%	82.3%
女性	27.8%	2.3%	25.9%	2.1%	2.2%	1.9%	1.5%	18.6%	3.8%	86.1%
合計	39.8%	1.9%	16.8%	3.5%	1.5%	4.3%	1.6%	10.1%	4.8%	84.2%

※　本調査と国勢調査とでは職業区分が異なり、完全に同じ表は作成できなかったため、暫時的なまとめとなる。

※　国勢調査では「労働人口」内に「労働状態不詳」や「従業上の地位不詳」があり、今回の集計ではそれらを除いたため合計値は100％にならない。

７）個人年収

個人年収を見ると（図表 1-11)、「200 万円未満」、「200～400 万円未満」、「400～600 万円未満」がそれぞれ 25％前後となっていた。

男女別で見ると、男性では「200～400 万円未満」と「400～600 万円未満」がそれぞれ 25％超であったのに対し、女性の場合には「200 万円未満」が過半数となっていた。

民間給与実態統計（2023）と比較すると、本調査の回答者は男女ともに、総じて個人年収が少ない傾向にあるが、これは、本調査では、民間給与実態統計では対象となっていない非就業者に対しても年収を訊ねたためだと推測される。

図表 1-11　回答者の個人年収

	200万円未満	200～400万未満	400～600万未満	600～800万未満	800～1000万未満	1000～1200万未満	1200～1500万未満	1500～2000万未満	2000万円以上	わからない	合計	n
男性	16.6%	26.8%	28.3%	13.2%	6.1%	2.2%	1.1%	0.6%	0.5%	4.6%	100.0%	2682
女性	56.0%	23.5%	7.5%	3.0%	0.4%	0.3%	－	0.2%	0.2%	8.8%	100.0%	2674
合計	24.1%	26.2%	24.3%	11.3%	5.0%	1.8%	0.9%	0.5%	0.4%	5.4%	100.0%	5356

【参考】2023年民間給与実態統計

	200万円以下	200～400万以下	400～600万以下	600～800万以下	800～1000万以下	1000～1200万以下	1200～1500万以下	1500～2000万以下	2000万円超	合計
男性	9.6%	24.6%	31.5%	17.2%	8.5%	6.3%		1.4%	0.9%	100.0%
女性	34.6%	37.7%	19.4%	5.3%	1.7%	1.0%		0.2%	0.2%	100.0%
合計	20.4%	30.3%	26.2%	12.0%	5.5%	4.0%		0.9%	0.6%	100.0%

※　本調査では各給与階級を「未満」で区切っていたのに対し、民間給与実態統計では「以下」で区切っている。

※　また、民間給与実態統計は、本調査とは以下の点で異なるため、単純な比較は困難である。

① 本調査は年齢を20～69歳に限定しているが、民間給与実態統計では全年齢が対象となっている（性別・年齢別・給与階級別の度数は公開されていない）。

② 本調査は仕事の有無にかかわらず年収を訊ねているが、民間給与実態統計では給与所得者のみを対象としている。

８）世帯年収

世帯年収においては、男性の 13.8%、女性の 22.7%（全体の 15.6%）が「わからない・答えたくない」と回答していたため、以下では「わからない・答えたくない」と回答した人を除いて集計した結果を掲載する（図表 1-12）。

図表 1-12　回答者の世帯年収

	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1000万円未満	1000～1100万円未満	1100～1200万円未満	1200～1300万円未満	1300万円以上	合計	n
男性	4.3%	5.4%	8.8%	12.5%	11.6%	13.0%	9.8%	9.1%	6.3%	6.5%	3.9%	2.6%	1.5%	4.8%	100.0%	3680
女性	5.7%	7.1%	8.8%	14.9%	12.6%	11.1%	7.7%	9.6%	5.4%	5.7%	2.4%	2.6%	1.5%	4.9%	100.0%	841
合計	4.6%	5.7%	8.8%	12.9%	11.8%	12.6%	9.4%	9.2%	6.1%	6.4%	3.6%	2.6%	1.5%	4.8%	100.0%	4521

【参考】2023年　国民生活基礎調査

	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1000万円未満	1000～1100万円未満	1100～1200万円未満	1200～1500万円未満	1500万円以上	合計
合計	6.9%	14.6%	14.5%	12.9%	10.7%	8.5%	6.4%	5.8%	4.6%	3.7%	2.6%	2.3%	3.6%	3.1%	100.0%

※　国民生活基礎調査と本調査では、1200万円以上の区分が異なる。

世帯年収を回答した人においては、「300～400 万円未満」、「400～500 万円未満」、「500～600 万円未満」がそれぞれ 1 割超となっており、性別による大きな差は見られなかった。

国民生活基礎調査（2023）と比較すると、国民生活基礎調査では「200 万円未満」の世帯が 21.5%であったのに対し、本調査の回答者では「200 万円未満」世帯は 10.3%となっており、低所得世帯が少ない傾向にあった。

９）世帯の貯蓄額

世帯の貯蓄額についても、男性の 25.7%、女性の 35.8%（全体の 27.8%）が「わからない・答えたくない」と回答していたため、以下では「わからない・答えたくない」と回答した人を除いて集計した結果を掲載する（図表 1-13）。

図表 1-13　回答者の世帯の貯蓄

	預貯金はない	50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～700万円未満	700～1000万円未満	1000～1500万円未満	1500～2000万円未満	2000～2500万円未満	2500～3000万円未満	3000万円以上	合計	n
男性	15.5%	14.6%	8.3%	7.7%	6.2%	3.8%	5.5%	5.6%	6.5%	6.7%	4.4%	2.7%	2.3%	10.1%	100.0%	3171
女性	22.2%	12.3%	8.9%	6.6%	6.3%	4.4%	5.4%	5.9%	5.9%	5.4%	4.4%	1.4%	1.4%	9.3%	100.0%	698
合計	16.7%	14.2%	8.4%	7.5%	6.2%	4.0%	5.5%	5.7%	6.4%	6.5%	4.4%	2.5%	2.2%	9.9%	100.0%	3869

【参考】2022年国民生活基礎調査

	預貯金はない	50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～700万円未満	700～1000万円未満	1000～1500万円未満	1500～2000万円未満	2000～3000万円未満	3000万円以上	合計
合計	12.3%	4.8%	3.8%	7.6%	5.9%	6.5%	3.6%	10.2%	7.2%	10.9%	5.7%	8.3%	13.3%	100.0%

※ 2023年国民生活基礎調査は貯蓄額の統計がまだ公表されていなかったため、2022年データを使用した。
※ 貯蓄の有無の「不詳」、および、「貯蓄額不詳」は除いて集計を行った。

世帯貯蓄額を回答した人においてもっとも多かった回答は「預貯金はない」で、全体の 16.7%となっていた。男女別で見ると、「預貯金はない」とする世帯は、男性回答者の世帯（15.5%）よりも女性回答者の世帯（22.2%）で多く見られた。

国民生活基礎調査（2022）と比較すると、本調査の回答者では、「預貯金はない」、「50 万円未満」、「50～100 万円未満」と回答した割合が高くなっており、3 カテゴリーを合計した「預貯金額が 0～100 万円未満の世帯」は 39.3%と、国民生活基礎調査の 20.9%と比べ、貯蓄額が少ない層が顕著に多くなっていた。

１０）１か月の遊興費

1 か月の遊興費（図表 1-14）では、「1 万円未満」、「1～2 万円未満」、「2～3 万円未満」がそれぞれ 2 割前後となっていた一方で、「5 万円以上」も全体の 15.5%を占めていた。

男女別で見ると、1 か月の遊興費が「2 万円未満」の人は男性で 41.0%、女性で 59.5%となっていたこと、加えて、遊興費が「5 万円以上」の人は男性で 17.0%、女性で 9.7%となっていたことから、総じて男性の方が遊興費が高い傾向にあった。

図表 1-14　回答者の 1 か月の遊興費

	1万円未満	1～2万円未満	2～3万円未満	3～4万円未満	4～5万円未満	5万円以上	合計	n
男性	20.4%	20.6%	20.5%	12.1%	9.3%	17.0%	100.0%	2682
女性	34.2%	25.3%	16.9%	8.0%	5.8%	9.7%	100.0%	2674
合計	23.2%	21.5%	19.8%	11.3%	8.6%	15.5%	100.0%	5356

１１）補足：個人年収、世帯年収、世帯の預貯金額、遊興費の相関

個人年収、世帯年収、世帯の預貯金額、遊興費は、いずれも回答者の経済状況を示す項目であるため、これらの項目についてスピアマンの順位相関係数を算出したところ[9]、図表 1-15 のとおり、これら 4 項目の間にはすべて、有意な正の相関[10]が見られた（いずれも $p<.001$）。

図表 1-15　個人年収、世帯年収、世帯の預貯金額、遊興費の相関

	個人年収	世帯年収	世帯の預貯金額	遊興費
個人年収	-	.629**	.372**	.355**
世帯年収	.629**	-	.534**	.356**
世帯の預貯金額	.372**	.534**	-	.341**
遊興費	.355**	.356**	.341**	-

特に興味深いのは遊興費で、年収や貯蓄額と有意な正の相関にあるものの、他の項目同士と比べるといずれも相関係数が低めになっている。つまりは、収入や貯蓄額が多い人ほど遊興費が多い傾向は見られるものの、実際には収入や貯蓄額に見合わない額の遊興費を使っているであろう人も一定数いると推測される。

[9] 相関分析を行う際には、「わからない・答えたくない」の回答は除いた。

[10] 「正の相関」とは、一方が大きくなると他方も大きくなるという関係性を指す。したがって例えば、「個人年収と世帯年収との間に正の相関があった」場合には、「個人年収が多い人ほど、世帯年収も多い」ということになる。

【コラム①】

パチンコ・パチスロ産業の依存問題対策に対する評価
―有識者会議の取組―

パチンコ・パチスロ産業は、多岐にわたる依存問題対策を行っているが、それに対する評価機関として、「パチンコ・パチスロ産業依存対策有識者会議」（以下、有識者会議）がある。

この会議は、パチンコ・パチスロ産業の依存問題の取組について、第三者から評価や提言を受けるために設立されたものである。業界 14 団体（現在では 13 団体）で構成するパチンコ・パチスロ産業 21 世紀会（以下、21 世紀会）の差配によって 2018 年 12 月に発足した。現在の委員は、弁護士 2 名、精神科医、産業カウンセラー、大学教員の 5 名となっている。

2024 年 7 月までに 23 回にわたる会合を開いており、依存問題対策に関する評価・提言を求める諮問に対して、中間答申を含めて 6 回の答申を取りまとめ、21 世紀会に提出してきた。

2019 年度からは、21 世紀会は、依存問題対策に関する実施状況報告書を毎年作成しており、有識者会議はそれに対応する形で対策に関する評価・提言を取りまとめている。

2024 年 8 月に出された 2023 年度の対策に関する答申には、次頁に示す表の 13 項目について評価・提言が記載されている（パチンコ・パチスロ産業依存対策有識者会議、2024）。なお、こうした答申は、パチンコ・パチスロ産業 21 世紀会のウェブサイトで読むことができる。

有識者会議の答申において、パチンコ・パチスロ産業の取組の中には課題が指摘されているものがある一方で、多くの取組が高く評価されており、例えば、上記の答申では、最後の部分で「遊技業界の依存問題対策が、全体して（原文ママ）高みに向かっていることは間違いないと思われる。政府の第 2 次基本計画で示されていた諸課題についても、対応する施策を一つ一つ着実に実行に移していることはアドバイザー制度の項や自己申告・家族申告プログラムの項などで言及してきたとおりである」と総括されている。

今回のパチンコ・パチスロ遊技障害研究会の調査結果によって、パチンコ・パチスロとともに、公営ギャンブルに関する依存問題対策も同時に、また互いが連携しながら進められていくことの意義が示唆されたように見える。公営ギャンブルにおける取組の企画や遂行においても、パチンコ・パチスロ産業の取組やその評価結果は参考になる部分があるのではないかと思われる。

表　2024 年 8 月に出された答申における項目

――

（1）　「リカバリーサポート・ネットワークの相談体制の強化及び機能拡充のための支援」及び「リカバリーサポート・ネットワークの相談データの分析等による相談者の実態把握」について

（2）　「安心パチンコ･パチスロアドバイザー」制度の充実について

（3）　依存防止を啓発する広告･宣伝を推進するための全国的な指針の策定について

（4）　18 歳未満立入禁止対応の徹底について

（5）　普及啓発の推進について

（6）　自己申告・家族申告プログラムの普及と改善について

（7）　ぱちんこ営業所の銀行 ATM 及びデビットカードシステムの撤去等について

（8）　依存問題の予防と解決に取り組む民間団体等に対する経済的支援の実施について

（9）　都道府県選定「依存症専門医療機関」の広報協力について

（１０）第三者機関「パチンコ・パチスロ産業依存対策有識者会議」からの評価・提言に基づく依存防止対策の見直しと改善について

（１１）「一般社団法人遊技産業健全化推進機構」による依存防止対策実施状況調査の実施について

（１２）各地域の包括的な連携協力体制への参画について

（１３）出玉規制を強化した遊技機の普及、出玉情報等を容易に確認できる遊技機の開発・導入について

――

【引用資料】

パチンコ・パチスロ産業依存対策有識者会議，2024「答申 遊技業界における 2023 年度の依存問題対策全般についての評価及び提言」，パチンコ・パチスロ産業 21 世紀会ウェブサイト（https://www.anshingoraku.link/izonmondaitaisaku-hyouka-teigen2024.html）

（坂元章）

第２章　各種ギャンブル等への参加状況

１．直近１年での趣味・娯楽の行為者率

図表 2-1 は、本調査の対象者である「過去１年以内に、パチンコ・パチスロ、競馬、ボートレース、競輪、オートレースのいずれかを行ったことがある人」をスクリーニングするために用意した趣味・娯楽項目と、その単純集計結果である（以下、「パチンコ・パチスロ」、「競馬」、「ボートレース」、「競輪」、「オートレース」をあわせて「ギャンブル等[11]」と表記する）。

図表 2-1　直近１年での趣味・娯楽の行為者率

		最近１年以内にしたことがある	最近１年以内にはしていないが、**１年以上前に**したことがある	生涯経験率	今までに一度もしたことがない	合計 n=5356
a	国内旅行（日帰り含む）	62.9	34.4	97.3	2.7	100.0
b	海外旅行	7.6	56.2	63.8	36.2	100.0
c	コンサート、ライブに行く	21.5	56.3	77.8	22.2	100.0
d	遊園地、水族館、美術館などに行く	37.6	59.1	96.7	3.3	100.0
e	映画館で映画を見る	44.8	52.1	96.8	3.2	100.0
f	スポーツ、運動をする	54.3	39.9	94.2	5.8	100.0
g	スポーツ観戦をする（TV等含む）	66.7	25.0	91.7	8.3	100.0
h	読書	60.4	34.2	94.6	5.4	100.0
i	飲酒	80.6	14.4	95.0	5.0	100.0
j	喫煙	45.4	42.7	88.1	11.9	100.0
k	宝くじ購入	43.0	26.1	69.1	30.9	100.0
l	LOTO購入	25.7	27.8	53.4	46.6	100.0
m	ナンバーズ購入	20.2	35.3	55.5	44.5	100.0
n	スポーツくじ（サッカーくじなど）購入	21.1	23.3	44.4	55.6	100.0
o	パチンコ・パチスロ（ゲームセンターは除く）	56.4	29.0	85.4	14.6	100.0
p	競馬の馬券購入	61.0	19.7	80.7	19.3	100.0
q	ボートレースの舟券購入	21.3	20.4	41.6	58.4	100.0
r	競輪の車券購入	19.5	17.6	37.2	62.8	100.0
s	オートレースの車券購入	11.7	12.6	24.3	75.7	100.0
t	カジノ	3.1	18.3	21.3	78.7	100.0
u	ソーシャルゲームでのガチャへの課金	19.5	14.5	34.0	66.0	100.0
v	証券等取引、FXなど	35.2	9.3	44.5	55.5	100.0

※「生涯経験率」は、「最近1年以内にしたことがある」と「最近１年以内にはしていないが、1年以上前にしたことがある」を合算したもの。

[11] 日本の法律上、「競馬」、「ボートレース」、「競輪」、「オートレース」はギャンブルに該当するが、「パチンコ・パチスロ」はギャンブルではなく「遊技」とされている。そのため、パチンコ・パチスロはギャンブルには分類されないが、ここでは便宜的に「ギャンブル等」と表記することとした。

これらの行為者率は、「スクリーニング前」の結果ではなく、「スクリーニング後」の結果である。すなわち、本調査では、「ｏ．パチンコ・パチスロ」～「ｓ．オートレースの車券購入」までのいずれかにおいて「最近１年以内にしたことがある」と回答した人のみを調査対象としており、調査会社からはスクリーニング後のデータしか納品されていないため、これらは「広く一般の人びとがどのような行動をしているか」ではなく、あくまで「ギャンブル等を直近１年間に１回以上したことがある人」の直近１年の行為者率であることに注意されたい。

それを踏まえた上で、図表 2-1 をみると、パチンコ・パチスロ、競馬、ボートレース、競輪、オートレースの５種目のみに限って言えば、直近１年での行為者率がもっとも高かったのは「競馬」（61.0%）であり、次いで「パチンコ・パチスロ」（56.4%）となっていた[12]。「ボートレース」や「競輪」はいずれも２割前後であり、「オートレース」は１割強であることから、これらの種目は、ギャンブル等を年に１回以上行う人の中でもそれほど多くの人が参加しているわけではないことがうかがえる。生涯経験率も同様で、「パチンコ・パチスロ」や「競馬」においては８割以上の人が経験しているのに対し、「ボートレース」や「競輪」では４割前後、「オートレース」では２割５分となっていた。

２．ギャンブル等の種類別　参加状況

続いて、それぞれのギャンブル等における参加状況の詳細を見ていく。

本節ではまず、パチンコ・パチスロおよび公営競技の参加者に共通して訊ねた項目について取り上げる。その後、第３節ではパチンコ・パチスロユーザーのみを対象とした項目を、第４節では公営競技参加者のみを対象とした項目を取り上げていくこととする。

なお、本節以降では、特定のギャンブル等の種目について「最近１年以内にはしていない」と回答した人は非該当として処理しているため、ギャンブル等の種目によって回答者数（n）が異なる点に注意されたい。

１）参加頻度

まずは、パチンコ・パチスロおよび公営競技、それぞれの参加頻度を見ていく。

本調査では、パチンコ・パチスロについては、「最近１年間で、あなたは、どれくらいの頻度でパチンコ・パチスロ店でパチンコ・パチスロをしましたか。」という質問によって、公営競技については、「最近１年間で、あなたは、以下の公営競技の投票券をどれくらいの頻度で購入しましたか。競技場、場外、オンラインを含めた頻度を教えてください。」という質問によって、それぞれの参加頻度を訊ねた。なお、公営競技４種については、高頻度の選択肢を「週４回以上」としてまとめて訊ねた一方で、「パチンコ・パチスロ」について

[12] なお、久里浜医療センターの 2023 年調査において、（直近１年でいずれかのギャンブル等をしたことがある人に限らない）一般の人びとが「過去１年間で経験したギャンブルの種類」では、パチンコ・パチスロ、競馬、ボートレース、競輪、オートレースの５種目のみに限って言えば「パチンコ」が 33.2%でもっとも行為者が多く、次いで「競馬」（24.2%）、「パチスロ」（23.1%）、「競艇」（6.6%）、「競輪」（4.3%）、「オートレース」（1.4%）となっている（久里浜医療センター，2024b：20 参照）。

は、2017 年調査との比較のため、「週 4～5 回程度」と「週 6～7 回程度」に分割して頻度を訊ねている。また、図表 2-2 の最下段に示した「1 年あたりの平均参加頻度」は、各頻度を 1 年間あたりの回数に換算した上で、各頻度の階級値[13]をとって算出した[14]。

その結果（図表 2-2)、「パチンコ・パチスロ」では、「月 2～3 回程度」から「週に 2～3 回程度」参加する人がそれぞれ 15～20%程度おり、「1 年あたりの平均参加頻度」も 55 回と、公営競技に比べ、高頻度で参加する人が多い種目であることがわかった。

「競馬」は、「1 年あたりの平均参加頻度」が 44 回となっており、「年に 1 回程度」から「週 2～3 回程度」までを選択した人がいずれも 1 割以上と分散が大きいが、高頻度で参加している人も多くいることがわかる。

図表 2-2　ギャンブル等の種目別　参加頻度

	パチンコ・パチスロ	競馬	ボートレース	競輪	オートレース
年に1回程度	6.3	10.2	15.9	15.4	14.3
半年に1回程度	8.9	12.0	15.5	12.9	14.8
2～3ヶ月に1回程度	12.8	15.7	18.5	16.5	15.6
月に1回程度	14.0	13.3	17.1	16.2	21.1
月に2～3回程度	20.5	14.5	14.2	15.3	15.3
週に1回程度	15.5	17.0	8.0	8.8	9.4
週に2～3回程度	15.1	13.6	6.1	8.8	5.4
週に4～5回程度	4.9	3.8	4.7	6.1	4.1
週に6～7回程度	2.1				
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n	3021	3267	1139	1046	629
1年あたりの平均参加頻度	54.89	44.33	33.17	41.27	32.06

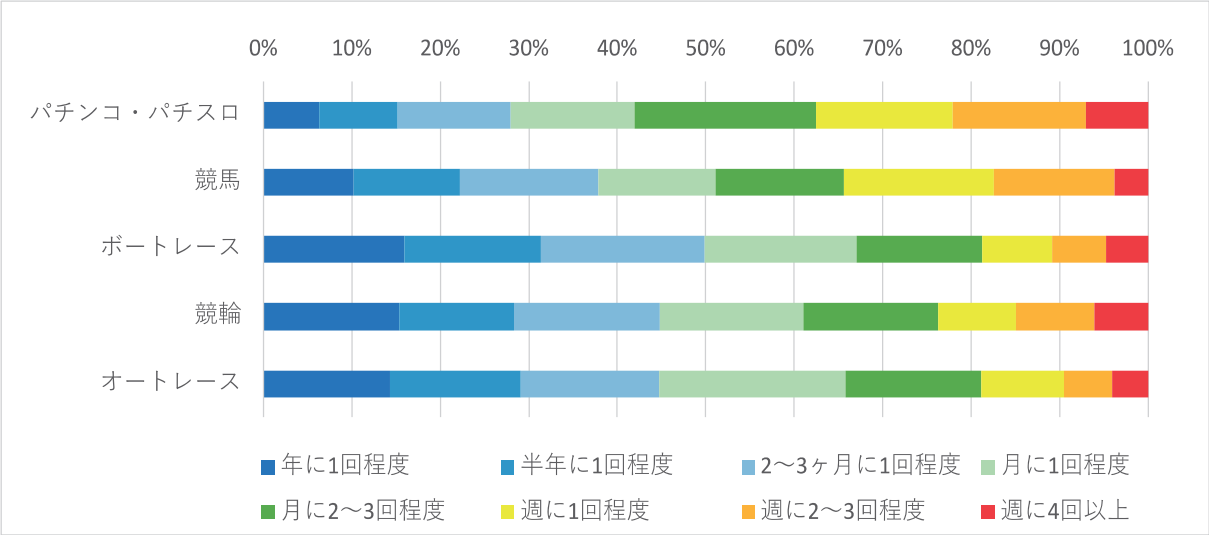
[13] 「階級値」とは各階級（≒選択肢）の中央に位置する値のことを指す。例えば、選択肢が「週 2～3 日」だった場合には、その中間の値である「週 2.5 日」が階級値となる。

[14] 具体的な方法としては、「年に 1 回程度」は「年 1 回」、「半年に 1 回程度」は「年 2 回」、「2～3 ヶ月に 1 回程度」は年 4～6 回となるため階級値をとり「年 5 回」、「月に 1 回程度」は「年 12 回」、「月に 2～3 回程度」は、年 24～36 回となるため階級値をとり「年 30 回」とした。また、週あたりの頻度においては、1 年を 52 週として考え、「週に 1 回程度」は「年 52 回」、「週 2～3 回程度」は年 104～156 回となるため階級値をとり「年 130 回」、「週 4 回以上」は「週 4～7 日」と考え、年 208～364 回となるため階級値をとり「年 286 回」とした。

また、本文中に記載したとおり、公営競技 4 種については、高頻度の選択肢を「週 4 回以上」としてまとめて訊ねた一方で、「パチンコ・パチスロ」については、「週 4～5 回程度」と「週 6～7 回程度」に分割して頻度を訊ねている。このような選択肢の違いによって年平均に違いが出てしまうことを防ぐため、年平均を算出する際には、パチンコ・パチスロにおいても「週 4～5 回」と「週 6～7 回」を統合し、「週 4 回以上」としてまとめた上で、公営競技と同様「年 286 回」という暫定値を与えて計算している。

なお、これ以降に続く各ギャンブル等の「使用額」、「負け額」、「店や競技場での滞在時間」等においても、「各階級の階級値をとって平均値を算出した」と記載されている場合には、上述した方法と同様の手続きを経て平均値を算出している。

図表 2-3　ギャンブル等の種目別　参加頻度（グラフ）



「ボートレース」、「競輪」、「オートレース」は、「パチンコ・パチスロ」や「競馬」に比べ、「年に 1 回」から「半年に 1 回」といった低頻度層が若干多い傾向にある。また、この 3 種目間で比較を行った場合、クロス集計における参加頻度ではあまり大きな差があるようには見えないものの、図表 2-3 のグラフを参照した場合には、「競輪」において若干高頻度層が多いことがわかる。また、「ボートレース」や「オートレース」が「年平均」32～33 回であるのに対し、「競輪」は 41 回となっており、「競馬」とほとんど変わらない参加頻度となっていた。

２） １年前と比べた参加時間の変化

続いて、「1 年前と比べ、［当該ギャンブル等］[15]をする時間に変化はありましたか。」という質問によって、それぞれの参加時間の変化を訊ねた。

図表 2-4　ギャンブル等の種目別　1 年前と比べた参加時間の変化

	増えた	変わらない	減った	始めたのは最近1年以内	合計	n
パチンコ・パチスロ	15.8	43.9	38.2	2.1	100.0	3021
競馬	14.4	66.2	16.5	2.9	100.0	3267
ボートレース	16.8	59.4	20.3	3.6	100.0	1139
競輪	22.9	52.7	17.7	6.7	100.0	1046
オートレース	18.9	57.2	19.6	4.3	100.0	629

その結果、「競輪」のみ、1 年前と比べて参加時間が「増えた」人が「減った」人よりも多くなっていた。一方で、「パチンコ・パチスロ」、「競馬」、「ボートレース」、「オートレー

[15] ［当該ギャンブル等］には、「パチンコ・パチスロ」あるいは「公営競技の各種目名」が入る。以下同様。

ス」ではいずれも、1 年前と比べて参加時間が「増えた」と回答した人よりも「減った」と回答した人の方が多くなっていた。中でも、「パチンコ・パチスロ」では、約 4 割が「減った」と回答しており、他と比べ参加時間が減った人が多いことがうかがえる。

また、「競馬」は、他と比べ、参加時間が 1 年前と「変わらない」とする回答が 66.2%と多く、「増えた」と回答した人も「減った」と回答した人も 15%前後であることから、参加状況が比較的安定している競技であると言えるだろう。

３）各ギャンブル等の使用額

次に、各ギャンブル等に使用した金額について見ていく。

使用額については、「最近 1 年間で、あなたは 1 ヶ月あたり、平均してどれくらいの金額を［当該ギャンブル等］に使いましたか。」という質問によって、最近 1 年における 1 か月あたりの平均使用額を訊ねた。また、図表 2-5 における最下段の「平均使用額」は、各階級の階級値をとって平均値を算出した。その際、「20 万円を超える額」は暫定的に「30 万円」とした。

図表 2-5　ギャンブル等の種目別　使用額

	パチンコ・パチスロ	競馬	ボートレース	競輪	オートレース
5千円まで	17.7	42.5	43.9	48.9	47.5
5千円を超えて1万円まで	19.8	22.1	22.3	18.2	19.9
1万円を超えて2万円まで	22.8	15.2	15.6	14.5	15.6
2万円を超えて4万円まで	22.8	10.8	11.1	10.5	9.2
4万円を超えて8万円まで	10.3	4.7	2.9	3.2	4.0
8万円を超えて12万円まで	3.7	2.5	1.5	1.7	1.9
12万円を超えて16万円まで	0.9	0.3	0.5	0.5	0.3
16万円を超えて20万円まで	0.2	0.4	0.2	0.5	0.3
20万円を超える額	1.9	1.4	2.0	2.1	1.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n	3021	3267	1139	1046	629
平均使用額	29357.83	18944.75	18775.24	19371.41	16907.79

図表 2-5 を見ると、「パチンコ・パチスロ」では、半数近い 45.6%が「1 万円から 4 万円まで」と回答しており、月平均もほぼ 3 万円と、他と比較して高額のお金が使用されていることがわかる。一方で、公営競技はいずれも、4～5 割が「5 千円まで」の少額で遊んでおり、月平均は 1.5～2 万円の間となっていた。

４）各ギャンブル等の負け額

次に、各ギャンブル等での負け額について見ていく。

負け額は、「最近 1 年間で、あなたは 1 ヶ月あたり、平均していくらぐらい［当該ギャンブル等］で負けましたか。」という質問によって、最近 1 年における 1 か月あたりの平均

負け額を訊ねた。また、図表 2-6 の最下段「平均負け額」は、各階級の階級値をとって平均値を算出した。その際、「負けていない」は「0 円」、「20 万円を超える額」は暫定的に「30 万円」とした。

その結果、おおよその傾向は使用額と変わらず、「パチンコ・パチスロ」でもっとも負け額が大きくなる傾向が見られた。具体的には、「パチンコ・パチスロ」では、「5 千円まで」から「1 万円を超えて 2 万円まで」がそれぞれ 2 割弱、「2 万円を超えて 4 万円まで」が約 15%となっており、公営競技に比べ、「5 千円以上」負けたと回答する人が多い傾向にあった。また、「平均負け額」を見てみても、1 か月の平均負け額は 2 万 5 千円を超えており、他と比較して高額であった。一方で、公営競技はいずれも半数近くが負け額の月平均は「5 千円まで」と回答しており、「平均負け額」も 1 万円弱～1 万 5 千円と、パチンコ・パチスロに比べ 1 万円以上低い金額で抑えられていた。

図表 2-6　ギャンブル等の種目別　負け額

	パチンコ・パチスロ	競馬	ボートレース	競輪	オートレース
負けていない	14.3	12.5	13.2	13.8	16.7
5千円まで	18.5	45.2	46.5	48.3	49.3
5千円を超えて1万円まで	19.9	18.5	18.7	16.5	15.6
1万円を超えて2万円まで	18.8	10.9	10.4	10.9	11.6
2万円を超えて4万円まで	14.6	6.7	4.7	5.7	3.3
4万円を超えて8万円まで	7.8	3.1	2.7	2.0	1.7
8万円を超えて12万円まで	2.8	1.3	1.4	0.7	0.6
12万円を超えて16万円まで	0.6	0.2	0.4	0.2	0.2
16万円を超えて20万円まで	0.4	0.3	0.0	0.5	0.0
20万円を超える額	2.4	1.2	1.9	1.4	1.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n	3021	3267	1139	1046	629
平均負け額	25448.53	13890.42	14989.03	13107.07	9912.56

５）店や競技場での滞在時間

次に、パチンコ・パチスロ店、および公営競技場における、滞在時間を見ていく。

滞在時間については、パチンコ・パチスロについては、「最近 1 年間で、あなたがパチンコ・パチスロ店でパチンコ・パチスロをした日には、平均して何時間くらいしましたか。」と訊ねた一方で、公営競技については、「最近 1 年間で、公営競技の競技場（競馬場、ボートレース場、競輪場、オートレース場）に行った日には、平均して何時間くらいいましたか。」というように、種目にかかわらず、滞在時間をまとめて訊ねた。

なお、図表 2-7 の最下部にある「平均滞在時間」については、これまで同様、階級値から算出した[16]。

[16] なお、パチンコ・パチスロ店の営業時間は条例によって決められており、最大値は 16 時間である。一方、公営競技場では、営業時間は各種目や各競技場によって異なるため、最長の選択肢は「8 時間以上」とし、平均の算出

その結果、パチンコ・パチスロ店の場合、「2～3 時間」と回答した人が 25%ともっとも多く、「1 時間以上～2 時間未満」、「3 時間以上～4 時間未満」、「4 時間以上～5 時間未満」もそれぞれ 1 割以上となっていた。それに対し、公営競技場の場合には、「1 時間未満」と回答した人が 2 割と、もっとも多く、競技場を訪れたとしてもすぐに帰ってしまう人が一定数存在することが確認できた。それ以外の選択肢では、「1 時間以上～2 時間未満」から「5 時間以上 6 時間未満」までがいずれも 1 割台となっており、パチンコ・パチスロに比べて分散が大きいことが確認された。

図表 2-7　店や競技場での滞在時間

	パチンコ・パチスロ	公営競技
1時間未満	6.1	20.9
1時間以上～2時間未満	16.9	11.9
2時間以上～3時間未満	24.9	18.5
3時間以上～4時間未満	19.9	15.4
4時間以上～5時間未満	13.8	13.1
5時間以上～6時間未満	8.4	10.3
6時間以上～7時間未満	3.5	4.5
7時間以上～8時間未満	2.7	2.7
8時間以上～10時間未満	2.0	2.6
10時間以上～12時間未満	0.9	
12時間以上～14時間未満	0.3	
14時間以上～16時間	0.7	
合計	100.0	100.0
n	3021	2885
平均滞在時間	3.54	3.20

平均滞在時間を見た場合には、「パチンコ・パチスロ」が 3.5 時間、「公営競技」が 3.2 時間となっており、「パチンコ・パチスロ」と「公営競技」の間にそれほど大きな差は見られなかった。

６）参加動機

最後に、パチンコ・パチスロと公営競技を行う人では、参加動機に違いがあるかどうかについて見ていく。

（１）使用尺度

参加動機の測定には Komoto et al.（2022）による「日本語版 修正ギャンブル動機尺度（J-MGMS）」を使用した。本尺度は、「偉くなったような気分にさせてくれるから」や「自分のことを有能と感じることができるから」、「自制心の強さを試すことができるから」、「他の人たちから羨ましがられたいから」、「自分の才能に気付くのが楽しいから」といった 5 項目からなる「万能感（Identity for achievement）」因子、「張りつめた気持ちを和らげるために私が知っている最良の方法だから」や「強烈な感覚を体験できるから」、「雑念を払うことで気持ちをすっきりとさせることができるから」、「スリルや強烈な感覚を体験させてくれるから」といった 4 項目からなる「非現実感追求（Identity for diffusion）」因子、「欲しいものを買うお金を手に入れるため」や「手早く簡単にお金が得られるから」、「大金が手に入るから」といった 3 項目からなる「金銭的利益（Monetary gain）」因子、

においては暫定的に「10 時間」とした。

「お金を得るためではあるが、続けるべきか否か迷う時がある」や「お金を得るためではあるが、どうやって止めようかと悩む時がある」、「お金を得るためではあるが、本当に自分にとって良いことか否か迷う事がある」といった 3 項目からなる「無動機（Moratorium（Amotivation））」因子の、計 4 因子からなっており、それぞれについて「はい」あるいは「いいえ」の 2 件法で回答を求めるものである。

本調査では、パチンコ・パチスロと公営競技、それぞれを行う動機に相違があるか否かを見るため、それぞれについて、「パチンコ・パチスロをする理由についてどの程度あてはまりますか。はい、いいえでお答えください。」および「公営競技（競馬、ボートレース、競輪、オートレース）をする理由についてどの程度あてはまりますか。はい、いいえでお答えください。」といった 2 問を使用し、それぞれ回答を求めた。

単純集計結果は図表 2-8 のとおりである。

図表 2-8　「日本語版 修正ギャンブル動機尺度（J-MGMS）」単純集計結果

因子	質問項目	パチンコ・パチスロ（n=3021）		公営ギャンブル（n=3752）	
		はい	いいえ	はい	いいえ
万能感	偉くなったような気分にさせてくれるから	8.0	92.0	6.6	93.4
万能感	自分のことを有能と感じることができるから	10.1	89.9	10.5	89.5
無動機	お金を得るためではあるが、続けるべきか否か迷う時がある	62.7	37.3	41.9	58.1
万能感	自制心の強さを試すことができるから	16.2	83.8	17.0	83.0
無動機	お金を得るためではあるが、どうやって止めようかと悩む時がある	47.1	52.9	28.2	71.8
金銭的利益	欲しいものを買うお金を手に入れるため	34.5	65.5	30.5	69.5
非現実感追求	張りつめた気持ちを和らげるために私が知っている最良の方法だから	31.0	69.0	21.5	78.5
非現実感追求	強烈な感覚を体験できるから	39.6	60.4	39.0	61.0
万能感	他の人たちから羨ましがられたいから	7.8	92.2	7.9	92.1
非現実感追求	雑念を払うことで気持ちをすっきりとさせることができるから	35.2	64.8	23.6	76.4
万能感	自分の才能に気付くのが楽しいから	9.1	90.9	11.8	88.2
金銭的利益	手早く簡単にお金が得られるから	49.7	50.3	41.8	58.2
無動機	お金を得るためではあるが、本当に自分にとって良いことか否か迷う事がある	47.7	52.3	33.0	67.0
金銭的利益	大金が手にはいるから	25.1	74.9	31.6	68.4
非現実感追求	スリルや強烈な感覚を体験させてくれるから	58.8	41.2	61.8	38.2

なお、これらの項目をそれぞれ因子分析（主因子法、プロマックス回転）にかけた結果、図表 2-9 のとおりの結果となり、パチンコ・パチスロの場合でも公営競技の場合でも、先行研究と同様の 4 因子構造をとることが確認された。

図表 2-9　（参考）動機尺度の因子分析結果

パチンコ・パチスロ

	1	2	3	4
自分のことを有能と感じることができるから［万能感］	0.789	0.164	0.309	0.289
偉くなったような気分にさせてくれるから［万能感］	0.698	0.163	0.300	0.268
自分の才能に気付くのが楽しいから［万能感］	0.651	0.133	0.314	0.296
他の人たちから羨ましがられたいから［万能感］	0.574	0.176	0.289	0.296
自制心の強さを試すことができるから［万能感］	0.533	0.204	0.341	0.262
お金を得るためではあるが、本当に自分にとって良いことか否か迷う事がある［無動機］	0.194	0.728	0.336	0.390
お金を得るためではあるが、どうやって止めようかと悩む時がある［無動機］	0.198	0.710	0.346	0.398
お金を得るためではあるが、続けるべきか否か迷う時がある［無動機］	0.133	0.701	0.254	0.413
強烈な感覚を体験できるから［非現実感追求］	0.323	0.306	0.710	0.309
スリルや強烈な感覚を体験させてくれるから［非現実感追求］	0.221	0.261	0.646	0.218
張りつめた気持ちを和らげるために私が知っている最良の方法だから［非現実感追求］	0.389	0.270	0.516	0.184
雑念を払うことで気持ちをすっきりとさせることができるから［非現実感追求］	0.363	0.236	0.482	0.134
欲しいものを買うお金を手に入れるため［金銭的利益］	0.318	0.361	0.202	0.654
手早く簡単にお金が得られるから［金銭的利益］	0.215	0.433	0.237	0.648
大金が手にはいるから［金銭的利益］	0.347	0.311	0.322	0.594

因子相関行列

	1	2	3	4
1	1	0.251	0.469	0.404
2	0.251	1	0.437	0.542
3	0.469	0.437	1	0.355
4	0.404	0.542	0.355	1

因子抽出法: 主因子法
回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

公営ギャンブル

	1	2	3	4
自分のことを有能と感じることができるから［万能感］	0.748	0.274	0.274	0.305
偉くなったような気分にさせてくれるから［万能感］	0.649	0.273	0.215	0.257
自分の才能に気付くのが楽しいから［万能感］	0.628	0.260	0.302	0.348
他の人たちから羨ましがられたいから［万能感］	0.582	0.281	0.290	0.289
自制心の強さを試すことができるから［万能感］	0.535	0.340	0.230	0.382
お金を得るためではあるが、本当に自分にとって良いことか否か迷う事がある［無動機］	0.337	0.793	0.480	0.373
お金を得るためではあるが、どうやって止めようかと悩む時がある［無動機］	0.387	0.744	0.456	0.378
お金を得るためではあるが、続けるべきか否か迷う時がある［無動機］	0.265	0.715	0.460	0.249
手早く簡単にお金が得られるから［金銭的利益］	0.263	0.463	0.692	0.241
大金が手にはいるから［金銭的利益］	0.344	0.422	0.685	0.337
欲しいものを買うお金を手に入れるため［金銭的利益］	0.331	0.457	0.683	0.238
強烈な感覚を体験できるから［非現実感追求］	0.329	0.321	0.269	0.745
スリルや強烈な感覚を体験させてくれるから［非現実感追求］	0.234	0.228	0.191	0.587
雑念を払うことで気持ちをすっきりとさせることができるから［非現実感追求］	0.512	0.342	0.193	0.544
張りつめた気持ちを和らげるために私が知っている最良の方法だから［非現実感追求］	0.487	0.340	0.193	0.539

因子相関行列

	1	2	3	4
1	1	0.454	0.390	0.519
2	0.454	1	0.592	0.464
3	0.390	0.592	1	0.331
4	0.519	0.464	0.331	1

因子抽出法: 主因子法
回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

（２）パチンコ・パチスロ参加動機の比較

続いて、パチンコ・パチスロと公営競技それぞれの参加動機について、「はい」ならば 1 点、「いいえ」ならば 0 点を与えて得点化し、各因子の合成得点を算出した上で[17]、パチン

[17] 合成尺度作成時には Cronbach の α 係数を算出し、合成の妥当性を検討した。各因子の信頼性係数は以下のとお

コ・パチスロと公営競技との間にはどの程度参加動機に違いがあるのかを見るため、t 検定によって平均値の比較を行った。

比較に際しては、本調査の調査対象者には複数のギャンブル等に参加している人も多いため、①「パチンコ・パチスロのみをする人」におけるパチンコ・パチスロをする動機と「公営競技のみをする人」における公営競技をする動機の比較、および、②「パチンコ・パチスロと公営競技の両方をする人」におけるパチンコ・パチスロをする動機と公営競技をする動機の比較、の 2 パターンで比較を行った。

結果は以下のとおりである。

① 「パチンコ・パチスロのみをする人」におけるパチンコ・パチスロをする動機と、「公営競技のみをする人」における公営競技をする動機の比較

「パチンコ・パチスロのみをする人」におけるパチンコ・パチスロをする動機と「公営競技のみをする人」における公営競技をする動機の比較では、図表 2-10 および図表 2-11 のとおり、すべての因子において有意差が見られた。

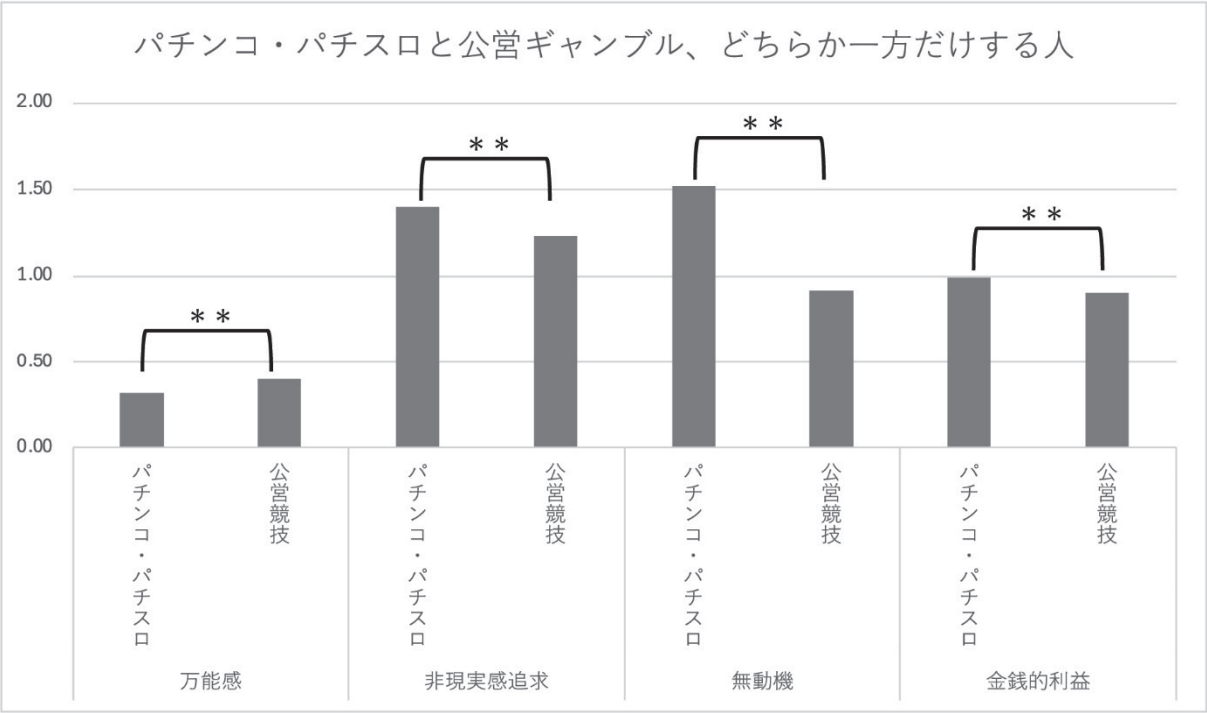
具体的には、「公営競技のみをする人」は、「パチンコ・パチスロのみをする人」に比べ、「万能感」をより多く求める傾向にあった一方で、「パチンコ・パチスロのみをする人」は、「公営競技のみをする人」に比べ、「非現実感追求」「無動機」「金銭的利益」をより多く求める傾向にあった。

図表 2-10　記述統計量と t 検定結果
「パチンコ・パチスロのみをする人」におけるパチンコ・パチスロをする動機得点と
「公営競技のみをする人」における公営競技をする動機得点

		平均値	標準偏差	度数	p
万能感（範囲 0～5点）	パチンコ・パチスロ	0.32	0.818	1604	0.004
	公営競技	0.40	0.877	2335	
非現実感追求（範囲 0～4点）	パチンコ・パチスロ	1.40	1.297	1604	＜0.001
	公営競技	1.23	1.206	2335	
無動機（範囲 0～3点）	パチンコ・パチスロ	1.52	1.203	1604	＜0.001
	公営競技	0.92	1.12	2335	
金銭的利益（範囲 0～3点）	パチンコ・パチスロ	0.99	1.049	1604	0.007
	公営競技	0.90	1.083	2335	

りであり、一部の因子においては若干 α 係数が低めであったものの、合成が不可能な値ではないと判断した。
【パチンコ・パチスロ】万能感因子（5 項目）α＝.774、非現実感追求因子（4 項目）α＝.678、金銭的利益因子（3 項目）α＝.665、無動機因子（3 項目）α＝.757。
【公営競技】万能感因子（5 項目）α＝.453、非現実感追求因子（4 項目）α＝.692、金銭的利益因子（3 項目）α＝.731、無動機因子（3 項目）α＝.794。

図表 2-11　各動機の平均点の比較
「パチンコ・パチスロのみをする人」におけるパチンコ・パチスロをする動機得点と
「公営競技のみをする人」における公営競技をする動機得点



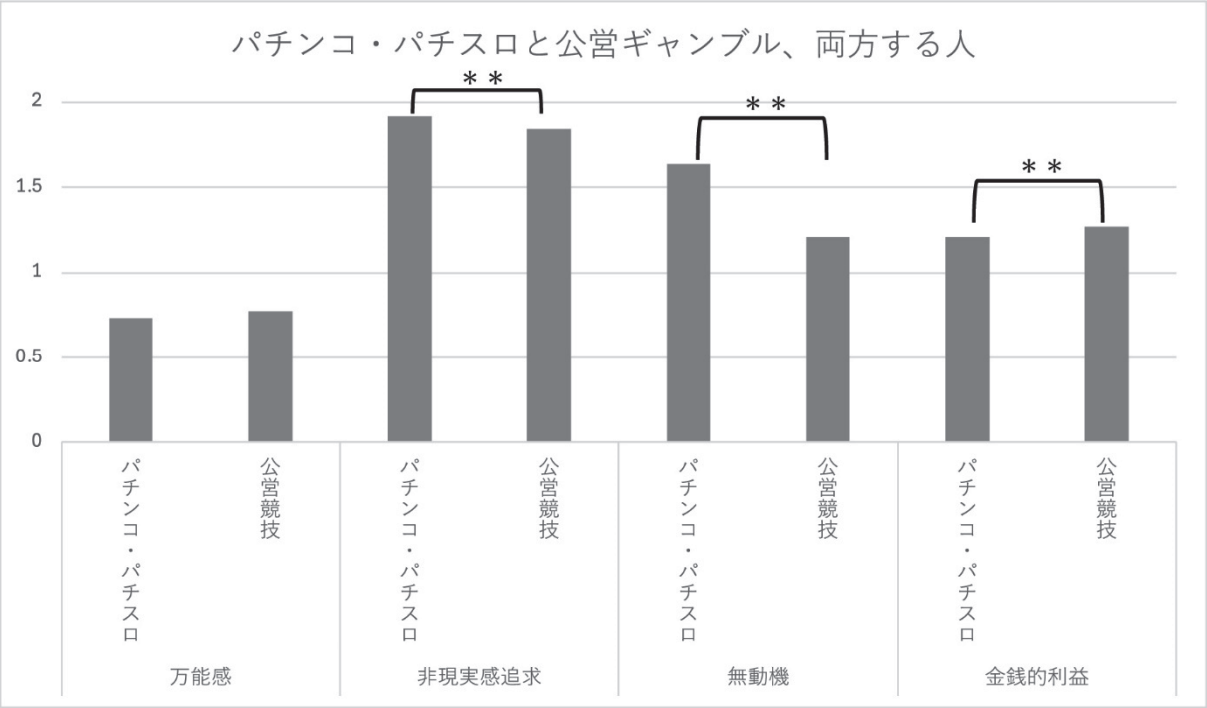
② 「パチンコ・パチスロと公営競技の両方をする人」におけるパチンコ・パチスロをする動機と公営競技をする動機の比較

では、「パチンコ・パチスロと公営競技の両方をする人」では、それぞれに求めるものは異なるのだろうか。「パチンコ・パチスロと公営競技の両方をする人」におけるパチンコ・パチスロをする動機と公営競技をする動機の比較では、図表 2-12 および図表 2-13 のとおり、「万能感」以外の 3 因子で有意差が見られた。

図表 2-12　記述統計量と t 検定結果
「パチンコ・パチスロと公営競技の両方をする人」における
パチンコ・パチスロをする動機得点と公営競技をする動機得点

		平均値	標準偏差	度数	p
万能感（範囲 0～5点）	パチンコ・パチスロ	0.73	1.305	1417	0.093
	公営競技	0.77	1.342	1417	
非現実感追求（範囲 0～4点）	パチンコ・パチスロ	1.92	1.401	1417	0.007
	公営競技	1.84	1.38	1417	
無動機（範囲 0～3点）	パチンコ・パチスロ	1.64	1.228	1417	＜0.001
	公営競技	1.21	1.28	1417	
金銭的利益（範囲 0～3点）	パチンコ・パチスロ	1.21	1.129	1417	0.009
	公営競技	1.27	1.203	1417	

図表 2-13　各動機の平均点の比較
「パチンコ・パチスロと公営競技の両方をする人」における
パチンコ・パチスロをする動機得点と公営競技をする動機得点



具体的には、「パチンコ・パチスロと公営競技の両方をする人」では、パチンコ・パチスロに対しては「非現実感追求」や「無動機」をより多く求めるのに対し、公営競技に対しては「金銭的利益」をより多く求めていることがわかった。

【コラム②】

日本語版修正ギャンブル動機尺度の紹介とその意義

1. 介入目標の転換　ー「行動」から「動機」へ

ギャンブル問題の評価はギャンブルに関する「動機」「行動」「結果」という三つの観点からで行われる。これらはいずれも介入目標（治療ターゲット）になり得るが、通常は賭け額や頻度などギャンブル行動の修正、あるいは債務などの不都合な結果の防止に焦点が当てられている。そのため、ギャンブル関連刺激に対する回避行動や代替行動によってギャンブルを止めることあるいは減らすことが標準的介入戦略とされている。ただ、問題行動やその結果という客観（他者評価）的所見に焦点を当てる余り、本人とギャンブルとの主観（主体）的関連を表現したギャンブル動機は「言い訳」あるいは「理由付け」として軽視されがちである。そしてこの動機の軽視が、改善に向けた主体性の損失や介入への抵抗による治療脱落の一因にもなっている。それゆえ、問題ギャンブル対策におけるギャンブル動機の重要性を指摘する報告も多い[1)7)]。

ただ、動機に焦点を当てた介入を行うのであれば、適切な動機評価尺度が必要となる。

ギャンブル動機尺度としては The four-factor Gambling Motives Questionnaire-Financial scale（GMQ-F）が繁用されてきたが、知的挑戦や社会的認知などの重要な動機が含まれていない[2)]。それゆえ、自己決定理論（Self-Determination Theory）をベースに、より体系的な動機評価尺度として The Modified Gambling Motivation Scale (MGMS)、およびその日本語版（J-MGMS）が開発されている[4)6)]。この尺度は、知識・情報（「新しい賭け方を知ることは楽しいから」等）、有能感（「自制心の強さを試せるから」等）、興奮（「ワクワクするから」等）、ストレス解消（「雑念を払うことですっきりできるから」等）、社会的認知（「羨ましがられたいから」等）、金銭獲得（「大金が手に入るから」等）、無動機（「お金を得るためだが続けるべきか迷う時がある」等）の 7 因子 28 項目で構成されている。また、知識・情報と有能感を併せて「知的挑戦」とした場合の 6 因子構造においても、妥当性・信頼性が確認されている。（図 1 ）

今回、6 因子版 J-MGMS を用いて、わが国におけるギャンブル問題とギャンブル動機との関連性を調査検討した結果、ギャンブル問題を生じやすい動機と生じにくい動機とがそれぞれ抽出されたので以下に紹介する[5)]。

2．調査の概略

1）方法

ウェブにて、現役ギャンブルプレーヤーを性別年齢層別に均等に無作為抽出した。男女各 80 名計 160 名の参加者に対して J-MGMS および The South Oaks Gambling Screening Japanese Version （J-SOGS）を施行した。そして、J-MGMS 各因子、年齢層・性別・婚姻状況・雇用状況などの属性、ギャンブル頻度と J-SOGS との関連性を線形回帰分析によって評価した。

２）結果

該当数が最も多かった動機は興奮であり、全対象者の 65.0%にみられた。続いて、無動機、金銭獲得、知的挑戦、ストレス解消の順で、社会的承認が最も少なく 18.2%であった。また、若年層は中高年齢層よりも各動機因子をより多く保持していた(p: <0.001 - 0.013)。

問題ギャンブル進行に有意かつ最も大きな影響を与えていた動機は、若年層（20-29 歳）では他者からの承認を求める「社会的認知」（adjusted R2=0.290)、中高年齢層（30-69 歳）では明瞭な動機を伴わない「無動機」(adjusted R2=0.156)であった。ただし、中高年齢層では若年層とは逆に、「社会的認知」がギャンブル問題を抑制する傾向がみられた（p=0.0503; 標準偏回帰係数=-0.220)。一方、全年齢層での「興奮」および中高年齢層での「ストレス解消」はいずれも問題ギャンブルとの関連性は乏しかった。

３）調査からの考察　―ギャンブル障害を予防するための示唆

若年層では、否定的な自己イメージや自己評価を向上させるためにギャンブルを行うことで問題化してゆく傾向が示された。一方、中高年齢層では、目的のないギャンブルが問題ギャンブルにつながりやすいことが明らかになった。しかしながら、社会的承認は若年層とは逆に、無動機によるギャンブルを緩和する役割を果たす可能性が示唆された。

またいずれの年代層においても、期待感や達成感などの興奮や社交性などの自律的な動機は問題ギャンブルに与える影響は少なかった。

このように、本研究の結果は、年齢層による動機の相違を考慮したギャンブル障害への予防や介入の必要性を示唆している。

３．動機に着目したギャンブル問題予防対策の提案

１）より自律的（autonomous）な動機への回帰（第一ステップ）

「当たり」に関連した興奮を求める動機は問題ギャンブルとの関連は乏しく、むしろこの動機を意識化することによる問題ギャンブルへの抑制効果が期待される。しかしこの所見はわが国特有の現象であり、中華文化圏や欧米文化圏からの報告では逆に「興奮」や「ストレス解消」などの自律的な動機と問題ギャンブルとの有意な関連性が指摘されている[1) 6)]。我が国において支配的な集団主義的文化は、集団への一体化欲求とその集団内での自己承認欲求という二つの非自律的（他者依存的）欲求のバランスの上で成立している。それゆえ、ギャンブル問題を含めた心理的負荷により自己決定能力が低下した状況においては、「社会的認知」や「無動機」などの自律性の低い動機が発現しやすいのかもしれない。

それゆえ、介入の第一ステップはその人本来の自律的な動機を再確認した後、その動機に一致した賭け方をすすめることである。例えば、主たる動機が「当たった瞬間の興奮」であるなら、当たり回数が増えるような賭け方、すなわち低価格台のような少額分散型の賭け方に徹するように促す。

２）ギャンブル以外の行動の提案（第二ステップ）　―動機に対応した代替行動 [3)]

「社会的認知」が主たる動機の場合、他者評価を得ることを目的に自己表現の場を確保する。自身の好悪や巧拙、ましてや上達は二の次である。具体的には「スポーツ参加や作品投稿」、「オフラインゲーム」、「ブログ等 SNS を利用した自慢」などがある。

一方、「無動機」の場合は、「何も考えない時間」あるいは空想への没入を試みる。現実逃避が目的であり、実益は二の次である。具体的には「マラソンやジムなどの単調な運動」「独りカラオケ」などがある。また食後の寛ぎや入浴、あるいは皿洗いや草取りなどの単純作業も現実逃避的な代替行動となりうる。

動機が曖昧なままでのギャンブルの反復は虚無感を強め、益々自己決定能力を低下させる。それゆえ、もしギャンブルを続けるのであれば、「パチンコ仲間との交流」や「感覚刺激による認知症予防」など何らかのギャンブル動機を意識しておく。

図1　修正版ギャンブル動機尺度（MGMS）-7因子版　（2択）

A	1	ワクワクするから
F	2	偉くなったような気分にさせてくれるから
E	3	自分のことを有能と感じることができるから
C	4	何よりも一番リラックスできる手段だから
G	5	お金を得るためではあるが、続けるべきか否か迷う時がある
E	6	自制心の強さを試すことができるから
G	7	お金を得るためではあるが、どうやって止めようかと悩む時がある
D	8	お金を得るため
F	9	周囲の人から自分が活動的な人であると思われたいから
B	10	ギャンブルに関する最新の知識を得ることが楽しいから
D	11	欲しいものを買うお金を手に入れるため
A	12	私をとても楽しませてくれるから
C	13	張りつめた気持ちを和らげるために私が知っている最良の方法だから
A	14	強烈な感覚を体験できるから
B	15	新しい賭け方や打ち方を知ることが楽しいから
F	16	他の人たちから羨ましがられたいから
C	17	雑念を払うことで気持ちをすっきりとさせることができるから
E	18	自分の才能に気付くのが楽しいから
A	19	期待した結果を得た瞬間が好きだから
B	20	ゲームの中でどんなことが起きるのか知りたいから
G	21	お金を得るためにプレーするが、ギャンブルで多く得ることはでいないと時々感じる
D	22	手早く簡単にお金が得られるから
C	23	友人らと一緒に過ごす最もよい方法だから
E	24	ゲームや結果を支配できているという感覚を与えてくれるから
G	25	お金を得るためではあるが、本当に自分にとって良いことか否か迷う事がある
F	26	勝ったときには、有力者になったような気分になれるから
D	27	大金が手にはいるから
A	28	スリルや強烈な感覚を体験させてくれるから

A 興奮
B 知識・情報
C ストレス解消
D 金銭獲得
E 有能感
F 社会的認知
G 無動機

文献 4）より

【利益相反】

J-MGM に関わる調査研究はよしの病院と株式会社セガサミーホールディングスとのギャンブル障害対策に関する共同研究契約に基づいて行われた。調査研究に関する費用は総て、株式会社セガサミーホールディングスが負担した。

【文献】

1) Carruthers, C., Platz, L., & Busser, J. (2006). Gambling motivation of individuals who gamble pathologically. Therapeutic Recreation Journal, 40(3), 165.

2) Dechant, K. (2014). Show me the money: Incorporating financial motives into the gambling motives questionnaire. Journal of Gambling Studies, 30(4), 949–965. https://doi.org/10.1007/s10899-013-9386-5

3) 河本泰信.（2021）第 6 章 障害うたがい該当者の性格的・心理的特徴と介入法. パチンコ・パチスロ遊技障害研究成果 最終報告書. 公益財団法人 日工組社会安全研究財団. 40-46.
（http://www.syaanken.or.jp/wp-content/uploads/2021/03/202103_pp01.pdf）

4) Komoto, Y., Kaneko, M., & Nobayashi, K. (2022). Development and evaluation of a modified gambling motivation scale (Japanese version). Journal of Gambling Issues, (50).

5) Komoto, Y. (2024). Role of Motivation in the Progression of Problem Gambling: A Comparison of Early and Late Adults. Journal of Gambling Studies, 1-15. published online 22 June 2024. https://doi.org/10.1007/s10899-024-10331-5

6) Shinaprayoon, T., Carter, N. T., & Goodie, A. S. (2017). The modified gambling motivation scale: Confirmatory factor analysis and links with problem gambling. Journal of Gambling Issues, 37. https://doi.org/10.4309/jgi.2018.37.5

7) Sundqvist, K., Jonsson, J., & Wennberg, P. (2016). Gambling motives in a representative Swedish sample of risk gamblers. Journal of Gambling Studies, 32(4), 1231–1241. https://doi.org/10.1007/s10899-016-9607-9

（河本泰信）

３．パチンコ・パチスロの遊技状況

本研究会では、2017 年にも全国の 18 歳から 79 歳までの 9000 人の男女を無作為抽出した大規模調査（有効回答者数 5060 人）を実施しており、そのうち「直近 1 年間にパチンコ・パチスロをプレーした人」582 人に対して、パチンコ・パチスロにおける参加状況の詳細について訊ねている[18]。

本節では、そうした 2017 年調査の結果も参照しながら、2023 年調査におけるパチンコ・パチスロプレイヤーを対象とした質問項目への回答結果について見ていく。

なお、2017 年調査と 2023 年調査では、図表 2-14 に示したとおり、複数の点で相違があるため、両者の結果を単純に比較することは困難であり、あくまで 2017 年調査の結果は参考値として参照されたい。

図表 2-14　2017 年調査と 2023 年調査の相違点

	2017年調査	2023年調査
対象地域	全国	全国
対象年齢	20～79歳	20～69歳
標本抽出方法	住民基本台帳を用いた無作為抽出	調査会社のモニタを対象とした有意抽出
調査方法	郵送調査	インターネット調査

１）頻度・使用額・負け額

前節では、パチンコ・パチスロと公営競技を比較するかたちで、参加頻度、1 年前と比較した参加機会の変化、使用額と負け額、滞在時間等を見てきた。その結果、「パチンコ・パチスロ」は 1 年前に比べて参加時間が「減った」と回答する人が多かったものの、公営競技に比べ参加頻度は高く、使用額・負け額ともに大きく、滞在時間も長い傾向にあった。

こうした傾向が、今回の調査特有のものであるのかを確認するため、当財団において行った 2017 年調査の結果[19]との比較を行ったところ（図表 2-15）、2017 年調査の中央値[20]と今回調査（2023 年調査）の中央値は完全に一致していた。つまり、パチンコ・パチスロプレイヤーの平均的な行動は、2017 年からほとんど変化していないであろうことが確認された。

[18] 2017 年調査の結果は、日工組社会安全研究財団（2018、2020、2021）参照。

[19] 日工組社会安全研究財団（2020：9）参照。

[20] 中央値とは、データを小さい順に並べた際に、ちょうど真ん中にくる値のことを指す。多くの場合、データの、いわゆる「中心」を知りたい場合には、平均値を算出することが多いが、平均値は、極端に大きい、あるいは極端に小さい値の影響を受けて、私たちが思い描く「中心」とはズレてしまうことがある（例えば、民間給与実態統計によれば、令和 5 年の日本の平均年収は 460 万円とされるが、「本当にみんなそんなにたくさんもらっているのか？」と思う人は多いと思われる）。そうした場合に参照されるのが中央値（令和 5 年の給与分布では「300 万円超 400 万円以下」が中央値となっている）や最頻値（度数がもっとも大きい値のこと。令和 5 年の給与分布では、「300 万円超 400 万円以下」が 16.3%でもっとも多い）である。

図表 2-15　2017 年調査と 2023 年調査の比較
参加頻度、使用額、負け額、滞在時間の中央値

	2017年調査	2023年調査
参加頻度	月に2～3回	月に2～3回
使用額	1万円を超えて2万円まで	1万円を超えて2万円まで
負け額	5千円を超えて1万円まで	5千円を超えて1万円まで
滞在時間	3時間以上4時間未満	3時間以上4時間未満

２）パチンコとパチスロのプレー比率

次に、パチンコとパチスロではどちらをプレーする人が多いのか、パチンコとパチスロのプレー比率について見てみる（図表 2-16）。

その結果、2017 年調査では[21]半数近くが「パチンコだけしている」と回答していたのに対し、2023 年調査では「パチンコだけしている」と回答した人は 3 割を切っており、代わりにパチンコとパチスロ「両方を同じぐらいずつしている」と回答した人の割合が増加していた。

図表 2-16　2017 年調査と 2023 年調査のパチンコとパチスロのプレー比率

	2017年調査	2023年調査
パチンコだけしている	47.7	28.5
主にパチンコをしている	14.2	16.0
両方を同じぐらいずつしている	12.1	27.3
主にパチスロをしている	14.2	17.6
パチスロだけしている	11.8	10.5
合計	100.0	100.0
n	577	3021

３）通常価格台と低価格台のプレー比率

次に、通常台と低価格台のプレー比率について見てみると（図表 2-17）、2017 年調査では[22]、「全て（あるいはほとんど）通常価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーしている」と回答した人と、「全て（あるいはほとんど）低価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーしている」と回答した人が合わせて 5 割超となっており、過半数の人は通常価格か低価格のいずれかに限定してプレーしていた。また、「全て（あるいはほとんど）通常価格台」と回答した人と「通常価格台でプレーすることが多い」と回答した＜通常価格台派＞、そして「全て（あるいはほとんど）低価格台」と回答した人と「低価格台でプレーすることが多い」と回答した＜低価格台派＞は、いずれも 42～43%とほぼ同じ割合であった。

[21] 日工組社会安全研究財団（2020：9 図表 2-2）参照。
[22] 日工組社会安全研究財団（2020：9 図表 2-3）参照。

図表 2-17　2017 年調査と 2023 年調査の通常価格台と低価格台のプレー比率

	2017年調査		2023年調査	
全て（あるいはほとんど）通常価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーしている	23.0	43.2	32.2	52.6
通常価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーすることが多い	20.2		20.4	
低価格の台と通常価格の台とを半々ぐらいでプレーしている	14.1	-	15.0	-
低価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーすることが多い	15.4	42.6	15.2	32.4
全て（あるいはほとんど）低価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーしている	27.2		17.2	
合計	100.0		100.0	
n	573		3021	

一方、2023 年調査ではどうか。2023 年もまた、「全て（あるいはほとんど）通常価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーしている」と回答した人と「全て（あるいはほとんど）低価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーしている」と回答した人は合わせて 5 割弱となっており、おおよそ半数の人が通常価格台か低価格台のいずれかに限定してプレーしているという傾向に変化は見られなかった。しかしながら、その比率は異なっており、2023 年調査では「全て（あるいはほとんど）通常価格台」と回答した人が 3 割超、「全て（あるいはほとんど）低価格台」と回答した人が 2 割未満と、以前に比べ「全て（あるいはほとんど）通常価格台」を選択する人が多くなっていた。また、「全て（あるいはほとんど）通常価格台」と回答した人と「通常価格台でプレーすることが多い」と回答した＜通常価格台派＞と「全て（あるいはほとんど）低価格台」と回答した人と「低価格台でプレーすることが多い」と回答した＜低価格台派＞を比べてみても、2023 年では、＜通常価格台派＞のほうが顕著に多くなっていた[23]。

4）行きつけの店舗数

次に、行きつけの店舗数について見てみると（図表 2-18）、2017 年調査では[24]、行きつけの店舗数を「1 軒」と回答した人が 4 割、「2 軒」と回答した人が 3 割弱となっており、これらを合わせると、7 割近くの人が「1～2 軒」と回答していた。しかし、2023 年調査においては、半数近くの人が「5 軒以上」と回答していた。

[23] こうした違いが調査方法による差なのか、経済状況の変化に伴うものなのかは、本調査の結果のみでは判断がつかない。ただし、参考のために国民の平均給与額を示しておくと、2017 年は 432 万円、2023 年は 458 万円となっており、国民の平均年収は 25 万円ほど上昇している（平均給与額は「民間給与実態統計」より）。

[24] 2017 年調査の「行きつけの店舗数」については、日工組社会安全研究財団（2018：283）における表 5-2-12a を参照したが、本稿 図表 2-18 においては、日工組社会安全研究財団（2018：283）の表 5-2-12a から「無回答」を除いた割合を再計算しているため、表 5-2-12a とは各階級の割合が若干異なる。

図表 2-18　2017 年調査と 2023 年調査の行きつけの店舗数

度数分布

	2017年調査	2023年調査
なし	15.0	5.4
1軒	41.1	15.4
2軒	27.4	20.3
3軒	12.9	11.4
4軒	2.1	1.5
5軒以上	1.4	46.1
合計	100.0	100.0
n	572	5356

記述統計量

	2017年調査	2023年調査
平均値	1.52	1.96
分散	1.326	1.707
標準偏差	1.152	1.306
n	572	5356

2017 年と 2023 年のこうした違いは、調査方法の違いだけでは説明がつかないため、パチンコ･パチスロの規制状況の変化に由来するものと考えるのが妥当であろう。すなわち、パチンコ・パチスロにおいては、2018 年に規制強化が行われ、いわゆる「一撃」(1 回の大当たりとその後に続く有利区間の終わりまで）の出玉数に上限が設けられた。その結果、どの店舗に行っても「一撃で大量出玉を狙う」ことはできなくなり、プレイヤーは 1 店舗だけでは｢安定した勝ち｣を得にくくなった。2020 年以降はこうした規制が一部緩和され、高設定が実感しやすくなったことに加え、「スマスロ」や「スマパチ」のように「大勝ちしやすい仕組みの台」や、「リセット狙い」しやすい機種などさまざまな機種が登場し、設置機種や高設定にするタイミングなどによって店舗ごとの特色が現れるようになった。その結果、プレイヤーたちは複数の店の情報を仕入れ、その時々によって「より良い店」を渡り歩くことが増えたと言われている。「行きつけの店舗数の増加」は、こうした遊技業界の規制状況の変化に由来するものと推測される。

５）2017 年調査と 2023 年調査の結果の違いとその原因

ここまで見てきたとおり、2017 年調査と 2023 年調査の結果を比較すると、パチンコ・パチスロへの参加頻度、使用額、負け額、滞在時間については、両調査で違いは見られなかったものの、パチンコとパチスロのプレー比率、通常台と低価格台のプレー比率、行きつけの店舗数については大きな違いが見られた。

こうした違いが生じた原因のひとつとしては当然、本節冒頭に述べたとおり、2017 年調査と 2023 年調査では調査対象者の年齢や抽出方法、調査票の配付方法など、複数の点で手続き上の相違がある点に由来するものと考えられる。しかしながらその一方で、2 つの調査の間にある 6 年という時間の経過により、パチンコ・パチスロのプレイヤー層が変化した、あるいはプレイヤーのプレー実態が変化したという可能性もありうるだろう。現時点では、どちらの要素がどの程度強く結果に影響を与えたのかは推測できないため、今後の新たな調査の必要性が指摘される。

６）【補論】パチンコ・パチスロへの参加時間の変化とその理由

前節（図表 2-4）において、「パチンコ・パチスロ」は、公営競技と比較して、「1 年前と比較した参加時間」の減少率が大きいことが確認された。

では、「パチンコ・パチスロ」の参加時間が減少した理由は何に由来するのだろうか。本調査票では、「パチンコ・パチスロ」の参加時間が「減った」と回答した 1153 人に対して、その理由を複数回答で訊ねている。

図表 2-19　パチンコ・パチスロへの参加機会が減った理由

	n	%
遊ぶのにお金がかかりすぎるから	615	53.3
今のパチンコ・パチスロは、あまり勝てないから	584	50.7
おもしろく感じられなくなったから	412	35.7
おもしろい機種（台）がないから（なくなったから）	290	25.2
遊ぶのに時間がかかりすぎるから	179	15.5
飽きたから	177	15.4
パチンコ・パチスロ以外のギャンブルの方がおもしろいと感じるようになったから	85	7.4
近場のパチンコ店が休業／廃業したから	78	6.8
今のパチンコ・パチスロには不正がありそうだから	64	5.6
遊び方が難しそうだから（難しくなったから）	43	3.7
パチンコ・パチスロに対する世間のイメージが悪いから	42	3.6
今のパチンコ店には、なんとなく入りづらいから	13	1.1
その他【　　】	46	4.0
特に理由はない	44	3.8

n=1153、複数回答

【その他】の回答	n
金銭的な余裕がなくなったから	8
時間的な余裕がなくなったから	11
結婚・出産・育児・介護等　家庭状況の変化	9
コロナの影響・体調を崩した・体力がなくなった等　健康にかかわる問題	8
ギャンブル以外の趣味（推し活など）にお金をかけるようになったから	4
パチンコ店あるいはパチンコ台の音がうるさい	2
外出自体が面倒になった	1
その他	3
合計	46

図表 2-19 を見ると、過半数の人が「遊ぶのにお金がかかりすぎるから」と「今のパチンコ・パチスロは、あまり勝てないから」の 2 つの選択肢を選択している。また、25～35%ほどの人は「おもしろく感じられなくなったから」や「おもしろい機種（台）がないから（なくなったから）」を選択している。一方で、「飽きたから」や「パチンコ・パチスロ以外のギャンブルの方がおもしろいと感じるようになったから」といった理由を選択している人はそれほど多くはない。

つまり、パチンコ・パチスロへの参加時間が減った人の主な理由は、パチンコ・パチス

ロをプレーするという行為自体に魅力を感じなくなったというよりは、経済的な負担（使用額や負け額の大きさ、「あまり勝てない」という感触）や機種のおもしろさなどに依存しているものと考えられる。

４．公営競技とインターネット投票

前節ではパチンコ・パチスロユーザーのみを対象とした質問項目への回答を見てきたが、本節では、公営競技参加者のみを対象とした質問項目について見ていく。

公営競技においては、近年、競技場来場者が減少し、オンラインでの観戦や投票が主流となってきたと言われている。そうした言説を踏まえ、公営競技参加者のみを対象とした質問項目では、オンライン投票にかかわる質問を中心に訊ねた。

１）競技場に行く頻度

今述べたとおり、近年、公営競技においては競技場来場者が減少傾向にあると言われている。では実際には、公営競技参加者はどれくらいの頻度で競技場に行っているのか。

本調査においては、公営競技の種目を限定せず、1 種類以上の公営競技に参加している人に対して、「最近 1 年間で、あなたは、どれくらいの頻度で公営競技の競技場（競馬場、ボートレース場、競輪場、オートレース場）に行きましたか。」といった質問によって、競技場へ行く頻度を訊ねた。

図表 2-20　競技場に行く頻度

	年に1回未満	年に1回程度	半年に1回程度	2～3ヶ月に1回程度	月に1回程度	月に2～3回程度	週に1回以上	これまでに一度も競技場に行ったことがない	合計	n
公営競技	33.3%	9.9%	11.9%	9.9%	5.0%	3.9%	2.9%	23.1%	100.0%	3752

その結果（図表 2-20）、直近 1 年間に公営競技に参加したことのある人のうち、「月に 1 回以上」競技場に行く人は 1 割程度に留まることがわかった。また、全体の 3 分の 1 は「年に 1 回未満」しか行かないと回答しており、「これまでに一度も競技場に行ったことがない」と回答した人も 4 分の 1 近くに上った。

こうした傾向が公営競技の種目によって違いがあるのかどうかを確認するため、種目別に競技場に行く頻度を算出したところ[25]、「競馬」において特に、「年に 1 回未満」や「こ

[25] ただし、本調査票では、公営競技の種目を限定せずに競技場へ行く頻度を訊ねている。そのため、図表 2-21 は、調査対象者の実際の行動とは誤差が生じることとなる。つまり、例えば、「直近 1 年間で、競馬とボートレースに参加し、競馬場には月 1 回ペースで通っているが、ボートレース場には行ったことがない」という人がいたとする。その場合、おそらくその人は、「最近 1 年間で、あなたは、どれくらいの頻度で公営競技の競技場（競馬場、ボートレース場、競輪場、オートレース場）に行きましたか」という質問には「月 1 回」と答えるだろう。しかし集計時、分析者には、「月 1 回」行ったのがどの競技場なのかはわからないため、図表 2-21 においては、「競馬」および「ボートレース」の双方において（ボートレース場には一度も行ったことがないにもかかわらず）「月

れまでに一度も競技場に行ったことがない」と回答する人が多かった（図表 2-21）。

図表 2-21　参加している公営競技の種目別　競技場に行く頻度

	年に1回未満	年に1回程度	半年に1回程度	2～3ヶ月に1回程度	月に1回程度	月に2～3回程度	週に1回以上	これまでに一度も競技場に行ったことがない	合計	n
競馬	33.6%	9.7%	12.0%	10.2%	5.3%	4.1%	3.1%	22.0%	100.0%	3267
ボートレース	23.8%	9.8%	14.1%	15.2%	10.4%	8.5%	4.7%	13.4%	100.0%	1139
競輪	22.6%	8.1%	12.6%	12.1%	9.4%	8.6%	5.2%	21.4%	100.0%	1046
オートレース	16.7%	7.9%	14.6%	13.7%	12.4%	12.4%	7.5%	14.8%	100.0%	629
公営競技	33.3%	9.9%	11.9%	9.9%	5.0%	3.9%	2.9%	23.1%	100.0%	3752

一方で、「オートレース」では、オートレースに投票する人の 3 分の 1 が競技場へ「月に 1 回以上」行くと回答しており、「年に 1 回未満」しか行かない人や「これまでに一度も競技場に行ったことがない」人も少ないため、他の競技に比べて競技場来場者が比較的多い競技であることが示された。

２）インターネットでの投票券購入経験

続いてここからは、現在主流になっていると言われる「公営競技のオンライン投票」について見ていく。

まず、「あなたはこれまでに、インターネットで投票券（馬券、車券、舟券）を購入したことはありますか。」という質問に対しては、全体で 83.4%の人が「購入経験あり」と回答していた（図表 2-22）。種目別で見ると、「競馬」や「ボートレース」では「購入経験あり」と回答した人が 8 割台なのに対し、「競輪」や「オートレース」では 9 割台となっており、「競輪」や「オートレース」はインターネット投票が若干多い傾向にある。

図表 2-22　インターネットでの投票券購入経験

	購入経験あり	購入経験なし	合計	n
競馬	84.6%	15.4%	100.0%	3267
ボートレース	87.7%	12.3%	100.0%	1139
競輪	91.9%	8.1%	100.0%	1046
オートレース	92.2%	7.8%	100.0%	629
公営競技	83.4%	16.6%	100.0%	3752

に 1 回程度」としてカウントされることになる。

なお、次章で見るように、本調査において公営競技を 2 種類以上行っている人は、公営競技を行っている人（3752 人）のうちの 32.5%（1219 人）である。そのため、ここで生じる誤差は決して小さくはないものの、大きすぎるものでもないと判断した。また、これ以降、本節において「種目別」での分析があった場合には、常に、同じ問題が生じていることに留意されながら結果を読まれたい。

なお、本調査においては、初めてインターネットで投票券を購入した年齢も訊ねたが、それをもとに、現在の年齢と初めてインターネットで投票券を購入した年齢の差から「初めてインターネットで投票券を購入したのは何年前か」を算出したところ、ほぼ 2 割（17.9%）の標本において、論理的には存在しえないはずの値[26]が算出されたため、本報告書における集計・分析には使用しないこととした。

３）投票券購入時における、窓口とインターネットの使用比率

次に、前項において、インターネットでの投票券「購入経験あり」と回答した 3131 人に対し、「最近 1 年間で、あなたは、投票券（馬券、車券、舟券）を購入する際、競技場や場外に設置された窓口・自動発売機（UMACA 投票機含む）と、インターネットでは、どちらで購入することが多かったですか。」と訊ねた。

図表 2-23　直近 1 年での投票券購入における、窓口とインターネットの使用比率

	多くの場合、窓口や自動発売機で購入した	どちらかといえば、窓口や自動発売機で購入することが多かった	どちらも同じくらいだった	どちらかといえば、インターネットで購入することが多かった	多くの場合、インターネットで購入した	合計	n
競馬	8.0%	7.1%	6.5%	14.9%	63.5%	100.0%	2764
ボートレース	9.5%	12.5%	10.1%	21.4%	46.4%	100.0%	999
競輪	7.9%	10.6%	8.7%	19.0%	53.7%	100.0%	961
オートレース	8.4%	14.5%	12.2%	22.2%	42.6%	100.0%	580
公営競技	8.3%	7.2%	6.4%	14.9%	63.2%	100.0%	3131

	窓口や自動発売機購入派	どちらも同じくらいだった	オンライン購入派	合計	n
競馬	15.1%	6.5%	78.4%	100.0%	2764
ボートレース	22.0%	10.1%	67.8%	100.0%	999
競輪	18.5%	8.7%	72.7%	100.0%	961
オートレース	22.9%	12.2%	64.8%	100.0%	580
公営競技	15.5%	6.4%	78.1%	100.0%	3131

その結果（図表 2-23）、全体の 63.2%が「多くの場合、インターネットで購入した」と回答しており、「どちらかといえば、インターネットで購入することが多かった」も合わせ

[26] ここで言う「論理的に存在しないはずの値」は、以下のものを指す。

- 「(現在の年齢）－（初めてインターネットで投票券を購入した年齢)」の計算結果が負の値をとったもの
- 「(現在の年齢）－（初めてインターネットで投票券を購入した年齢)」の計算結果が 25 以上となったもの

なお、「25 以上」を「論理的に存在しないはずの値」とした理由は以下のとおりである。すなわち、公営競技においてインターネットでの投票券購入が可能になったのは 2001 年とされており（※)、誕生日の時期によって生じる年齢の誤差±1 を考慮したとしても、2023 年調査から 25 年以上前にインターネット投票券を購入できたとは思われないためである。

※ インターネット投票が開始した時期については、「日本モーターボート競走会」ウェブサイト内のモーターボートの「沿革」を紹介するページにて、2001 年 7 月 10 日「日本初、公営競技界初のインターネット投票での発売開始」との記述がある（https://www.mbkyosokai.jp/history.html)。

ると 78.1%の人が、投票券購入に際し窓口や自動発売機よりもインターネットを多く利用していることがわかった[27]。

種目別では、「競馬」と「競輪」においては、過半数が「多くの場合、インターネットで購入」しているのに対し、「ボートレース」や「オートレース」では窓口や自動発売機を併用している人が若干多い傾向にあった。

こうした購買行動は競技場へ行く頻度との関連が強いことが想定されるため、競馬場へ行く頻度と投票券購入時のインターネットの使用比率をクロス集計したところ（図表 2-24)、競技場に「月 1 回以上」行く人は、「月 1 回未満」の人に比べ、窓口や自動発売機での購入機会も多かった。

しかしその一方で、競技場に「月 1 回以上」行く人であっても、過半数の人は「多くの場合、インターネットで購入した」あるいは「どちらかといえば、インターネットで購入することが多かった」と回答しており、ふだんから競技場へ行く人であっても、インターネットでの投票券購入がかなり身近なものとなっていることがわかる[28]。

図表 2-24　競技場へ行く頻度と投票券購入時の窓口とインターネットの使用比率

		投票券購入における、窓口とインターネットの使用比率					合計	n
		多くの場合、窓口や自動発売機	どちらかといえば、窓口や自動発売機	どちらも同じくらいだった	どちらかといえば、インターネット	多くの場合、インターネット		
競技場へ行く頻度	月1回以上	12.4%	16.7%	17.7%	28.9%	24.4%	100.0%	402
	月1回未満	9.3%	7.4%	5.8%	15.4%	62.1%	100.0%	1998
	今まで一度も行ったことがない	3.4%	1.5%	1.6%	5.7%	87.7%	100.0%	731
合計		8.3%	7.2%	6.4%	14.9%	63.2%	100.0%	3131

また、インターネット利用に関連した話題では、一般的に、若い人の方がインターネット利用率が高いとされることが多いものの、投票券購入時のインターネットの使用比率に関して言えば、図表 2-25 のとおり、30 代以下の人に比べ、40 代以上の人の方がインターネットで投票券を購入している人が有意に多いことが示された（$p<.001$）。

[27] 久里浜医療センターによる 2023 年調査では「主にオンライン」による投票券購入割合は、40～55%となっており（久里浜医療センター，2024：25 表 2-15 参照)、本調査よりも低い値を示しているが、これは、久里浜医療センターの調査が、全国の 18～74 歳の男女を対象とした無作為抽出であるのに対し、本調査が「直近 1 年間でパチンコ・パチスロあるいは公営競技のいずれかをしたことのある」全国の 20～69 歳の男女を対象としたモニタ調査であることに起因すると考えられる。

[28] なお、競技場に「今まで一度も行ったことがない」にもかかわらず「窓口や自動発売機で購入した」経験がある人が一定数存在するが、これは、窓口や自動発売機が競技場以外の場所にも存在するためだと考えられる。いわゆる「場外馬券売場」(「ウインズ」) などがこれにあたる。

図表 2-25　年齢階級と、投票券購入時の窓口とインターネットの使用比率

	多くの場合、窓口や自動発売機で購入した	どちらかといえば、窓口や自動発売機で購入することが多かった	どちらも同じくらいだった	どちらかといえば、インターネットで購入することが多かった	多くの場合、インターネットで購入した	合計	n
20～29才	10.2%	12.7%	7.4%	21.5%	48.2%	100.0%	284
30～39才	8.0%	8.8%	10.0%	20.5%	52.6%	100.0%	589
40～49才	9.6%	7.3%	6.9%	14.5%	61.7%	100.0%	811
50～59才	8.9%	6.1%	4.1%	11.8%	69.1%	100.0%	800
60～69才	5.6%	4.6%	4.6%	11.0%	74.2%	100.0%	647
合計	8.3%	7.2%	6.4%	14.9%	63.2%	100.0%	3131

p<.001

４）インターネットでの投票券購入の頻度の変化

次に、「1 年前と比べ、インターネットで投票券（馬券、車券、舟券）を購入する頻度に変化はありましたか。」という質問によって、インターネットによる投票券購入頻度の変化を訊ねた。

その結果（図表 2-26）、公営競技全体では、「変わらない」と回答した人が 56.7%ともっとも多く、次いで「増えた」と回答した人が全体の 3 分の 1 ほどとなっていた。

種目別に見ると、「競馬」と「ボートレース」では、「変わらない」と答えた人がもっとも多かった一方で、「競輪」と「オートレース」では、「変わらない」と回答した人よりも「増えた」と回答した人のほうが多かった。

図表 2-26　インターネットでの投票券購入の頻度の変化

	増えた	変わらない	減った	インターネット購入を始めたのは最近1年以内のこと	合計	n
競馬	32.8%	58.5%	6.0%	2.6%	100.0%	2764
ボートレース	44.1%	47.8%	5.5%	2.5%	100.0%	999
競輪	45.7%	44.3%	5.1%	4.9%	100.0%	961
オートレース	50.0%	43.8%	3.4%	2.8%	100.0%	580
公営競技	33.3%	56.7%	6.4%	3.6%	100.0%	3131

５）インターネット投票サイトへのアクセス頻度

続いて、インターネット投票サイトへのアクセス頻度を「最近 1 ヶ月間で、あなたは、どれくらいの頻度で、公営競技（競馬、ボートレース、競輪、オートレース）のインターネット投票サイトにアクセスしましたか。（投票券を購入したかどうかは問いません。）」という質問によって訊ねた。

その結果（図表 2-27）、公営競技全体では、「最近 1 か月間では、一度もアクセスしていない」から「月に 6～10 日程度」までの回答がそれぞれ 14～20%の割合となっており、分散が大きい傾向にあることがわかった。

種目別では、「最近 1 か月間では、一度もアクセスしていない」人や「月に 1 日程度」といった低頻度層は「競馬」において多く見られた一方で、「競馬」以外の公営競技では、「月に 11 日以上」の高頻度層が 25～30%ほど見られた。

図表 2-27　インターネット投票サイトへのアクセス頻度

	最近1ヶ月間では、一度もアクセスしていない	月に1日程度	月に2～3日程度	月に4～5日程度	月に6～10日程度	月に11～20日程度	月に21～30日程度	合計	n
競馬	12.5%	19.3%	19.3%	16.8%	17.4%	8.5%	6.3%	100.0%	2764
ボートレース	8.5%	18.0%	18.2%	14.5%	15.1%	12.6%	13.0%	100.0%	999
競輪	7.9%	17.1%	17.6%	13.5%	15.8%	13.5%	14.6%	100.0%	961
オートレース	4.7%	16.0%	19.1%	14.1%	16.7%	13.4%	15.9%	100.0%	580
公営競技	14.0%	20.0%	18.9%	16.2%	16.1%	8.2%	6.6%	100.0%	3131

なお、インターネット投票サイトへのアクセス頻度の階級値をもとに、1 ヶ月あたりのアクセス日数の平均値を算出した場合においても（図表 2-28）、「競馬」は月平均 5.7 回であるのに対し、競馬以外の公営競技では 7.6～8.6 回となっており、1 ヶ月あたり 2～3 回の差が見られた。

図表 2-28
インターネット投票サイトへのアクセス頻度の平均値

	平均値	標準偏差	n
競馬	5.7	6.494	2764
ボートレース	7.6	8.080	999
競輪	8.2	8.317	961
オートレース	8.6	8.400	580
公営競技	5.6	6.620	3131

６）インターネット投票において重要と考える事柄

では、インターネット投票を利用している人びとにとって、インターネット投票の利点はどこにあるのか。本調査においては「インターネットで投票券（馬券、車券、舟券）を購入する上で、あなたにとって、以下のことはどの程度重要ですか。」という質問文を用いて、各項目の重要度を訊ねた。

その結果（図表 2-29）、「重要」と回答する人が特に多かった項目として、「場所を問わず、どこからでも投票できる」、「曜日や時間を問わず、いつでも投票できる」、「ひとりでゆっくり／自分のペースでレースを楽しめる」、「投票券を買うために並ばなくて良い」、「交通費や入場料がかからない」が挙げられた。いずれも、4 割以上の人が「重要」と回答しており、「まあ重要」と合わせると（図表 2-29 の＜重要＞）8 割以上の人がこれらの事柄を重要視していることがわかった。

一方、そこまで重要度の高くなかった項目としては、「中継映像のほうがズームアップやハイライトがあって楽しめる」、「複数の公営競技に同時に投票できる」、「買うつもりのなかった投票券を買わなくて済む」、「手元に現金がなくても投票できる」などが挙げられ、いずれも「重要でない」と「あまり重要でない」を合わせ（図表 2-29 の＜重要でない＞）

3 割以上の人がこれらの項目を重要ではないと捉えていた。

図表 2-29　インターネット投票において重要と考える事柄

	重要	まあ重要	あまり重要でない	重要でない	＜重要＞	＜重要でない＞	合計	n
場所を問わず、どこからでも投票できる	55.9	37.6	5.4	1.1	93.5	6.5	100.0	3131
曜日や時間を問わず、いつでも投票できる	46.2	40.7	11.0	2.1	86.9	13.1	100.0	3131
仕事や家事などの隙間時間に投票できる	36.0	41.7	17.1	5.1	77.7	22.2	100.0	3131
ひとりでゆっくり／自分のペースでレースを楽しめる	49.6	42.8	5.9	1.7	92.4	7.6	100.0	3131
静かな環境でレースを楽しめる	34.9	44.2	17.4	3.5	79.1	20.9	100.0	3131
全国のレースを満遍なくチェックできる	30.3	41.1	22.5	6.2	71.4	28.7	100.0	3131
中継映像のほうがズームアップやハイライトがあって楽しめる	25.3	43.9	24.9	5.9	69.2	30.8	100.0	3131
複数の公営競技に同時に投票できる	21.7	35.9	29.5	12.9	57.6	42.4	100.0	3131
買うつもりのなかった投票券を買わなくて済む	19.5	37.1	33.5	9.9	56.6	43.4	100.0	3131
投票券を買うために並ばなくて良い	47.5	40.6	9.7	2.3	88.1	12.0	100.0	3131
投票券の購入や払い戻しの履歴が残る	29.7	41.5	22.7	6.1	71.2	28.8	100.0	3131
交通費や入場料がかからない	44.0	40.2	12.6	3.1	84.2	15.7	100.0	3131
手元に現金がなくても投票できる	27.4	38.8	23.5	10.3	66.2	33.8	100.0	3131

なお、これらの項目の中には、複数のギャンブル等に参加する人にとって特に有益であると考えられる項目（「全国のレースを満遍なくチェックできる」「複数の公営競技に同時に投票できる」）が含まれていたため、直近 1 年間に参加したギャンブル等の種類が「1 種類のみ」であった人と「2 種類以上」であった人に分け、それぞれの項目において、＜重要＞（「重要」と「まあ重要」の合計）と＜重要でない＞（「重要でない」と「あまり重要でない」の合計）のいずれに回答していたのか、クロス集計を行い、フィッシャーの正確検定にかけたところ（図表 2-30）、直近 1 年間に「1 種類のみ」のギャンブル等にしか参加していない人に比べ、「2 種類以上」のギャンブル等に参加していた人では、多くの項目において＜重要＞と回答する人が有意に多かった。つまり、複数のギャンブル等に参加している人は、そうした人にとって特に有益であると考えられる項目（「全国のレースを満遍なくチェックできる」「複数の公営競技に同時に投票できる」）だけではなく、インターネット投票のさまざまな面に対し、多くの魅力を感じていることがわかった。

図表 2-30　直近 1 年間に参加したギャンブル等の種類数別
インターネット投票において重要と考える事柄

	ギャンブル種類数	＜重要＞	＜重要でない＞	合計	n	p
場所を問わず、どこからでも投票できる	1種類	92.1%	7.9%	100.0%	1519	p=0.002
	2種類以上	94.8%	5.3%	100.0%	1612	
曜日や時間を問わず、いつでも投票できる	1種類	82.9%	17.2%	100.0%	1519	p<0.001
	2種類以上	90.6%	9.4%	100.0%	1612	
仕事や家事などの隙間時間に投票できる	1種類	73.6%	26.3%	100.0%	1519	p<0.001
	2種類以上	81.6%	18.4%	100.0%	1612	
ひとりでゆっくり／自分のペースでレースを楽しめる	1種類	91.8%	8.2%	100.0%	1519	n.s.
	2種類以上	93.0%	6.9%	100.0%	1612	
静かな環境でレースを楽しめる	1種類	78.0%	22.0%	100.0%	1519	n.s.
	2種類以上	80.2%	19.8%	100.0%	1612	
全国のレースを満遍なくチェックできる	1種類	62.5%	37.5%	100.0%	1519	p<0.001
	2種類以上	79.8%	20.2%	100.0%	1612	
中継映像のほうがズームアップやハイライトがあって楽しめる	1種類	63.3%	36.7%	100.0%	1519	p<0.001
	2種類以上	74.8%	25.2%	100.0%	1612	
複数の公営競技に同時に投票できる	1種類	63.3%	36.7%	100.0%	1519	p<0.001
	2種類以上	74.8%	25.2%	100.0%	1612	
買うつもりのなかった投票券を買わなくて済む	1種類	51.6%	48.3%	100.0%	1519	p<0.001
	2種類以上	61.3%	38.7%	100.0%	1612	
投票券を買うために並ばなくて良い	1種類	88.6%	11.5%	100.0%	1519	n.s.
	2種類以上	87.6%	12.4%	100.0%	1612	
投票券の購入や払い戻しの履歴が残る	1種類	69.2%	30.8%	100.0%	1519	p=0.009
	2種類以上	73.1%	26.9%	100.0%	1612	
交通費や入場料がかからない	1種類	84.3%	15.6%	100.0%	1519	n.s.
	2種類以上	84.2%	15.8%	100.0%	1612	
手元に現金がなくても投票できる	1種類	60.2%	39.7%	100.0%	1519	p<0.001
	2種類以上	71.9%	28.1%	100.0%	1612	

７）公営競技場に行く理由

では、インターネット投票が大多数を占めるようになった現在、それでも引き続き競技場に行く人は、そこに何を求めているのだろうか。本調査では「あなたが公営競技の競技場（競馬場、ボートレース場、競輪場、オートレース場）に行く理由として、以下のことはどの程度あてはまりますか。」という質問によって、競技場へ行く理由を訊ねた。

その結果（図表 2-31）、過半数の人は「臨場感が味わえる」ことや「競走馬、レーサー（競技用自転車のこと）、ボート、競走車を直接見ることができる」ことを挙げており、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせると 9 割を超えていた（図表 2-31 の＜そう思う＞）。次いで多かった理由としては、「騎手や選手を直接見ることができる」、「レジャー施設として楽しめる」、「実際の（紙の）投票券（馬券、車券、舟券）が入手できる」などで、いずれも 4 人中 3 人以上の人がこうした理由に＜そう思う＞と回答していた。また、「そう思

う」という回答自体はそこまで多くはないものの、「声を出して応援等ができるのでスッキリできる」、「家などより競技に集中できる」、「騎手や競走馬、選手などに声援を送ることができる」といった意見についても、過半数は肯定的な態度を示していた（図表 2-31 の＜そう思う＞）。

図表 2-31　競技場に行く理由

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	＜そう思う＞	＜そう思わない＞	合計	n
臨場感が味わえる	56.7	36.8	4.4	2.1	93.5	6.5	100.0	2885
声を出して応援等ができるのでスッキリできる	21.4	37.0	28.2	13.4	58.4	41.6	100.0	2885
レジャー施設として楽しめる	34.0	47.7	13.9	4.3	81.7	18.2	100.0	2885
家などより競技に集中できる	21.7	43.2	26.1	8.9	64.9	35.0	100.0	2885
騎手や選手を直接見ることができる	44.4	42.2	10.3	3.2	86.6	13.5	100.0	2885
競走馬、レーサー（競技用自転車のこと）、ボート、競走車を直接見ることができる	52.7	38.1	6.6	2.7	90.8	9.3	100.0	2885
実際の（紙の）投票券（馬券、車券、舟券）が入手できる	34.8	42.7	16.0	6.5	77.5	22.5	100.0	2885
騎手や競走馬、選手などに声援を送ることができる	25.2	42.4	23.4	9.0	67.6	32.4	100.0	2885
他の客や本場の職員などとのコミュニケーションが楽しめる	13.6	29.9	36.2	20.3	43.5	56.5	100.0	2885
本場に行くことで友人・知人ができる	10.5	20.6	39.8	29.1	31.1	68.9	100.0	2885

一方、「他の客や本場の職員などとのコミュニケーションが楽しめる」や「本場に行くことで友人・知人ができる」といった問いにおいては、過半数が「そう思わない」あるいは「あまりそう思わない」と回答していた（図表 2-31 の＜そう思わない＞）。これら 2 項目は、パチンコ・パチスロにおいては、パチンコホールが友人や知人をつくる場、あるいは友人や知人と交流する場となっているといった、いわゆる「ソーシャル・キャピタル機能」あるいは「コミュニティ機能」をもつことが指摘されることがあるため[29]、公営競技におけ

[29] 例えば、亀谷（2024）は、パチンコ店に来店した 65 歳以上の高齢者 84 人を対象としたインタビュー調査において、「パチンコ店に友人がいる」と回答した人は 6～7 割程度いること、パチンコ店への来店理由が「友人に会うため」や「友人と話すため」であると回答した人が全体の 2 割程度を占めることなどを明らかにしている。

また、全国にパチンコ・パチスロホールを展開するダイナムは、企業のウェブサイト内「トップメッセージ」において、「『パチンコホールは装置産業ではない』と考えています。お店に来ていただき、時間消費型のコト体験を楽しんでいただく。パチンコをしなくても『そこに行けば誰かがいる』『人と人がふれあえる』といった自宅や職場ではない、サードプレイス（第三の居場所）にしたいと考えています。」とのメッセージを発信しており（※）、パチンコ・パチスロ産業経営側も、パチンコホールのコミュニティ機能にコミットしている様子が見て取れる。

※　ダイナムウェブサイト内「企業情報」＞「会社概要」＞「トップメッセージ」

る競技場も同様の機能を果たしうるかを確認するために投入した質問であるが、公営競技の場合には、競技場の広さゆえか、過半数の人はそうしたコミュニティ機能に否定的であった。

８）【補論】パチンコ・パチスロと公営競技のオンライン化

パチンコ・パチスロ業界においては、近年、遊技人口の減少が問題となっており、その原因として、公営競技のオンライン化による人口流出が挙げられることがある。これは事実なのだろうか。本項では補論として、この問いについて考えたい。

まず、図表 2-19 を見ると、パチンコ・パチスロの頻度が減った理由として、「パチンコ・パチスロ以外のギャンブルの方がおもしろいと感じるようになったから」と回答した人は 7.4%のみであり、この結果からは、パチンコ・パチスロから公営競技に人が流れたとは考えがたい。

また、図表 2-1 で示した「直近 1 年での趣味・娯楽の行為」の設問において、「直近 1 年ではパチンコをしていないが、過去にしたことがある」と回答した 1555 人（以下では「パチンコ・パチスロをやめた人」と表記する）の公営競技への参加状況を見ると（図表 2-32）「競馬」への参加率がもっとも高いが、図表 2-33 を見るとわかるとおり、少なくともここ 1 年の間に競馬を新しく始めたわけでも、競馬の頻度がとりたてて増えたわけでもないようである。

図表 2-32　「パチンコ・パチスロをやめた人」の各種公営競技への参加状況

	最近1年以内にしたことがある	最近1年以内にはしていないが、1年以上前にしたことがある	今までに一度もしたことがない	合計	n
競馬	87.4%	8.6%	4.0%	100.0%	1555
ボートレース	21.1%	23.7%	55.2%	100.0%	1555
競輪	19.5%	22.1%	58.3%	100.0%	1555
オートレース	9.6%	14.3%	76.1%	100.0%	1555

図表 2-33　「パチンコ・パチスロをやめた人」の
ここ 1 年での各種公営競技への参加時間の変化

	増えた	変わらない	減った	該当の公営競技を始めたのは最近1年以内	合計	度数
競馬	12.6%	69.9%	15.7%	1.8%	100.0%	1359
ボートレース	15.2%	60.4%	19.2%	5.2%	100.0%	328
競輪	26.0%	48.7%	19.4%	5.9%	100.0%	304
オートレース	25.5%	50.3%	19.5%	4.7%	100.0%	149

また、パチンコ・パチスロの継続状況を「週 1 回以上の高頻度で続けている人」1129 人、

（https://www.dynam.jp/corp/company/message.html，2025/3/26 閲覧）

「週 1 回未満の低頻度で続けている人」1828 人、「パチンコ・パチスロをやめた人」1555 人の 3 群に分け、公営競技への参加状況を確認したところ（図表 2-34)、「パチンコ・パチスロをやめた人」では確かに「競馬」「競輪」「オートレース」への参加頻度が高い人が多い傾向にあるものの、「パチンコを高頻度で続けている人」でもまた、すべての公営競技において、週 1 回以上という高頻度で参加している人の割合が高かった。

図表 2-34　パチンコ・パチスロの継続状況別
各種公営競技に週 1 回以上参加している人の割合

	週1回以上参加している人の割合			
	競馬	ボートレース	競輪	オートレース
パチンコをやめた人	39.0%	19.5%	28.6%	24.8%
パチンコ低頻度	25.5%	13.4%	14.0%	9.8%
パチンコ高頻度	38.8%	24.2%	29.7%	24.2%
合計	35.2%	18.8%	24.1%	19.3%

※　この表は、「パチンコ・パチスロの継続状況」×各種公営競技に「週1回以上参加している／していない」というクロス集計表4つをつなぎ合わせて作成しているため、合計値は100％にならない。

使用金額においても（図表 2-35)、「パチンコを高頻度で続けている人」は、「パチンコをやめた人」や「パチンコを低頻度で続けている人」に比べ、各種公営競技にも「1 万円以上」のお金を使っている人が明らかに多かった。

図表 2-35　パチンコ・パチスロの継続状況別
各種公営競技に月 1 万円以上使っている人の割合

	1万円以上使う人の割合			
	競馬	ボートレース	競輪	オートレース
パチンコをやめた人	31.2%	27.0%	26.7%	21.4%
パチンコ低頻度	40.5%	31.4%	28.1%	28.5%
パチンコ高頻度	56.7%	52.2%	54.0%	49.7%
合計	38.9%	36.6%	36.1%	34.8%

※　この表は、「パチンコ・パチスロの継続状況」×各種公営競技に「1万円以上使っている／使っていない」というクロス集計表4つをつなぎ合わせて作成しているため、合計値は100％にならない。

したがって、以上のデータを見るに、パチンコ・パチスロの遊技人口の減少を公営競技への移行に求めることはできないように思われる。むしろ、パチンコ・パチスロを高頻度でプレーしている人びとの方が各種公営競技にも高頻度・高使用額で参加していることが明らかとなった。

【コラム③】

2017 年以降の調査結果を振り返って

本財団の「パチンコ・パチスロ遊技障害研究会」は、2017 年 1 月から 2 月にかけて確率標本抽出に基づく全国調査を行い、その後今日までの間にパチンコ・パチスロの遊技障害に関連する多岐にわたる研究を行った。それら調査研究の結果は、詳しくは後述した当財団の調査研究報告書をご覧いただきたい。その主な研究成果の一端を示せば以下のようである。

（１）全国的なパチンコ・パチスロの遊技状況と遊技障害の実態

全国の 18 歳から 79 歳までの 9000 人の男女を対象とした 2017 年の確率標本抽出に基づく調査では、パチンコ・パチスロの遊技障害の実態を把握するために独自の尺度（PPDS）を開発・作成し、その尺度を用いて我が国のパチンコ・パチスロ遊技への参加率、参加者数、参加者の特徴、遊技障害の状況を明らかにした。

その結果、直近 1 年未満にパチンコ・パチスロで遊技をした遊技者は、有効回答者 5,060 人のうち 582 人（11.5%）で、この比率は、ギャンブリングへの参加率としては、宝くじの 32.5%に次いで 2 番目に多い比率であり、現役のパチンコ・パチスロ遊技者は、宝くじ、競馬、LOTO、ナンバーズ等のくじ・公営競技等への参加率も高いことが分かった。

調査の回答者のうちパチンコ・パチスロの遊技経験者の比率は 35.8%で、遊技未経験者と比較して、遊技経験者は、女性より男性が多く、40 代や 50 代の人が多く、結婚経験もあり離婚経験もある人が多かった。学歴では高校卒業者、就業状況では正社員の割合が高かった。また、遊興費が多く、世帯年収・個人年収も高かった。他方、世帯のギャンブル等の借金がある人の割合が多かった。また、ストレス解消のために、飲酒、喫煙、インターネット閲覧、ゲームを行う、ペットと過ごすと回答した人の比率が高かった。

直近 1 年未満にパチンコ・パチスロで遊技をした遊技者のうち「遊技障害のおそれがある」と判定された人は 21 人で、有効回答者の 0.4%であった。この数値から推計すると、全国では約 40 万人の「遊技障害のおそれがある人」がいると推定された。また、その後の研究会の研究により、「遊技障害のおそれがある人」の比率は諸外国の遊技障害の実態調査と比較して、対策が比較的進んでいる国や地域よりは高いが、それ以外の国や地域とあまり変わらないことが分かった。

（２）現役のパチンコ・パチスロ遊技者の遊技状況

過去 1 年以内にパチンコ・パチスロをした現役プレイヤーの特徴としては、自宅から時間距離で約 7 割の人が 20 分以内に、8 割の人が 30 分以内に、最もよく行きつけのパチンコ・パチスロ店があると答えており、回答した現役遊技者の中央値は、パチンコ・

パチスロ店の来店頻度では「月に 2～3 回程度」、1 回あたりの利用時間「3 時間以上～4 時間未満」、使用額「1 万円を超えて 2 万円まで」、負け額「5 千円を超えて 1 万円まで」であり、遊技状況は、「パチンコだけをしている人」は 48%、「パチスロだけをしている人」は 12%、「パチンコ・パチスロの両方をしている人」が約 4 割いる。また、遊技をする価格台は、「通常台（全て・ほとんど・多い)」と「低価格台（全て・ほとんど・多い)」がそれぞれ 4 割強でほとんど半々に分かれている。

健全な遊技の仕方を示す「使う限度額を決めている」「上限に達したら控える」ことを守っていない人がそれぞれについて 12%おり、「時間がきたらやめる」ことを守っていない人が 4%いることも明らかになった。

（3）遊技障害をもたらす要因となっているもの

どのような遊技状況が遊技障害の疑いのリスクを高めるのかを検討するため、研究会では、「遊技障害の疑いのリスク」とデモグラフィック（人口統計学的）な要因、遊技スタイルにかかわる要因、パーソナリティ要因などの関係について要因分析を行った。

検討の結果、遊技障害のリスクを高めるデモグラフィックな要因としては、「離婚経験」「預貯金が少なく、遊興費が多い」「貯蓄への動機づけが乏しい」「ギャンブルによる借金がある」「パチンコ・パチスロの借金による債務体験がある」など。遊技スタイルにかかわる要因としては、「遊技頻度（週 2 ～3 回)」「1 日の遊技時間（5 ～6 時間)」「主にパチスロをする」「高価格台を多く使用する」などが遊技障害の疑いと関連が認められ、特に「月 2 ～5 万円の負け額」は遊技障害のリスクを高めるラインと考えられた。パーソナリティ要因との関連では、パーソナリティの代表的な因子とされる 5 因子との関連を検討した結果、遊技障害のリスクを高めるパーソナリティ要因は神経症傾向であり、特に不安、抑うつ、衝動性が強い影響を及ぼしていること、また、ストレスイベントと結びついた高い刺激欲求も長期的な影響を及ぼしていることが分かった。

一方、遊技障害のリスクの低さと関連する要因としては、「自分が決めた上限に達したら遊技を控える」「自由時間以外遊技をしない」など健全な遊技スタイルが遊技障害のリスクの低さと関連していることが明らかとなり、また、ストレスを解消するために「家族と一緒に過ごす」という生活スタイルも遊技障害のリスクを回避することにつながっていることが推測された。

（4）本調査研究で意図したもの

本研究会においては、上記のような実証的研究と共に、世界のギャンブリング対策の現状を踏まえて、日本のパチンコ・パチスロ遊技障害の予防や介入についてもこれまで様々な提言を行ってきている。(『パチンコ・パチスロ遊技障害　研究成果　最終報告書』第 7 章 2021、本報告書のコラムなど)

しかし、これまでの本研究会が実施してきた調査研究は、パチンコ・パチスロの遊技状況や遊技障害にほとんど限定しており、公営競技等の競技やギャンブリングとパチンコ・パチスロとの遊技状況の関連や、パチンコ・パチスロだけではなく競馬や競輪といった公営競技等を含めたギャンブリングが全体として遊技障害に相互にどのような影響を及ぼしているかについては、研究対象とはしてこなかった。そこで今回の調査研究

では、公営競技とパチンコ・パチスロとの関連を明らかにすることに焦点化して研究を実施したものである。

本研究によって、パチンコ・パチスロの遊技障害のリスクは、パチンコ・パチスロ単独でもたらされているわけではないことが新たに実証的に明らかとなり、パチンコ・パチスロの遊技障害の実態把握や遊技障害への対応も公営競技等の他の競技や遊技との関連性をも考慮に入れて検討する必要性があることが示唆された。

本財団がこれまでに刊行した調査研究報告書

『パチンコ・パチスロ遊技障害全国調査　調査報告書』（2018 年（平成 30 年）3 月、公益財団法人　日工組社会安全研究財団

『パチンコ・パチスロ遊技障害　研究成果　中間報告書』（2020 年（令和 2 年）2 月、公益財団法人　日工組社会安全研究財団

『パチンコ・パチスロ遊技障害　研究成果　最終報告書』（2021 年（令和 3 年）3 月、公益財団法人　日工組社会安全研究財団

（牧野暢男）

第３章　ギャンブル等の重複

１．直近１年で参加したギャンブル等の種類数と組み合わせ

本章では、ギャンブル等の重複について見ていく。前章で見た図表 2-1 は複数回答の形式をとっており、各ギャンブル等の種類別行為者率はわかるものの、それぞれのギャンブル等を重複して行っている個人がどの程度いるのか、また、同一個人がどのようなギャンブル同士を重複して行っているのかについてはわからない。そこで図表 3-1 では、直近 1 年で参加したギャンブル等の種類数、および複数参加している場合にはその組み合わせの単純集計を行った。

これを見ると、「直近 1 年間にギャンブル等に参加したことがある人」のうちの 64.5%は「1 種類」のみのギャンブル等にしか参加していないことがわかる。特に多かったのは「パチンコ・パチスロのみ」と「競馬のみ」で、それぞれ 3 割弱となっていた。

「2 種類」のギャンブル等に参加した人は全体の 17.6%で、そのうちもっとも多いギャンブル種の組み合わせは「パチンコ・パチスロ＋競馬」（10.4%）であった。その他の組み合わせはいずれも全体の 3%にも満たず、ごく少数であることがわかる。

また、基本的には、参加するギャンブル等の種類が「2 種類」、「3 種類」、「4 種類」と増えていくと、それら複数種のギャンブル等に参加する人は減っていく傾向にあるが（「3 種類」7.2%、「4 種類」4.8%）、「5 種類すべて」に参加した人の割合（5.9%）は、「4 種類」のギャンブル等に参加した人（4.8%）よりもやや高くなっていた。ギャンブル等の組み合わせを見ても、「3 種類以上」のギャンブル等に参加する人でもっとも多い組み合わせは「5 種類すべて」であり、それ以外の組み合わせは 3%に満たなかった。

なお、「3～5 種類」のギャンブル等に参加している人は、合計 17.9%であり、ギャンブル等を「2 種類」しかしない人とほとんど同程度の割合を占めていた。

図表 3-1　直近 1 年で参加したギャンブル等の種類数と組み合わせ

		n	%	
1種類	パチンコ・パチスロのみ	1604	29.9%	64.5%
	競馬のみ	1587	29.6%	
	ボートレースのみ	128	2.4%	
	競輪のみ	116	2.2%	
	オートレースのみ	21	0.4%	
2種類	パチンコ・パチスロ＋競馬	558	10.4%	17.6%
	パチンコ・パチスロ＋ボートレース	79	1.5%	
	パチンコ・パチスロ＋競輪	36	0.7%	
	パチンコ・パチスロ＋オートレース	8	0.1%	
	競馬＋ボートレース	115	2.1%	
	競馬＋競輪	97	1.8%	
	競馬＋オートレース	15	0.3%	
	ボートレース＋競輪	13	0.2%	
	ボート＋オートレース	4	0.1%	
	競輪＋オートレース	18	0.3%	
3種類	パチンコ・パチスロ＋競馬＋ボートレース	135	2.5%	7.2%
	パチンコ・パチスロ＋競馬＋競輪	68	1.3%	
	パチンコ・パチスロ＋競馬＋オートレース	13	0.2%	
	パチンコ・パチスロ＋ボートレース＋競輪	20	0.4%	
	パチンコ・パチスロ＋ボートレース＋オートレース	4	0.1%	
	パチンコ・パチスロ＋競輪＋オートレース	8	0.1%	
	競馬＋ボートレース＋競輪	78	1.5%	
	競馬＋ボートレース＋オートレース	11	0.2%	
	競馬＋競輪＋オートレース	34	0.6%	
	ボートレース＋競輪＋オートレース	13	0.2%	
4種類	「パチンコ・パチスロ」以外の4種	85	1.6%	4.8%
	「競馬」以外の4種	17	0.3%	
	「ボートレース」以外の4種	34	0.6%	
	「競輪」以外の4種	28	0.5%	
	「オートレース」以外の4種	93	1.7%	
5種類	パチンコ・パチスロ＋公営競技4種　すべて	316	5.9%	5.9%
合計		5356	100.0%	100.0%

２．ギャンブル等の重複のしかた

１）週１回以上参加するギャンブル等の種類数

次に、個人がそれぞれのギャンブル等にどの程度頻繁に参加しているのかを見たものが図表 3-2 である。

図表 3-2　参加したギャンブル等の種類数と、週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数

		週1回以上参加するギャンブル等の種類数						合計	n
		0種類	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類		
参加したギャンブル等の種類数	1種類	66.8%	33.2%					100.0%	3456
	2種類	52.1%	36.3%	11.7%				100.0%	943
	3種類	41.4%	38.0%	12.5%	8.1%			100.0%	384
	4種類	36.6%	33.1%	15.2%	6.6%	8.6%		100.0%	257
	5種類	31.3%	32.9%	12.7%	6.6%	5.1%	11.4%	100.0%	316
合計		58.8%	34.1%	4.4%	1.3%	0.7%	0.7%	100.0%	5356

まず注目したいのは、直近 1 年で何らかのギャンブル等を行った人の約 6 割が、「週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数」は「0 種類」であると回答しており、ギャンブル等を楽しむ頻度はそれほど高くない、ということである。

また、「参加したギャンブル等の種類数」が多くなるほど、「週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数」を「0 種類」とする人は少なくなっていく。しかしそれでも、「参加したギャンブル等の種類数」が「1～2 種類」の人では過半数が「週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数」を「0 種類」と回答しており、「3 種類以上」のギャンブル等に参加している人でも「週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数」を「0 種類」とする人が 3～4 割を占めている。

だが、そうした低頻度層が多く存在する一方で、参加したギャンブル等が「3 種類以上」の場合に「参加しているギャンブル等の種類数」と「週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数」が一致する、つまり、参加した 3 種類以上のギャンブル等のすべてに「週 1 回以上」という高頻度で参加する人びともまた 1 割前後存在していることが明らかになった。

２）直近１年間に参加したギャンブル等の種類数と、週１回以上参加するギャンブル等の種類数の相関

では、「直近 1 年間に参加したギャンブル等の種類数」と、「週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数」はどの程度相関するのか。

両者の相関を見たところ $r=.427$（$p<.001$）であり、正の相関がありつつも、それほど高い値を示すわけではないことがわかった。つまり、「直近 1 年間に参加したギャンブル等の種類数」が多い人は「週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数」も多い傾向にはあるが、両者にはそこまで強い関連性が見られるわけではなかった。

３．【補論】パチンコをしながらの公営競技への参加

こうしたギャンブル等の重複については、近年、パチンコ・パチスロ店内でパチンコやスロットをしながら公営競技をする人々の増加も指摘されている。そのため、本節では、パチンコ・パチスロ店においてパチンコやスロットをしながらも、インターネットを用いていずれかの公営競技にも参加する行為を、便宜的に「ながら参加」と名付け、「ながら参加」の実態を確認する。

１）「ながら参加」の割合

今述べたとおり、近年、パチンコ・パチスロ店内でパチンコやスロットをしながら公営競技をする人々の増加が指摘されている。

図表 3-3　「ながら参加」の割合

	n	%
パチンコ店に行ったときには、パチンコ・パチスロだけをする	627	53.8%
基本的にはパチンコ店ではパチンコ・パチスロだけをするが、日によっては公営競技の投票にも参加することがある	355	30.4%
パチンコ店では、パチンコ・パチスロだけをする日と、公営競技への投票にも参加する日が、半々くらいある	136	11.7%
パチンコ店では、パチンコ・パチスロだけをする日は少なく、たいていは公営競技への投票にも参加している	32	2.7%
パチンコ店にいるときにはいつも、公営競技への投票にも参加している	16	1.4%
合計	1166	100.0%

しかしながら実際には、図表 3-3 のとおり、過半数の人は「パチンコ店に行ったときには、パチンコ・パチスロだけをする」と回答しており、「基本的にはパチンコ・パチスロだけをするが、日によっては公営競技の投票にも参加することがある」を合わせると 84.2%がパチンコ店では主にパチンコ・パチスロをしていた。

公営競技への投票に参加している日の方が多い人（「パチンコ店では、パチンコ・パチスロだけをする日は少なく、たいていは公営競技への投票にも参加している」＋「パチンコ店にいるときにはいつも、公営競技への投票にも参加している」）は 4.1%のみであった。

２）「ながら参加」の理由

では、パチンコ・パチスロ店でパチンコやスロットをしながら公営競技にも参加する人びとは、なぜ複数のギャンブル等を同時に行うのだろうか。ここでは、「パチンコ店に行ったときには、パチンコ・パチスロだけをする」と回答した 627 人を除いた 539 人に対し、

複数のギャンブル等を同時に行う理由について、「あなたがパチンコ店にいるときに、

公営競技への投票にも参加する理由は何ですか。」という質問によって、複数回答で訊ねた結果を図表 3-4 に示す。

この結果を見ると、過半数の人が「パチンコ・パチスロも好きだが、公営競技も好きだから」と回答しており、4 割以上の人が「パチンコ店に行ける日と、公営競技の開催日が被るため」や「気になるレース（重賞や、その日の勝負レースなど）があるから」と回答している。次いで多い理由は、「パチンコ・パチスロをしている間の隙間時間を活用するため」や「パチンコ・パチスロの休憩や息抜き、気分転換のため」となっているが、これらの理由はいずれも、パチンコ・パチスロが主目的となっており、公営競技への参加はあくまでその隙間時間や休憩時間の有効活用と捉えられるだろう。

一方で、「前売りで買うとオッズが変わることがあるため、なるべくリアルタイムで投票したいから」や「より多くのお金を得るチャンスが得られるから」、「一方で負けても、他で勝つことで、帳尻を合わせられる可能性があるから」といった金銭的な利益を目的とした回答や、「出先であれば、同居家族の目などを気にせずに投票券を購入することができるから」といった家族の目線を気にした回答は 2 割未満とそれほど多くはなかった。

図表 3-4　パチンコ店にいるときに公営競技の投票にも参加する理由（複数回答）

	n	%
パチンコ店に行ける日と、公営競技の開催日が被るため	228	42.3%
パチンコ・パチスロも好きだが、公営競技も好きだから	275	51.0%
パチンコ・パチスロをしている間の隙間時間を活用するため	169	31.4%
パチンコ・パチスロの休憩や息抜き、気分転換のため	142	26.3%
気になるレース（重賞や、その日の勝負レースなど）があるから	230	42.7%
前売りで買うとオッズが変わることがあるため、なるべくリアルタイムで投票したいから	96	17.8%
より多くのお金を得るチャンスが得られるから	89	16.5%
一方で負けても、他で勝つことで、帳尻を合わせられる可能性があるから	92	17.1%
出先であれば、同居家族の目などを気にせずに投票券を購入することができるから	42	7.8%
その他	3	0.6%
合計	539	

※　複数回答のため、合計値は100％にならない。

また、パチンコ店にいるときに公営競技の投票にも参加する理由が、「ながら参加」の度合いによって異なるのかどうかを見るために、「ながら参加」の度合いを独立変数、「公営競技の投票にも参加する各理由があてはまるか否か」を従属変数としたクロス集計を行い、χ^2検定にかけたところ、図表 3-5 に示す 2 項目においてのみ、有意差が見られた。

図表 3-5　「ながら参加」の度合いと、公営競技の投票にも参加する理由

パチンコ・パチスロの休憩や息抜き、気分転換のため

	あてはまる	あてはまらない	合計	n
日によっては公営競技の投票にも参加	22.3%	77.7%	100.0%	355
半々くらい	40.4%	59.6%	100.0%	136
たいていは公営競技への投票にも参加	12.5%	87.5%	100.0%	32
いつも公営競技への投票にも参加	25.0%	75.0%	100.0%	16
合計	26.3%	73.7%	100.0%	539

p <.001

一方で負けても、他で勝つことで、帳尻を合わせられる可能性があるから

	あてはまる	あてはまらない	合計	n
日によっては公営競技の投票にも参加	14.1%	85.9%	100.0%	355
半々くらい	19.9%	80.1%	100.0%	136
たいていは公営競技への投票にも参加	28.1%	71.9%	100.0%	32
いつも公営競技への投票にも参加	37.5%	62.5%	100.0%	16
合計	17.1%	82.9%	100.0%	539

p=0.015

「パチンコ・パチスロの休憩や息抜き、気分転換のため」においては、「半々くらい」の割合で公営競技にも参加する人で「あてはまる」と回答した人が多く、「日によっては公営競技の投票にも参加」する人で「あてはまらない」と回答した人が多くなっていた[30]。

また、「一方で負けても、他で勝つことで、帳尻を合わせられる可能性があるから」においては、「いつも公営競技への投票にも参加」している人で「あてはまる」と回答した人が多く、「日によっては公営競技の投票にも参加」する人で「あてはまらない」と回答した人が多くなっていた[31]。

３）「ながら参加」が多い人の基本属性

では、「ながら参加」が多い人は、どのような人なのか。ここでは、①パチンコ店では「パチンコ・パチスロしかしない」人（627 人）、②「日によっては公営競技の投票にも参加」する人（355 人）、③「公営競技の投票にも参加する日が半分以上」となっている人（「パチンコ店では、パチンコ・パチスロだけをする日と、公営競技への投票にも参加する日が、半々くらいある」＋「パチンコ店では、パチンコ・パチスロだけをする日は少なく、たいていは公営競技への投票にも参加している」＋「パチンコ店にいるときにはいつも、公営競技への投票にも参加している」）（184 人）の 3 群に分けて分析を行った。

その結果、まず、性別においては（図表 3-6）、女性は男性に比べ、「公営競技の投票にも参加する日が半分以上」ある人が多くなっていた。

---

[30] なお、クロス集計表を見ると、「たいていは公営競技への投票にも参加」している人や「いつも公営競技への投票にも参加」している人においても、「あてはまらない」が多く見えるが、残差分析にかけたところ、有意差は見られなかった（この理由としては、これらの人びとのサンプル数（n）が小さいためであると考えられる）。

[31] 「いつも公営競技への投票にも参加」する人のサンプル数は n=16 と小さいが、残差分析の結果、ここには有意差がある（調整済み残差 2.2）ことが確かめられた。

表 3-6　男女別「ながら参加」の割合

	パチンコ・パチスロしかしない	日によっては公営競技の投票にも参加	公営競技の投票にも参加する日が半分以上	合計	n
男性	54.3%	31.0%	14.7%	100.0%	1027
女性	49.6%	26.6%	23.7%	100.0%	139
合計	53.8%	30.4%	15.8%	100.0%	1166

p=0.022

また、年齢については（図表 3-7）、20～30 代では「公営競技の投票にも参加する日が半分以上」ある人が 2 割前後であるのに対し、50～60 代では「パチンコ・パチスロしかしない」人が 6 割前後となっていることから、若い人ほど「ながら参加」が多くなっていた。

図表 3-7　年齢層別「ながら参加」の割合

	パチンコ・パチスロしかしない	日によっては公営競技の投票にも参加	公営競技の投票にも参加する日が半分以上	合計	n
20～29才	53.5%	24.4%	22.0%	100.0%	127
30～39才	45.9%	35.0%	19.1%	100.0%	314
40～49才	53.9%	31.7%	14.4%	100.0%	347
50～59才	58.0%	31.0%	11.1%	100.0%	226
60～69才	63.8%	22.4%	13.8%	100.0%	152
合計	53.8%	30.4%	15.8%	100.0%	1166

p=0.003

学歴では（図表 3-8）、「専修・専門学校卒以下」において「パチンコ・パチスロしかしない」人が多く、「大卒以上」で「公営競技の投票にも参加する日が半分以上」ある人が多くなっていた。

図表 3-8　学歴別「ながら参加」の割合

	パチンコ・パチスロしかしない	日によっては公営競技の投票にも参加	公営競技の投票にも参加する日が半分以上	合計	度数
中学校	64.9%	29.7%	5.4%	100.0%	37
高等学校	59.0%	28.4%	12.6%	100.0%	334
専修・専門学校	60.7%	31.6%	7.7%	100.0%	117
短大・高専	50.0%	42.5%	7.5%	100.0%	40
大学（6年制含む）	49.4%	30.2%	20.4%	100.0%	599
大学院	48.7%	35.9%	15.4%	100.0%	39
合計	53.8%	30.4%	15.8%	100.0%	1166

p=0.002

なお、居住地域や職業、配偶状況や子どもの有無、扶養家族の有無などによっては、「ながら」参加の割合に有意な差は見られなかった。

経済状況との関連では、遊興費においては（図表 3-9）、一部例外も見られるものの、おおよその傾向としては 1 ヶ月の遊興費が「3 万 5 千円以上」の人で「ながら参加」が多く、「3 万円未満」の人で「パチンコ・パチスロしかしない人」が多くなっていた。

図表 3-9　遊興費別「ながら参加」の割合

	パチンコ・パチスロしかしない	日によっては公営競技の投票にも参加	公営競技の投票にも参加する日が半分以上	合計	度数
5千円未満	66.7%	23.1%	10.3%	100.0%	39
5千円～1万円未満	77.5%	16.9%	5.6%	100.0%	71
1万円～1万5千円未満	69.9%	25.3%	4.8%	100.0%	83
1万5千円～2万円未満	65.6%	21.4%	13.0%	100.0%	131
2万円～2万5千円未満	45.7%	38.3%	16.0%	100.0%	81
2万5千円～3万円未満	60.0%	29.2%	10.8%	100.0%	130
3万円～3万5千円未満	53.4%	30.1%	16.5%	100.0%	103
3万5千円～4万円未満	46.9%	32.1%	21.0%	100.0%	81
4万円～4万5千円未満	38.6%	33.3%	28.1%	100.0%	57
4万5千円～5万円未満	47.7%	38.4%	14.0%	100.0%	86
5万円以上	43.1%	35.2%	21.7%	100.0%	304
合計	53.8%	30.4%	15.8%	100.0%	1166

$p<0.001$

また、年収においては、個人年収別では有意差が見られなかったものの、世帯年収では（図表 3-10）、世帯年収が「100 万円未満」の場合と「1200 万円以上」の場合に、「ながら参加」が 25%を超えており、高所得者層と低所得者層の両極で「ながら参加」が多くなっていた。

図表 3-10　世帯年収別「ながら参加」の割合

	パチンコ・パチスロしかしない	日によっては公営競技の投票にも参加	公営競技の投票にも参加する日が半分以上	合計	度数
100万円未満	55.6%	18.5%	25.9%	100.0%	27
100万円～200万円未満	43.6%	38.5%	17.9%	100.0%	39
200万円～300万円未満	61.4%	22.9%	15.7%	100.0%	70
300万円～400万円未満	62.2%	32.4%	5.4%	100.0%	111
400万円～500万円未満	57.3%	28.2%	14.5%	100.0%	117
500万円～600万円未満	60.3%	27.0%	12.7%	100.0%	126
600万円～700万円未満	41.5%	42.5%	16.0%	100.0%	106
700万円～800万円未満	55.9%	32.2%	11.9%	100.0%	118
800万円～900万円未満	50.7%	32.0%	17.3%	100.0%	75
900万円～1000万円未満	41.7%	34.5%	23.8%	100.0%	84
1000万円～1200万円未満	50.6%	30.4%	19.0%	100.0%	79
1200万円以上	40.6%	32.1%	27.4%	100.0%	106
合計	52.3%	31.5%	16.3%	100.0%	1058

$p=0.002$

世帯の預貯金額では（図表 3-11）「2500 万円以上」の預貯金額がある場合に、「ながら参加」が 3 割前後と、他よりも高い値となっていた。

図表 3-11　世帯の預貯金額別「ながら参加」の割合

	パチンコ・パチスロしかしない	日によっては公営競技の投票にも参加	公営競技の投票にも参加する日が半分以上	合計	度数
預貯金はない	58.9%	26.8%	14.3%	100.0%	112
50万円未満	61.3%	26.9%	11.8%	100.0%	119
50万円～100万円未満	59.7%	30.6%	9.7%	100.0%	72
100万円～200万円未満	62.3%	26.1%	11.6%	100.0%	69
200万円～300万円未満	56.0%	30.0%	14.0%	100.0%	50
300万円～400万円未満	47.4%	42.1%	10.5%	100.0%	38
400万円～500万円未満	60.9%	19.6%	19.6%	100.0%	46
500万円～700万円未満	44.4%	31.7%	23.8%	100.0%	63
700万円～1000万円未満	43.1%	36.1%	20.8%	100.0%	72
1000万円～1500万円未満	43.1%	40.3%	16.7%	100.0%	72
1500万円～2000万円未満	47.5%	36.1%	16.4%	100.0%	61
2000万円～2500万円未満	40.6%	43.8%	15.6%	100.0%	32
2500万円～3000万円未満	42.9%	28.6%	28.6%	100.0%	21
3000万円以上	40.5%	27.9%	31.5%	100.0%	111
合計	51.7%	30.9%	17.4%	100.0%	938

p=0.005

第４章　問題ギャンブリング

パチンコ・パチスロや公営競技においては、それらへの「のめり込み」やそれに伴う問題行動といった、「パチンコ・パチスロ遊技障害」あるいは「ギャンブル障害」や「ギャンブル等依存」と呼ばれる負の側面に注目が集まることが多い。

本章では、そうした問題へつながりかねない「危険な遊び方」を暫定的に「問題ギャンブリング」と呼び、問題ギャンブリングの疑いがある人びとの実態について見ていく。

１．問題ギャンブリング疑いがある人の割合と基本属性

１）使用した問題ギャンブリング測定尺度

現在、「ギャンブル等依存症」の診断に使用されている尺度はさまざま存在しており、いずれの尺度を使用するかは各調査の目的等によって異なる。

例えば、久里浜医療センターの行った 2020 年の「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」においては図表 4-1 に示した 3 種類の測定尺度を併用しており[32]、2023 年の同名調査では、図表 4-1 の尺度から SOGS（South Oaks Gambling Screen）を除いた 2 種類の尺度を併用している[33]。

本調査においては、久里浜医療センター調査が 2020 年および 2023 年調査において使用してた「PGSI（Problem Gambling Severity Index）」[34]とともに、本研究会が 2016 年に既存のギャンブリング障害尺度や診断書の障害項目をもとに作成したパチンコ・パチスロ遊技障害尺度「PPDS（Pachinko-pachislot Playing Disorder Scale）」[35]を使用し、直近 1 年間に何らかのギャンブル等を行ったことのあるすべての人（＝本調査の対象者全員）に両尺度への回答を求めた。

なお、PPDS はもともとパチンコ・パチスロ遊技障害の実態把握のために作成された尺度であり、質問項目も「パチンコ・パチスロのことがいつも気になって仕方がない」といったようにパチンコ・パチスロについての意識を問うものとなっていたため、本調査においてはすべての質問文において「パチンコ・パチスロ」という文言を「ギャンブル等」に変更して使用した。

---

[32] 久里浜医療センター（2021）p.14 参照。

[33] 久里浜医療センター（2024b）p.9 参照。なお、久里浜医療センターは、2023 年調査において SOGS ではなく PGSI を使用した理由について、次のように述べている。すなわち、「SOGS は、PGSI と同様にギャンブル障害に関する国内外の疫学調査で数多く採用されてきたが」「SOGS は PGSI に比べて、借金について尋ねる質問が多く全体項目数が多いこと、偽陽性が多いなどの欠点が指摘されている」。そのため、「調査対象者の負担軽減のため、SOGS をスクリーニングテストの項目として採用」せず、「簡便にギャンブル問題を検出できるため、一般住民を対象とした疫学調査において世界的に用いられている」PGSI を使用した（久里浜医療センター，2024a：7）。

[34] 本調査で用いた PGSI 尺度は、Ferris & Wynne (2001)pp.48-49 に掲載された「Section 2 – Problem Gambling Assessment」の項目 5～13（計 9 項目）を使用している。なお、和訳の違いにより、久里浜医療センター（2018, 2024b）の使用した質問紙と同じ文言にはなっていない。

[35] パチンコ・パチスロ遊技障害尺度（PPDS）の詳細については、秋山ほか(2016)を参照。

図表 4-1　久里浜医療センターの 2020 年調査で使用された尺度[36]

④ギャンブル障害のスクリーニングテスト

・SOGS，PGSI，NODS-CLIP

＜本研究で用いたギャンブル障害のスクリーニングテストの概要＞

◆ SOGS (South Oaks Gambling Screen)

アメリカのサウスオークス財団が開発した病的ギャンブラーを検出するための自記式スクリーニングテストである。原版の質問数は 16 問だが，点数にはならない質問が 4 問含まれている。ギャンブル障害に関する国内外の疫学調査で数多く採用されており，わが国では，2008 年，2013 年，2017 年の全国調査で用いられた。得点範囲は 0 点～ 20 点で，本報告書では，SOGS 合計得点が 5 点以上の者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。

◆ PGSI (The Problem Gambling Severity Index)

9 項目からなる自記式のスクリーニングテストで，地域住民を対象とした疫学調査で用いることを目的に開発された。得点範囲は 0 点～ 27 点で，本研究では，PGSI で 8 点以上を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。

◆ NODS-CLIP　※ NODS (The NORC DSM- Ⅳ Screen for Gambling Problems) の簡易版

「コントロールの喪失」,「うそ」,「没頭」に関する 3 項目で構成され，DSM- Ⅳの診断基準を基に開発されたギャンブル障害のスクリーニングテストである NODS の短縮版である。いずれか 1 つ以上の項目に該当した場合に，ギャンブル障害のためのより詳しいスクリーニングテストを実施することが推奨される。※ NODS-CLIP は，次回以降の実態調査に向けた予備調査として実施された。そのため，本報告書における結果掲載は割愛した。

２）問題ギャンブリング測定尺度の単純集計

① PPDS 尺度の単純集計結果

PPDS 尺度の単純集計結果を見ると（図表 4-2）[37]、全 26 項目すべての質問文において「よくある」、「ときどきある」という回答はあまり多くなく、両者を合計して 5 割を超える項目は存在しなかった。

各項目を見ていくと、もっとも肯定割合が高かったのは「d. ギャンブル等をしている間は、ほかのことを何も考えないで済んでいる」であり、この項目のみ「よくある」が 1 割超となっており、「ときどきある」と合わせると半数近くがそうした状態にあると回答している。次いで肯定割合の高かった項目としては、「e. 私にとってギャンブル等は、ストレスから逃れるためになくてはならないものだ」、「l. ギャンブル等で負けた時、負けた分を取り返すために、その日のうち、または翌日に同じギャンブル等をしにいったことがある」、「m. 一日のうちに、予定していたよりもはるかに多くの金額をギャンブル等に使ったことがある」、「o. ギャンブル等をしていることに、罪悪感を覚えることがある」の 4 項目が挙げられ、いずれも 3 割以上の人が「よくある」、または「ときどきある」と回答していた。

---

[36] 久里浜医療センター（2021）p.14 より引用。

[37] 図 4-2 の項目 a~k の選択肢は本来「あてはまる」～「あてはまらない」の四件法だったが、調査実施者のミスにより、本調査においては項目 l~z と同様の「よくある」～「まったくない」の四件法にて実施された。

図表 4-2　PPDS 尺度の単純集計結果

		よくある	ときどきある	ほとんどない	まったくない	合計	n
a	ギャンブル等のことがいつも気になって仕方がない	3.7	19.2	34.7	42.5	100.0	5356
b	ギャンブル等のことが頭に浮かぶと、やらずには済まなくなる	3.9	18.0	33.1	45.0	100.0	5356
c	ギャンブル等をしている間だけは気分が落ち着いている	6.0	21.8	32.1	40.0	100.0	5356
d	ギャンブル等をしている間は、ほかのことを何も考えないで済んでいる	12.6	33.2	24.9	29.3	100.0	5356
e	私にとってギャンブル等は、ストレスから逃れるためになくてはならないものだ	7.4	25.7	31.2	35.7	100.0	5356
f	もっと多くのお金を得たいと思うあまりに、ギャンブル等に使う金額が増えてきた	4.9	19.2	33.1	42.8	100.0	5356
g	ギャンブル等で負けても以前ほどは不安や後悔を感じなくなったために、より一層、時間やお金を費やすようになった	4.3	14.2	37.6	43.9	100.0	5356
h	ギャンブル等をする回数や時間を減らしたら、気持ちが落ち着かなくなった	2.9	11.6	35.0	50.6	100.0	5356
i	ギャンブル等をやめようとしたら、仕事や家事や勉強などが手につかなくなった	2.3	8.2	29.6	59.9	100.0	5356
j	ギャンブル等をすることで、治療中の自分自身のからだの病気が悪くなった	2.0	6.5	24.5	67.0	100.0	5356
k	ギャンブル等をすることで、治療中の自分自身のこころの病気が悪くなった	2.0	6.8	23.8	67.4	100.0	5356
l	ギャンブル等で負けた時、負けた分を取り返すために、その日のうち、または翌日に同じギャンブル等をしにいったことがある	7.7	22.4	25.7	44.2	100.0	5356
m	一日のうちに、予定していたよりもはるかに多くの金額をギャンブル等に使ったことがある	8.2	30.8	26.3	34.7	100.0	5356
n	ギャンブル等をすることで生じた問題について、家族や周りの人に迷惑をかけて申し訳ないと感じたことがある	5.9	16.4	27.2	50.5	100.0	5356
o	ギャンブル等をしていることに、罪悪感を覚えることがある	6.8	24.8	29.0	39.4	100.0	5356
p	ギャンブル等をすることで生じた私自身の問題を考えて、人に対してきまり悪さや恥ずかしさを感じたことがある	5.2	18.1	32.0	44.7	100.0	5356
q	ギャンブル等による負けや借金を隠すために、嘘をついたことがある	4.1	15.8	25.5	54.6	100.0	5356
r	家族、友人、同僚などに嘘をついて、ギャンブル等をしたことがある	4.1	17.0	25.2	53.7	100.0	5356
s	ギャンブル等をすることによって、経済的困難におちいり、お金を出してくれるよう人に頼ったことがある	3.8	10.8	21.1	64.3	100.0	5356
t	ギャンブル等をするために、人からお金を借りたことがある	2.9	11.3	19.1	66.7	100.0	5356
u	ギャンブル等をすることによって、教育を受ける機会を失いそうになったり、または失ったことがある	2.9	7.6	19.0	70.5	100.0	5356
v	ギャンブル等をすることによって、仕事で失敗したり、職を失いそうになったことがある	2.3	5.8	16.7	75.2	100.0	5356
w	ギャンブル等のことで悩んで、自殺をはかったことがある	1.3	5.0	10.9	82.7	100.0	5356
x	ギャンブル等の問題で悩んだ末、みずから命を絶とうと思ったことがある	1.2	5.5	11.0	82.3	100.0	5356
y	ギャンブル等をすることで、家族や恋人との関係が破たんしそうになった、あるいは破たんしたことがある	2.6	7.2	13.4	76.8	100.0	5356
z	ギャンブル等に関する自分のお金の使い方をめぐって、同居している人や家族と口論になったことがある	3.0	9.5	16.0	71.5	100.0	5356

一方、「まったくない」という回答の多かった項目としては、「u. ギャンブル等をすることによって、教育を受ける機会を失いそうになったり、または失ったことがある」、「v. ギャンブル等をすることによって、仕事で失敗したり、職を失いそうになったことがある」、「w. ギャンブル等のことで悩んで、自殺をはかったことがある」、「x. ギャンブル等の問題で悩んだ末、みずから命を絶とうと思ったことがある」、「y. ギャンブル等をすることで、家族や恋人との関係が破たんしそうになった、あるいは破たんしたことがある」、「z. ギャンブル等に関する自分のお金の使い方をめぐって、同居している人や家族と口論になったことがある」の 6 項目が挙げられ、7 割以上の人がそうした経験は「まったくない」と回答していた。

PPDS 尺度は、図表 4-2 に挙げた 26 項目に加え、「最近 1 年間において、あなたはギャンブル等をするために、またはギャンブル等による借金を返すために、以下のところからお金を借りたことがありますか。」といった複数回答形式の設問から成り立っている。

本調査における当該設問では、81.6%が「借りたことはない」と回答しており、借金経験のある人は 18.4%のみだった。借金の相手（複数回答）としては、「家族または家計」（9.0%）、「ローン会社」（6.6%）、「友人または知人」（5.9%）、「銀行」（5.2%）、「サラ金」（3.5%）、「ヤミ金」（0.2%）、「その他」（0.1%）の順で多かった。

② PGSI 尺度の単純集計結果

次に、PGSI 尺度の単純集計結果を示す（図表 4-3）。

図表 4-3　PGSI の単純集計結果

		ほとんどいつもそう	たいていそう	ときどきそう	まったくない	合計	n
a	これ以上失ってはいけない金額を超えてギャンブル等をしたことがありますか	1.7	5.2	22.6	70.5	100.0	5356
b	同じような興奮を得るために、もっと大きな金額でギャンブル等をしたいと思ったことがありましたか	3.2	7.5	23.8	65.4	100.0	5356
c	ギャンブル等をするとき、損した分を取り戻そうと別の日に同じギャンブル等に行ったことがありましたか	4.1	9.3	30.7	55.8	100.0	5356
d	ギャンブル等をする資金を得るために、お金を借りたり、何かを売ったりしたことがありましたか	2.9	4.9	15.5	76.8	100.0	5356
e	自分のギャンブル等へのかかわり方に問題があるかもしれないと感じたことがありましたか	4.2	7.9	22.6	65.2	100.0	5356
f	ギャンブル等をすることによってストレスや不安を含めて、健康上の問題が生じたことがありましたか	2.0	5.2	12.1	80.8	100.0	5356
g	あなたがそのことを正しいと思うかどうかはともかく、あなたのギャンブル等に関するお金の使い方について、人から批判されたり、ギャンブル等へのかかわり方に問題があると言われたことがありますか	2.7	5.7	14.5	77.2	100.0	5356
h	ギャンブル等をすることによって、あなたやあなたの家族に何らかの経済的な問題が生じたことがありましたか	1.8	5.3	12.8	80.2	100.0	5356
i	あなたのギャンブル等のやり方や、あなたがギャンブル等をすることで生じたことについて、罪悪感を感じたことがありましたか	3.9	7.7	21.9	66.4	100.0	5356

PGSI 尺度では、9 項目すべての設問において、「まったくない」という回答が過半数を占め、「ほとんどいつもそう」や「たいていそう」といった回答はいずれも 1 割未満となっていた。

項目ごとに見てみると、もっとも肯定割合が高かったのは「c. ギャンブル等をするとき、損した分を取り戻そうと別の日に同じギャンブル等に行ったことがありましたか」であり、「ほとんどいつもそう」から「ときどきそう」までを合わせて 44.1%[38]が少なからずこうした経験があると回答している。

また、「b. 同じような興奮を得るために、もっと大きな金額でギャンブル等をしたいと思ったことがありましたか」、「e. 自分のギャンブル等へのかかわり方に問題があるかもしれないと感じたことがありましたか」、「i. あなたのギャンブル等のやり方や、あなたがギャンブル等をすることで生じたことについて、罪悪感を感じたことがありましたか」といった 3 項目においても、「ほとんどいつもそう」から「ときどきそう」までの回答を合わせると 3 割を超えることから、相対的に肯定する人が多かった項目であると言える。

一方で、「f. ギャンブル等をすることによってストレスや不安を含めて、健康上の問題が生じたことがありましたか」や「h. ギャンブル等をすることによって、あなたやあなたの家族に何らかの経済的な問題が生じたことがありましたか」といった項目では、「まったくない」と回答した人が 8 割超となっており、多くの人がそうした問題を抱えた経験はなかったことがわかる。

３）問題ギャンブリング疑いがある人の割合

次に、問題ギャンブリング疑いがある人の割合について見てみる。

問題ギャンブリング疑いの判断基準は次のとおりとした。まず、PPDS 尺度では、先行研究[39]に倣い、図表 4-2 の 26 項目について「よくある」と回答した場合には 4 点、「ときどきある」には 3 点、「ほとんどない」には 2 点、「まったくない」には 1 点を与え、合計点を求めた。合計点の最小値は 26 点、最大値は 104 点となる。また、複数選択である借金の借入先については、「借りたことはない」場合には 0 点を与え、借入先 1 つを選択するごとに 1 点を加算し、合計点を算出した。最小値は 0 点、最大値は 7 点となる。図表 4-2 の 26 項目の合計値と、借金の借入先の合計値を合算した PPDS 尺度全体の合計得点（以下、「PPDS 得点」と呼ぶ）の範囲は 26～111 点となる。本研究においては、このうち、0～60 点を問題ギャンブリングの「疑いなし」、61～63 点を「軽度の疑いあり」、64～72 点を「中度～重度の疑いあり」、「73 点以上」を「重度の疑いあり」とすることとした。

一方、PGSI 尺度では、全 9 項目について、「ほとんどいつもそう」と回答した場合には 3 点、「たいていそう」には 2 点、「ときどきそう」には 1 点、「まったくない」には 0 点を与え、最小値 0 点、最大値 27 点となるよう合計値を求めた（以下、「PGSI 得点」と呼ぶ）。本研究においては、このうち、0 点を「非問題ギャンブラー」、1～2 点を「低リスクギャンブラー」、3～7 点を「中等度問題ギャンブラー」、8～27 点を「問題ギャンブラー」とする

[38] 本項目は「ほとんどいつもそう」から「まったくない」までを合計すると 99.9%になるが、これは、小数第二位を四捨五入して表示しているためである。

[39] 秋山ほか（2016）や、日工組社会安全研究財団（2021）等を参照。

こととした。

PPDS 得点および PGSI 得点の記述統計量と両者の相関、ギャンブル等の種目別　PPDS 平均点および PGSI 平均点、および PPDS 得点および PGSI 得点の度数分布は図表 4-4～図表 4-6 のとおりである。

図表 4-4　PPDS 得点および PGSI 得点の記述統計量と相関

	最小値	最大値	平均値	標準偏差	歪度	尖度	相関
PPDS得点	26	106	44.2	16.024	0.923	0.344	.763**
PGSI得点	0	27	3.7	5.229	1.787	2.771	

n=5356

図表 4-5　ギャンブル等の種目別　PPDS 平均点および PGSI 平均点[40]

	平均点		n
	PPDS	PGSI	
パチンコ・パチスロ	48.18	4.86	3021
競馬	43.72	3.55	3267
ボートレース	50.27	5.28	1139
競輪	50.53	5.57	1046
オートレース	53.08	6.36	629

図表 4-6　PPDS 得点および PGSI 得点の度数分布

PPDS尺度

	n	%
疑いなし（60点以下）	4504	84.1
軽度の疑いあり（61～63点）	150	2.8
中度～重度の疑いあり（64～72点）	355	6.6
重度の疑いあり（73点以上）	347	6.5
合計	5356	100.0

PGSI尺度

	n	%
非問題ギャンブラー（0点）	1969	36.8
低リスクギャンブラー（1～2点）	1257	23.5
中等度問題ギャンブラー（3～7点）	1154	21.5
問題ギャンブラー（8～27点）	976	18.2
合計	5356	100.0

図表 4-6 の PPDS 得点の分布を見るに、全体の 84.1%が問題ギャンブリングの「疑いなし」とされ、「重度の疑いあり」は 6.5%のみとなっていた。このことから、年に 1 回以上

[40] 早野（2023）は、「各ギャンブルの平均 SOGS スコア」（SOGS はギャンブル障害測定尺度のうちの 1 つ。図表 4-1 も参照のこと）を算出し、「平均値の高い順に並べると、オートレース（4.35）、競輪（3.76）、競艇（3.61）、パチンコ（3.13）、競馬（2.36）」であったと報告している。本調査においても、PPDS 平均得点／PGSI 平均得点はいずれも、早野（2023）の結果と同様の順序となった。

何かしらのギャンブル等に参加する人であっても、大多数の人は「依存症」等が疑われるような「危険な遊び方」をしているわけではないことが確認された。

一方で、PGSI 得点の分布に目を向けると、PGSI 尺度では「非問題ギャンブラー」とされる人はわずか 36.8%のみであり、「問題ギャンブラー」は 18.2%に上っていた。PGSI 得点は 8 点以上を「ギャンブル依存が疑われる者」とするのが一般的であり[41]、本調査もそれに倣ったものの、久里浜医療センターの行った 2023 年調査では「過去 1 年にパチンコ、パチスロ、競馬、競輪、競艇、オートレースのいずれかを行った経験がある人」(2225 人[42]) における「問題ギャンブラー (PGSI 得点 8 点以上)」の人数は 259 人[43] (11.6%) とされており、本調査とは 6.6 ポイントの差が見られたものの、これらは調査方法等による違いによって十分に想定可能な誤差[44]であり、そこまで大きな問題にはならないと判断される。

続く次項からは、問題ギャンブリングに関するさまざまな分析を行っていくが、いずれの尺度を使用しても問題はないと考えられるものの、PPDS・PGSI の両尺度を毎回使用すると煩雑になるため、本報告書では、本研究会が行った 2017 年調査との比較検討が可能であるという観点から、以下では暫定的に PPDS 得点の結果のみを用いて分析・報告を行っていくこととする。

4）問題ギャンブリング疑いがある人の基本属性と遊技状況

ここからは、PPDS 得点を用い、基本属性によって問題ギャンブリング疑いがある人の割合に違いがあるかどうかを見ていく。

なお、ここで行った分析によってわかるのは、各基本属性と問題ギャンブリング疑いの関連性のみであり、因果関係ではないことに注意されたい。つまり、例えば、「男性は女性に比べ、問題ギャンブリング疑いがある人の割合が高かった」という結果が出たからといって、それがすなわち「性別が原因となって問題ギャンブリングを引き起こされている」といった因果関係を示すものではないことに留意されたい。

---

[41] 実際、図表 4-1 にもあるとおり、久里浜医療センターの調査においても PGSI 得点は 8 点以上を「ギャンブル等依存症疑い」として位置づけている。

[42] 久里浜医療センター (2024b) の p.20 表 2-10「過去 1 年間で経験したギャンブルの種類」において「パチンコ、パチスロ、競馬、競輪、競艇、オートレース」経験者の数を合算した数値。ここには、複数のギャンブルを重複して実施した者が含まれると思われるが (同一個人がパチスロとパチスロのどちらも行っている場合、パチンコの経験者数にもパチスロの経験者数にもカウントされている、というように、カウントの重複が存在するものと思われるが)、ローデータが入手できなかったため、暫定値として単純合計値を用いた。

[43] 久里浜医療センター (2024b) の p.36 表 2-29「過去 1 年間で経験したギャンブルの種類 (PGSI 得点 8 点以上の男女別・全体)」において「パチンコ、パチスロ、競馬、競輪、競艇、オートレース」それぞれで「PGSI 得点 8 点以上」とされた人数を合算した数値。注 41 と同様、ここには複数のギャンブルを重複して実施した者が含まれると思われるが、ローデータが入手できなかったため、暫定値として単純合計値を用いた。

[44] 誤差の原因として、具体的には、①サンプリングや調査手法の相違 (本調査はネットモニターに対するオンライン調査であり、久里浜調査は住民基本台帳からの無作為抽出によるオフライン調査であったこと)、②調査対象の年齢設定の相違 (本調査では 20～69 歳が調査対象であるのに対し、久里浜調査では 18～74 歳が対象となっている)、③PGSI 尺度を日本語訳した場合に生じたワーディングの相違 (注 35 参照)、④ (注 43・44 にも記載したとおり) 本報告書内で取り上げた久里浜調査の「問題ギャンブラー」の割合はあくまで暫定値であり正確な数値ではないこと、等が挙げられる。

① 性別

男女別では（図表 4-7)、女性に比べ、男性は問題ギャンブリングの「中度以上の疑い」がある人が若干多く見られた。

図表 4-7　性別と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
男性	82.6%	3.0%	7.1%	7.2%	100.0%	4268
女性	89.9%	2.0%	4.6%	3.5%	100.0%	1088
合計	84.1%	2.8%	6.6%	6.5%	100.0%	5356

p<.001

② 年齢

年齢別では（図表 4-8)、年齢が上がるほどに「重度の疑いあり」の人は少なくなっており、「疑いなし」の人が多くなる傾向にあった。特に 20～30 代では「中度以上の疑い」がある人が多く、2 割弱となっていた。

図表 4-8　年齢と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
20～29才	76.6%	3.7%	8.3%	11.4%	100.0%	508
30～39才	79.0%	2.7%	7.6%	10.7%	100.0%	1014
40～49才	81.9%	2.6%	8.4%	7.1%	100.0%	1407
50～59才	88.0%	2.7%	5.4%	4.0%	100.0%	1356
60～69才	90.5%	2.9%	4.2%	2.4%	100.0%	1071
合計	84.1%	2.8%	6.6%	6.5%	100.0%	5356

p<.001

③　学歴

問題ギャンブリング疑いの割合に学歴による違いは見られなかった。

④ 職業

職業においては、サンプル数が 100 に満たない「自営業の家族従業員」(23 人)、「経営者」(67 人)、「学生」(88 人)、「家事手伝い」(6 人)、「失業手当受給者」(8 人)、「生活保護受給者」(23 人）は、すべて「その他」に統合し、検定を行った。

その結果（図表 4-9)、「正社員（職員)」において「重度の疑いあり」の人が若干多く、「年金受給者」において「重度の疑いあり」の人が少ない傾向が見られた。

図表 4-9　職業と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
正社員（職員）	81.1%	2.8%	7.6%	8.4%	100.0%	2881
派遣・契約・嘱託・非常勤　社員（職員）	88.8%	2.0%	5.9%	3.4%	100.0%	358
パート・アルバイト	86.2%	2.8%	6.2%	4.8%	100.0%	600
自営業・自由業	88.1%	3.0%	5.3%	3.6%	100.0%	472
専業主婦・主夫	88.8%	3.3%	3.3%	4.5%	100.0%	269
年金受給者（老齢、障害、遺族年金等）	89.9%	3.8%	4.4%	1.9%	100.0%	158
無職	86.6%	2.5%	6.1%	4.8%	100.0%	395
その他	86.5%	2.2%	5.8%	5.4%	100.0%	223
合計	84.1%	2.8%	6.6%	6.5%	100.0%	5356

p<.001

⑤ 家族構成

配偶状況や子どもの有無によって、問題ギャンブリング疑いの割合に違いは見られなかった。

しかし、扶養家族の有無では有意な差が見られ（図表 4-10）、扶養家族が「いない」人に比べ、扶養家族が「いる」人には、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人が若干多く見られた。

図表 4-10　扶養家族の有無と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
扶養家族なし	86.2%	3.0%	6.0%	4.9%	100.0%	2666
扶養家族あり	82.0%	2.6%	7.3%	8.1%	100.0%	2690
合計	84.1%	2.8%	6.6%	6.5%	100.0%	5356

p<.001

⑥ 遊興費

遊興費では（図表 4-11）、遊興費「3 万 5 千円」～「4 万 5 千円未満」で問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人が多く、1 割を超えていた。一方、遊興費が「1 万円未満」の層では「疑いなし」が 9 割を超えていた。

図表 4-11　遊興費と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
5千円未満	93.0%	2.0%	2.9%	2.1%	100.0%	561
5千円～1万円未満	90.5%	1.3%	5.0%	3.2%	100.0%	681
1万円～1万5千円未満	82.9%	4.1%	6.9%	6.1%	100.0%	510
1万5千円～2万円未満	84.7%	2.8%	6.7%	5.9%	100.0%	645
2万円～2万5千円未満	81.5%	3.1%	8.9%	6.5%	100.0%	383
2万5千円～3万円未満	84.3%	4.3%	5.9%	5.5%	100.0%	676
3万円～3万5千円未満	77.4%	3.4%	10.4%	8.8%	100.0%	328
3万5千円～4万円未満	81.3%	1.1%	6.5%	11.2%	100.0%	278
4万円～4万5千円未満	75.2%	2.8%	9.2%	12.8%	100.0%	141
4万5千円～5万円未満	82.7%	4.0%	6.2%	7.1%	100.0%	323
5万円以上	79.8%	2.3%	8.2%	9.8%	100.0%	830
合計	84.1%	2.8%	6.6%	6.5%	100.0%	5356

p<.001

⑦ 個人年収

個人年収では（図表 4-12）、年収「200 万円未満」の層では問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人が若干少ないのに対し[45]、年収「400～600 万円未満」の層では「重度の疑いあり」の人が若干多くなっていた。

図表 4-12　個人年収と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
200万円未満	86.2%	3.0%	6.3%	4.6%	100.0%	1186
200～400万未満	83.0%	3.6%	6.5%	6.9%	100.0%	1286
400～600万未満	80.8%	2.7%	7.6%	8.9%	100.0%	1195
600～800万未満	82.7%	3.4%	6.0%	7.9%	100.0%	554
800～1000万未満	82.6%	1.2%	8.1%	8.1%	100.0%	247
1000万円以上	87.8%	1.1%	6.7%	4.4%	100.0%	180
合計	83.4%	2.9%	6.8%	6.9%	100.0%	4648

p=0.007

⑧ 世帯年収

世帯年収においては（図表 4-13）、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人が目立って多い層などは見受けられなかった。

しかしながら、年収「1000 万円以上」の層において問題ギャンブリングの「疑いなし」

[45] 図 4-12 を見ると年収「1000 万円以上」の層でもっとも「重度の疑いあり」の人の割合が少なくなっているが、残差分析にかけたところ、年収「1000 万円以上」では有意差が見られなかった（調整済み残差-1.3）。

の人が相対的に多く見られた。また、年収「200 万円～300 万円未満」の層においては、問題ギャンブリングの「疑いなし」の人が取り立てて多かったわけではないものの、「重度の疑いあり」の人が相対的に少なかった。

図表 4-13　世帯年収と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
100万円未満	82.6%	1.4%	8.7%	7.2%	100.0%	207
100万円～200万円未満	83.7%	3.5%	6.6%	6.2%	100.0%	258
200万円～300万円未満	83.0%	4.5%	8.0%	4.5%	100.0%	399
300万円～400万円未満	81.4%	4.4%	7.4%	6.8%	100.0%	585
400万円～500万円未満	81.8%	2.8%	7.9%	7.5%	100.0%	533
500万円～600万円未満	84.7%	1.9%	5.8%	7.5%	100.0%	570
600万円～700万円未満	82.8%	2.6%	6.1%	8.5%	100.0%	425
700万円～800万円未満	82.0%	3.6%	7.4%	7.0%	100.0%	417
800万円～900万円未満	79.6%	1.8%	8.7%	9.8%	100.0%	275
900万円～1000万円未満	80.3%	1.7%	8.3%	9.7%	100.0%	289
1000万円以上	87.6%	1.1%	5.5%	5.9%	100.0%	563
合計	83.0%	2.7%	7.1%	7.2%	100.0%	4521

p=0.039

⑨ 世帯の預貯金額

世帯の預貯金額では（図表 4-14）、「預貯金はない」と回答した人と、預貯金額が「300 万円」～「500 万円未満」の層において、問題ギャンブリングの「中度以上の疑い」がある人が多くなっており、いずれも 2 割前後となっていた。

図表 4-14　世帯の預貯金額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
預貯金はない	74.3%	5.1%	10.2%	10.4%	100.0%	646
50万円未満	79.6%	4.2%	7.8%	8.4%	100.0%	549
50万円～100万円未満	85.6%	2.8%	5.5%	6.1%	100.0%	326
100万円～200万円未満	83.4%	2.4%	7.3%	6.9%	100.0%	289
200万円～300万円未満	83.0%	3.3%	7.5%	6.2%	100.0%	241
300万円～400万円未満	73.2%	4.6%	11.8%	10.5%	100.0%	153
400万円～500万円未満	79.3%	1.9%	7.0%	11.7%	100.0%	213
500万円～700万円未満	83.1%	3.2%	7.8%	5.9%	100.0%	219
700万円～1000万円未満	85.0%	1.6%	4.9%	8.5%	100.0%	246
1000万円～1500万円未満	84.5%	2.0%	6.0%	7.5%	100.0%	252
1500万円以上	86.9%	1.5%	5.6%	6.0%	100.0%	735
合計	81.7%	3.0%	7.3%	7.9%	100.0%	3869

p<.001

⑩ 直近 1 年で参加したギャンブル等の種類数

直近 1 年で参加したギャンブル等の種類数では（図表 4-15）、「1 種類」のみの人では問題ギャンブリングの「疑いなし」が約 9 割であるのに対し、種類数が増えるごとに「疑いなし」の割合は減少していき、「重度の疑いあり」の人が増加していた。「5 種類」すべてのギャンブル等を行う人では、「重度の疑いあり」の人が 4 人に 1 人の割合となっていた。

図表 4-15　ギャンブル等の種類数と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
1種類	89.8%	2.6%	4.9%	2.7%	100.0%	3456
2種類	79.2%	2.7%	9.0%	9.1%	100.0%	943
3種類	73.4%	5.7%	10.2%	10.7%	100.0%	384
4種類	71.6%	2.7%	9.3%	16.3%	100.0%	257
5種類	59.5%	2.2%	11.4%	26.9%	100.0%	316
合計	84.1%	2.8%	6.6%	6.5%	100.0%	5356

p<.001

なお、分散分析（F=141.052，p<.001）および多重比較（Bonferroni）によって、直近 1 年で参加したギャンブル等の種類数ごとに PPDS の平均得点を比較したところ（図表 4-16）、「1 種類」＜「2 種類」＜「3～4 種類」＜「5 種類」の間で 0.1%水準での有意差が見られた（「3 種類」と「4 種類」の間には有意差なし）。

図表 4-16　ギャンブル等の種類数と PPDS 得点（記述統計量）

	平均値	標準偏差	n
1種類	40.8	13.813	3456
2種類	47.5	16.268	943
3種類	50.3	16.551	384
4種類	51.8	18.694	257
5種類	57.0	21.152	316
合計	44.15	16.024	5356

⑪ 週に 1 回以上参加しているギャンブル等の種類数

週に 1 回以上参加しているギャンブル等の種類数について見てみると（図表 4-17）[46]、「⑩直近 1 年で参加したギャンブル等の種類数」と同様、週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数が増えるごとに「疑いなし」の割合は減少し、「重度の疑いあり」が増加していた。

また、週に 1 回以上参加しているギャンブル等が「0 種類」であっても、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」とされる人が 3.7%（116 人）存在することが明らかとなった。

[46] ここでは、「週に 1 回以上参加しているギャンブル等の種類数」が「3 種類」（69 人）、「4 種類」（38 人）、「5 種類」（36 人）であった人は、サンプル数の関係上、「3 種類以上」としてまとめて検定を行った。

図表 4-17　週に 1 回以上参加しているギャンブル等の種類数と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
0種類	89.6%	2.1%	4.6%	3.7%	100.0%	3151
1種類	78.5%	4.2%	9.1%	8.2%	100.0%	1825
2種類	70.5%	0.8%	11.4%	17.3%	100.0%	237
3種類以上	56.6%	2.8%	12.6%	28.0%	100.0%	143
合計	84.1%	2.8%	6.6%	6.5%	100.0%	5356

p<.001

なお、分散分析（F=201.332，p<.001）および多重比較（Bonferroni）によって、週に 1 回以上参加しているギャンブル等の種類数ごとに PPDS の平均得点を比較したところ（図表 4-18）、すべての項目間で 0.1%水準での有意差が見られた。

図表 4-18　週に 1 回以上参加しているギャンブル等の種類数と PPDS 得点（記述統計量）

	平均値	標準偏差	n
0種類	40.27	14.53	3151
1種類	48.26	15.586	1825
2種類	54.52	17.628	237
3種類以上	59.98	19.524	143
合計	44.15	16.024	5356

⑫ 全ギャンブル等の年間合計参加回数

続いて、各回答者が、全種類のギャンブル等を合わせて 1 年間にどれくらいの頻度で参加しているか（年間合計参加回数）と PPDS 得点との関連性について見ていく。

年間合計参加回数の算出方法は、以下の手順で行った。まず、それぞれのギャンブル等の種類別に参加頻度を訊ねた質問において、「年 1 回程度」と回答していれば「1」、「月 1 回程度」と回答していれば「12」というように、すべて 1 年あたりの参加回数へと換算した。その際、「月 2～3 回」のような選択肢においては階級値をとり、「月 2.5 回×12 か月＝30 回」のように換算した。そして回答者ごとに、参加したすべてのギャンブル等の年間回数を合算し、全ギャンブル等の「年間合計参加回数」を算出した。

全ギャンブル等の「年間合計参加回数」の記述統計量は図表 4-19 のとおりである。また、全ギャンブルの年間合計参加回数と PPDS 得点との相関は r=.301（p<.001）であった。

その後、分析のしやすさやわかりやすさを考慮し、全ギャンブルの年間合計参加回数を「年 5 回以下」や「週 1 回以上」といったカテゴリーに再分類した（これを「全ギャンブルの参加頻度」と呼称する）。「全ギャンブルの参加頻度」の度数分布は図表 4-20 のとおりとなった。

図表 4-19
年間合計参加回数の
記述統計量

最小値	1
最大値	1430
平均値	77.7
最頻値	30
中央値	30
標準偏差	125.015
歪度	4.143
尖度	27.829
n	5356

図表 4-20　全ギャンブルの参加頻度の度数分布

	n	%
年5回以下	1395	26.0%
2ヶ月に1回以上（年6～11回）	149	2.8%
月1回以上（年12～23回）	615	11.5%
月2回以上（年24～51回）	880	16.4%
週1回以上（年52～103回）	881	16.4%
週2回以上（年104～155回）	754	14.1%
週3回以上（年156～207回）	159	3.0%
週4回以上（年208～364回）	376	7.0%
毎日1回以上（年365回以上）	147	2.7%
合計	5356	100.0%

なお、回答者がもともと複数種類のギャンブル等を行っている場合には、当然、全ギャンブル等の参加回数も高くなる傾向にあると推測されるが、参加しているギャンブル等の種類数と、全ギャンブル等の参加頻度は図表 4-21 のとおりであり、相関は r=.404(p<.001) と、そこまで強い関連性があるわけではなかった。また、参考までに、週に 1 回以上参加しているギャンブル等の種類数と全ギャンブル等の参加頻度は図表 4-22 のとおりであり、相関は r=.773（p<.001）となっていた。

図表 4-21　参加しているギャンブル等の種類数と全ギャンブル等の参加頻度[47]

	年5回以下	2ヶ月に1回以上（年6～11回）	月1回以上（年12～23回）	月2回以上（年24～51回）	週1回以上（年52～103回）	週2回以上（年104～155回）	週3回以上（年156～207回）	週4回以上（年208～364回）	毎日1回以上（年365回以上）	合計	n
1種類	37.0%	-	12.8%	17.0%	15.0%	13.9%	-	4.3%	-	100.0%	3456
2種類	9.3%	11.7%	9.9%	18.2%	19.2%	13.1%	7.0%	8.9%	2.7%	100.0%	943
3種類	3.9%	4.9%	12.5%	13.8%	18.2%	18.5%	8.6%	12.2%	7.3%	100.0%	384
4種類	3.9%	5.4%	7.4%	13.2%	16.7%	14.8%	10.1%	14.0%	14.4%	100.0%	257
5種類	0.9%	1.9%	4.4%	10.4%	21.8%	13.0%	10.8%	18.7%	18.0%	100.0%	316
合計	26.0%	2.8%	11.5%	16.4%	16.4%	14.1%	3.0%	7.0%	2.7%	100.0%	5356

図表 4-22　週 1 回以上参加しているギャンブル等の種類数と全ギャンブル等の参加頻度

	年5回以下	2ヶ月に1回以上（年6～11回）	月1回以上（年12～23回）	月2回以上（年24～51回）	週1回以上（年52～103回）	週2回以上（年104～155回）	週3回以上（年156～207回）	週4回以上（年208～364回）	毎日1回以上（年365回以上）	合計	n
0種類	44.3%	4.7%	19.5%	27.9%	3.2%	0.3%	-	-	-	100.0%	3151
1種類	-	-	-	-	42.7%	37.9%	5.3%	14.0%	-	100.0%	1825
2種類	-	-	-	-	-	21.5%	22.8%	31.2%	24.5%	100.0%	237
3種類	-	-	-	-	-	-	11.6%	31.9%	56.5%	100.0%	69
4種類	-	-	-	-	-	-	-	28.9%	71.1%	100.0%	38
5種類	-	-	-	-	-	-	-	36.1%	63.9%	100.0%	36
合計	26.0%	2.8%	11.5%	16.4%	16.4%	14.1%	3.0%	7.0%	2.7%	100.0%	5356

[47] セル内が「-」となっている箇所は該当者 0 人。図表 4-22 も同様。

以上の手続きを踏まえて作成した全ギャンブル等の参加頻度と、PPDS との関連性は図表 4-23 および図表 4-24 のとおりである。

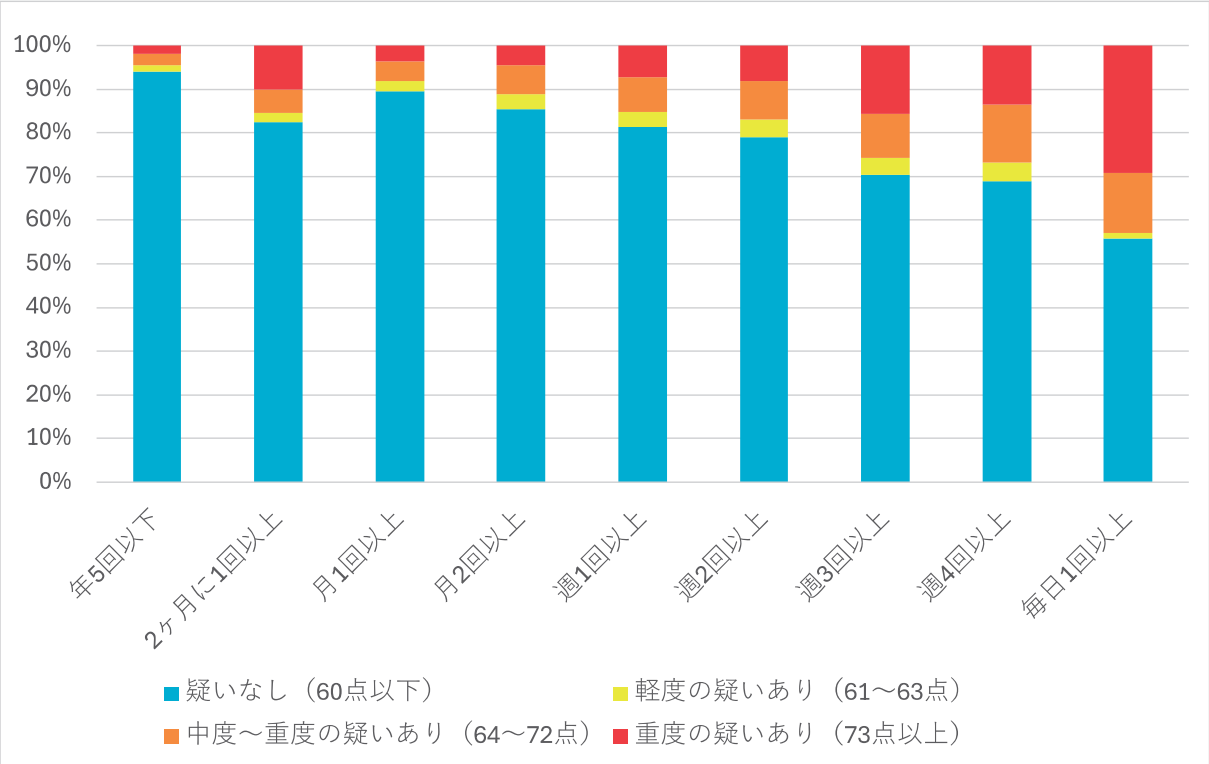
一部例外（「2 か月に 1 回以上（年 6～11 回）」）は見られるものの、総じて、全ギャンブル等の参加頻度が高くなるほど、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合は増加している。その一方で、全ギャンブル等を合わせたとしても「週 3 回未満（年 155 回以内）」で留めている場合には、おおよそ 8 割以上の人びとが問題ギャンブリングの「疑いなし」の状態であることがわかる。

図表 4-23　全ギャンブル等の参加頻度と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
年5回以下	94.1%	1.4%	2.6%	1.9%	100.0%	1395
2ヶ月に1回以上（年6～11回）	82.6%	2.0%	5.4%	10.1%	100.0%	149
月1回以上（年12～23回）	89.4%	2.4%	4.6%	3.6%	100.0%	615
月2回以上（年24～51回）	85.5%	3.3%	6.8%	4.4%	100.0%	880
週1回以上（年52～103回）	81.4%	3.4%	7.9%	7.3%	100.0%	881
週2回以上（年104～155回）	79.0%	4.0%	8.9%	8.1%	100.0%	754
週3回以上（年156～207回）	70.4%	3.8%	10.1%	15.7%	100.0%	159
週4回以上（年208～364回）	68.9%	4.3%	13.3%	13.6%	100.0%	376
毎日1回以上（年365回以上）	55.8%	1.4%	13.6%	29.3%	100.0%	147
合計	84.1%	2.8%	6.6%	6.5%	100.0%	5356

p<.001

図表 4-24　全ギャンブル等の参加頻度と問題ギャンブリング疑い（グラフ）



⑬ 対象者の基本属性および遊技状況と問題ギャンブリング疑い

最後に、ここまで見てきた対象者の各基本属性および遊技状況を独立変数とし、問題ギャンブリングの「重度の疑い」の有無を従属変数とした二項ロジスティック回帰分析を行った。

二項ロジスティック回帰分析とは、ある事象がさまざまな条件下においてどの程度の確率で生起するかを求める分析方法である。この分析方法を用いる利点は、基本属性間における互いの影響を排除し、独立した影響力を明らかにすることができる点にある。例えば、ここまでの分析結果を見ると、「①性別」では、男性は女性に比べて問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人が多く（図表 4-7)、「④職業」では、「正社員（職員)」は他の職業に比べて問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人が多いことが示された（図表 4-9)。しかし、現在の日本における職業上の地位の分布を見ると、「正社員（職員)」における男女比はおおよそ 7：3 となっており、圧倒的に男性が多くなっている。その場合、他の職業に比べて「正社員（職員)」に問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人が多いのは、「正社員（職員)」にもともと男性が多いことに由来するのではないかという疑問が持ち上がる。そうした場合に、性別の影響を排除し、職業単独では問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」にどの程度影響があるのかを見ることができるのが、ロジスティック回帰分析の利点である。なお、各要因の影響力は「事象の生起しやすさ（生起する確率)」を表すオッズ比（図表 4-25 右端にある「Exp(B)」）[48]によって示される。

今回は、対象者の基本属性――性別、年齢、学歴、職業、配偶状況、子どもの有無、扶養家族の有無、遊興費、個人年収、世帯年収、世帯の預貯金額――、およびギャンブル等への参加状況――直近 1 年で参加したギャンブルの種類数、週に 1 回以上参加しているギャンブル等の種類数、全ギャンブル等の参加頻度[49]――を独立変数として投入し、問題ギャンブリングの「重度の疑い」の有無に対して有効な要因を探った。

その際、年齢、および「直近 1 年で参加したギャンブルの種類数」、「週 1 回以上参加したギャンブル等の種類数」においては比例尺度であるためローデータをそのまま使用した。また、質的変数の場合には、統計ソフト SPSS の「カテゴリ変数の定義」において、性別では「女性」を、学歴では「中学校」卒を、職業では「正社員（職員)」を、配偶状況では「未婚」を、扶養家族と子どもの有無では「いない」を、遊興費では「5 千円未満」を、個人年収では「200 万円未満」を、世帯年収では「100 万円未満」を、世帯の預貯金額では「預貯金はない」を、全ギャンブル等の参加頻度では「年 5 回以下」を基準値として設定した。

分析（変数増加法）はステップ 7 まで進行し、「性別」、「年齢」、「子どもの有無」、「扶養家族の有無」、「世帯の預貯金額」、「直近 1 年で参加したギャンブルの種類数」、および「全ギャンブルの年間合計参加回数」において有意な結果が得られた（図表 4-25)。

---

[48] オッズ比は 0 以上の値をとり、Exp(B)＝1 ならば確率は等倍（変化なし）であり、1 よりも大きい場合には確率が上昇し（例えば Exp(B)＝2 ならば、当該事象の生起する確率が 2 倍になる)、1 未満の場合には確率が低下する（例えば Exp(B)＝0.5 ならば、当該事象の生起する確率は 0.5 倍、つまりは半分になる)。

[49] 「全ギャンブル等の参加頻度」に代わり、全ギャンブル等の「年間合計参加回数」を投入することも検討したが、「年間合計参加回数」を投入した場合、年に 1 回参加回数が増えることの効果はごく小さく、有意な効果は見られなかった。そのため、図表 4-25 では、全ギャンブル等の「年間合計参加回数」ではなく「全ギャンブル等の参加頻度」変数を投入した結果を呈示している。

図表 4-25　対象者の基本属性と問題ギャンブリング疑い

	B	標準誤差	有意確率	Exp(B)
性別（基準：女性）	0.489	0.224	0.029	1.63
年齢（ローデータ）	-0.044	0.006	＜.001	0.96
子どもの有無（基準：いない）	0.395	0.182	0.030	1.49
扶養家族（基準：いない）	0.482	0.184	0.009	1.62
世帯の預貯金額（基準：預貯金はない）			＜.001	
世帯の預貯金額(1)_50万円未満	-0.614	0.233	0.008	0.54
世帯の預貯金額(2)_50万円～100万円未満	-0.812	0.294	0.006	0.44
世帯の預貯金額(3)_100万円～200万円未満	-1.014	0.318	0.001	0.36
世帯の預貯金額(4)_200万円～300万円未満	-0.946	0.333	0.004	0.39
世帯の預貯金額(5)_300万円～400万円未満	-0.451	0.337	0.180	0.64
世帯の預貯金額(6)_400万円～500万円未満	-0.133	0.286	0.642	0.88
世帯の預貯金額(7)_500万円～700万円未満	-1.229	0.350	＜.001	0.29
世帯の預貯金額(8)_700万円～1000万円未満	-0.858	0.309	0.005	0.42
世帯の預貯金額(9)_1000万円～1500万円未満	-0.943	0.309	0.002	0.39
世帯の預貯金額(10)_1500万円以上	-1.382	0.245	＜.001	0.25
直近1年で参加したギャンブル等の種類数（ローデータ）	0.444	0.053	＜.001	1.56
全ギャンブル等の参加頻度（基準：年5回以下）			＜.001	
全ギャンブル等の参加頻度(1)_2ヶ月に1回以上	1.196	0.407	0.003	3.31
全ギャンブル等の参加頻度(2)_月1回以上	0.234	0.367	0.525	1.26
全ギャンブル等の参加頻度(3)_月2回以上	0.915	0.304	0.003	2.50
全ギャンブル等の参加頻度(4)_週1回以上	0.967	0.298	0.001	2.63
全ギャンブル等の参加頻度(5)_週2回以上	1.155	0.299	＜.001	3.17
全ギャンブル等の参加頻度(6)_週3回以上	1.442	0.366	＜.001	4.23
全ギャンブル等の参加頻度(7)_週4回以上	1.463	0.315	＜.001	4.32
全ギャンブル等の参加頻度(8)_毎日1回以上	1.974	0.355	＜.001	7.20
定数	-2.615	0.416	＜.001	0.07
n	3461			
p	＜.001			
Cox-Snell R2 乗	0.101			
Nagelkerke R2 乗	0.235			
Hosmer と Lemeshow の検定	0.440			

「性別」においては、男性は女性に比べ、「重度の疑いあり」と判別される確率が 1.6 倍程度高いことが示された。

「年齢」においては、Exp(B)＝0.957 であることから、年齢が 1 歳上がるごとに「重度の疑いあり」と判別される確率は 4%程度減少することが示された。

「子どもの有無」および「扶養家族の有無」では、扶養家族や子どもが「いる」人は、「いない」人に比べ、1.5～1.6 倍程度、「重度の疑いあり」と判別される確率が高いことが示された。

「世帯の預貯金額」では、「預貯金はない」と回答した人に比べ、預貯金額が「0～300万円未満」の人と「500 万円以上」の人は「重度の疑いあり」と判別される可能性がおおよそ 45～75%程度減少することが示された。

「直近 1 年以内に参加したギャンブル等の種類数」では、参加するギャンブル等の種類数が 1 種類増えるごとに「重度の疑いあり」と判別される可能性はおおよそ 1.6 倍になることが示された。

また、「全ギャンブル等の参加頻度」では、「年 5 回以下」の人と比べ、「2 か月に 1 回以上（年 6～11 回)」あるいは「月 1 回以上（年 12～23 回)」～「週 2 回以上（年 104～155 回)」の人では「重度の疑いあり」と判別される可能性が 2.5～3.3 倍程度に、「週 3 回以上（年 156～207 回)」～「週 4 回以上（年 208～364 回以下)」では 4.2～4.3 倍程度に、「毎日 1 回以上（年 365 回以上)」では 7.2 倍にも上昇することが示された。

【コラム④】

本報告書に用いられる用語について
（パチンコ・パチスロ遊技障害／ギャンブル等依存症／ギャンブリング障害／問題ギャンブリング／危険な遊び方等）

賭け事や金銭リスクを伴う娯楽によって、暮らしや健康に負の影響がでることや、参加者の一部に暮らしに深刻な影響がでるほどにのめり込んでしまう人たちがいること、のめり込んだ状態が持続し生活破綻にまで至る人たちがいることが、大昔から知られてきた。これらの問題や問題を有する人たちは、これまでギャンブル狂やギャンブル中毒、病的賭博者、ギャンブル依存症など、様々な呼び名で呼ばれてきた。

合法化された商業的なギャンブリングの市場が国境を越えて広がるにつれて、問題に関する用語や概念の曖昧さや混乱は問題の実態把握や対策の障壁となってきたため、国際的にも概念の整理と統一が図られてきている。現在もその途上にあることを留意していただきたい。

本報告書では、パチンコ・パチスロ遊技障害／ギャンブル等依存症／ギャンブリング障害／問題ギャンブリング／危険な遊び方等の用語を使用しており、それぞれの概念に対して解説を行っておきたい。

先述した用語や概念の混乱の収束に向けた大きな動きのひとつとして、2013 年に米国精神医学会が作成する、精神疾患・精神障害の分類マニュアルである DSM の第 5 版（DSM-5）に **Gambling Disorder** が登場した。日本精神神経学会監修日本語版では**ギャンブル障害**（研究会では**ギャンブリング障害**）と訳されている。DSM-5 は、賭け事へののめり込みを軽度・中等度・重度と重症度別に分けることによって、問題があるかどうか、病的かどうかというような 2 元的な分類から踏み出したことで、概念を大きく変えることになった。2022 年の DSM-5 の改定を機に、日本精神神経学会による Gambling Disorder の邦訳は、ギャンブル障害から**ギャンブル行動症**に変更された。

DSM- 5 の改定に先立ち、2021 年に世界保健機構（WHO）は、国際的な疾病診断基準である ICD-11 が交付され、ICD11 においても Gambling Disorder の診断名が採用された。ICD-11 では、定義の厳密化が行われており、DSM-5 と ICD-11 に同一の診断名があるものの、ICD-11 の方が診断においてより厳密となっているというズレが生じている。ICD-11 では、障害水準を満たさない問題がある人たちを、**「危険なギャンブルの遊び方」**というカテゴリーに分類している。この基準では、①遊び方をコントロールできない②人生の関心事や日常生活よりギャンブルを優先させてしまう③人間関係や健康・経済面への悪影響があるのに続けてしまうという 3 つの問題に注目しており、①～③すべてが、長期間（例えば 1 年以上）続いており、これらが原因で生活に顕著な障害が発生したり、本人や周囲が苦痛を感じたりする場合は、Gambling Disorder（現時点

で、ICD-11 における邦訳は未確定）と診断される。ただし、この診断は、この項目だけでなく、その他の情報を勘案し、医師によりなされなければならない。

このように用語や概念が世界的に統一や検証が重ねられる流れの中で、日本では IR 整備の動きの中で、これらの問題への対策を行うために**ギャンブル等依存症**という医学的概念とは異なる用語が行政的に作られた。ギャンブル等依存症には、危険な遊び方からギャンブル行動症の人、医学的診断では他の要因で診断適応がない人まで含むかなり幅広いものとなっている。世界の概念整理とは関連なく、国内の事情で作られた行政用語であり、その役割が医学的診断基準と異なることは留意しておく必要がある。

私たちの研究会は、2013 年（米国での DSM-5 発表が 2014 年）に発足し、概念や用語の改定を踏まえながら研究を進めてきた。パチンコ・パチスロののめり込み問題の実態把握調査に着手するにあたって、海外の診断基準・診断名にそのまま当てはめることの妥当性の疑問から、研究会内で検討を重ね、パチンコ・パチスロののめり込みによって健康や暮らしに弊害が起きている状態を**パチンコ・パチスロ遊技障害**と名付けた。「パチンコ・パチスロ遊技障害尺度」（PPDS）を開発し、障害疑いのカットオフポイントを設定している。

本研究会で使用している**「危険な遊び方」**の用語は、ICD-11 診断基準概念と日本語では類似しているが、遊技のスタイル・付き合い方という一般的な用語として用いている。

問題ギャンブリングの用語は、DSM-5 の登場まで、重度でコントロールを失うほどの状態ではないが、ギャンブリングによって健康や生活への影響が生じている状態または水準を表現する用語として広く用いられてきた。ギャンブリング問題の評価尺度においても、この用語は現在でも用いられている。本報告書においても、定義は若干曖昧であるものの、健康や生活を脅かす、より深刻な状態になりかねない、問題につながりかねないギャンブリング行動（危険な遊び方）を、**問題ギャンブリング**とし、これらの状態にある人たちを**問題ギャンブラー**としている。

（西村直之）

２．ギャンブル等の種類別　問題ギャンブリング

前節では、各ギャンブル等の種類を区別することなく、問題ギャンブリング疑いのある人の割合等について見てきたが、本節では、ギャンブル等の種類別に、問題ギャンブリング疑いのある人の割合、および、それぞれのギャンブル等における遊技状況と問題ギャンブリングとの関連について見ていく。

１）ギャンブル等の種類別　問題ギャンブリング疑いのある人の割合

まず、各ギャンブル等における問題ギャンブリング疑いがある人の割合について見てみると（図表 4-26)、「パチンコ・パチスロ」と「競馬」では、問題ギャンブリングの「疑いなし」が 8 割前後、「重度の疑いあり」は 1 割未満となっており、これら 5 種類のギャンブル等の中では問題ギャンブリングの疑いありと判別されるリスクが低いことが窺える。

続いて「ボートレース」と「競輪」では、問題ギャンブリングの「疑いなし」が 7 割ほどとなっており、「重度の疑いあり」は 15%前後となっていた。

もっとも問題ギャンブリングの疑いありと判別されるリスクが高いのは「オートレース」で、問題ギャンブリングの「疑いなし」の人は 7 割を切っており、「重度の疑いあり」が 20%超となっていた。

図表 4-26　ギャンブル等の種類と問題ギャンブリング

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
パチンコ・パチスロ	79.0%	3.5%	8.4%	9.1%	100.0%	3021
競馬	83.6%	2.4%	6.5%	7.5%	100.0%	3267
ボートレース	72.4%	3.1%	9.7%	14.8%	100.0%	1139
競輪	71.7%	3.4%	9.0%	15.9%	100.0%	1046
オートレース	67.7%	1.9%	10.2%	20.2%	100.0%	629

２）パチンコ・パチスロの遊技状況と問題ギャンブリング疑い

次に、ギャンブル等の種類別に、参加頻度や使用金額・負け額と問題ギャンブリングとの関連性を見ていく。

ただしここでは、パチンコ・パチスロに参加している人すべてを対象として分析を行うため、他ギャンブルを重複して行っている人も含まれていることに注意されたい。つまり例えば、パチンコ・パチスロに参加している人の中には、パチンコ・パチスロしかしない人と、パチンコ・パチスロに加え公営競技にも参加している人がおおよそ半々の割合で存在しているが、以下では「公営競技にも参加している人」も含めた全パチンコ・パチスロユーザーを対象に、パチンコ・パチスロへの参加頻度等と問題ギャンブリング疑いの関連性について見ていく。そのため、パチンコ・パチスロには「年に 1 回程度」しか参加していないのに「重度の疑いあり」に分類されるようなケースも見られるが、その場合には、

公営競技への参加頻度が高い可能性なども要因のひとつとして考えられるだろう。

以上を踏まえ、まずはパチンコ・パチスロにおける遊技状況と問題ギャンブリング疑いとの関連について見ていく。パチンコ・パチスロでは、参加頻度・使用金額・負け額に加え、パチンコ・パチスロ別の遊技状況や価格台別の遊技状況等についても訊ねているため、それらの項目との関連についても見ていく。

① 参加頻度

パチンコ・パチスロへの参加頻度と問題ギャンブリングとの関連では（図表 4-27）、参加頻度が「年に 1 回程度」～「月に 2～3 回程度」の場合、おおよそ 8～9 割の人が問題ギャンブリングの「疑いなし」と判別されており、「重度の疑いあり」は 3～7%に留まっていた。

しかし、参加頻度が「週に 1 回程度」以上の場合には、問題ギャンブリングの「疑いなし」は 55～75%程度まで減少し、「重度の疑いあり」は 1 割を超えている。特に「週 4 回以上」の参加頻度の場合には、問題ギャンブリングの「疑いなし」は 6 割を切り、5 人に 1 人は「重度の疑いあり」となっていた。

図表 4-27　【パチンコ・パチスロ】参加頻度と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
年に1回程度	87.9%	2.1%	3.2%	6.8%	100.0%	190
半年に1回程度	91.1%	1.1%	4.1%	3.7%	100.0%	270
2～3ヶ月に1回程度	86.5%	1.8%	5.7%	6.0%	100.0%	386
月に1回程度	84.8%	3.6%	5.9%	5.7%	100.0%	422
月に2～3回程度	79.0%	4.7%	10.0%	6.3%	100.0%	618
週に1回程度	74.6%	3.4%	10.0%	11.9%	100.0%	469
週に2～3回程度	70.8%	4.6%	10.5%	14.1%	100.0%	455
週に4回以上	57.8%	4.7%	15.6%	21.8%	100.0%	211
合計	79.0%	3.5%	8.4%	9.1%	100.0%	3021

p<.001

② 参加時間の変化

1 年前と比較した場合のパチンコ・パチスロへの参加時間の変化を訊ねた項目では（図表 4-28）、1 年前に比べて参加時間が「増えた」と自覚している層において顕著に、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高く、2 割超となっていた。

図表 4-28　【パチンコ・パチスロ】参加時間の変化と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
増えた	64.6%	3.3%	11.9%	20.1%	100.0%	478
変わらない	79.2%	3.7%	8.4%	8.7%	100.0%	1326
減った	84.2%	3.4%	7.0%	5.4%	100.0%	1153
パチンコ・パチスロを始めたのは最近1年以内のこと	89.1%	1.6%	6.3%	3.1%	100.0%	64
合計	79.0%	3.5%	8.4%	9.1%	100.0%	3021

p<.001

③ パチンコとパチスロのプレー比率

パチンコとパチスロのうちどちらをプレーすることが多いかというプレー比率との関連においては（図表 4-29）、パチンコとパチスロの「両方を同じぐらいずつしている」場合において特に、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高く、「パチンコだけ」あるいは「パチスロだけ」をしている場合には「重度の疑いあり」の人は少なかった。

図表 4-29　パチンコとパチスロのプレー比率別　問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
パチンコだけしている	87.6%	3.5%	4.3%	4.6%	100.0%	862
主にパチンコをしている	78.5%	2.7%	9.1%	9.7%	100.0%	483
両方を同じぐらいずつしている	70.7%	2.7%	10.2%	16.5%	100.0%	826
主にパチスロをしている	76.1%	4.5%	11.7%	7.7%	100.0%	532
パチスロだけしている	83.0%	5.0%	8.5%	3.5%	100.0%	318
合計	79.0%	3.5%	8.4%	9.1%	100.0%	3021

p<.001

④ 通常価格台と低価格台のプレー比率

通常価格台と低価格台のどちらをプレーすることが多いかというプレー比率との関連においては（図表 4-30）、「通常価格の貸し玉や貸しメダルの台」をプレーすることが「半分以上」と回答した層において問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高く、「低価格の貸し玉や貸しメダルの台」でプレーすることのほうが多い層では「重度の疑いあり」の人が少なかった。

図表 4-30　通常価格台と低価格台のプレー比率別　問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
全て（あるいはほとんど）通常価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーしている	76.9%	3.4%	9.0%	10.7%	100.0%	973
通常価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーすることが多い	73.9%	2.8%	10.9%	12.5%	100.0%	616
低価格の台と通常価格の台とを半々ぐらいでプレーしている	73.7%	4.0%	9.1%	13.2%	100.0%	453
低価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーすることが多い	83.9%	3.9%	8.3%	3.9%	100.0%	459
全て（あるいはほとんど）低価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーしている	89.4%	3.7%	3.8%	3.1%	100.0%	520
合計	79.0%	3.5%	8.4%	9.1%	100.0%	3021

p<.001

⑤ 行きつけの店舗数

行きつけの店舗数では（図表 4-31)、「0～1 軒」および「5 軒以上」の人では「重度の疑いあり」の割合は 4～6%に留まっていたのに対し、「2～4 軒」と回答した人では、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が 1 割前後となっていた[50]。

⑥ 店舗滞在時間

1 回の来店でふだん何時間くらい滞在するかという店舗での滞在時間との関連においては（図表 4-32)、「3～8 時間未満」と回答した層で、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が相対的に高く、特に「7～8 時間未満」の層では 2 割近くが「重度の疑いあり」となっていた。一方、「2 時間未満」あるいは「8 時間以上」の人では、「重度の疑いあり」と判別された人は 3%台であり、9 割前後の人は問題ギャンブリングの「疑いなし」となっていた。

---

[50] なお、パチンコ・パチスロをする頻度と行きつけの店舗数の相関は r=.347（<.001）であり、パチンコ・パチスロをする頻度が高い人ほど行きつけの店舗数が多い傾向が少なからず見られる。そのため、上述した「行きつけの店舗数」と「問題ギャンブリング疑い」の間に見られる関連性は、遊技頻度の影響を受けた疑似相関の可能性があったが、以下の 3 つの分析結果から、遊技頻度と店舗数は独立した影響力をもっていることが確認されている。
①二項ロジスティック回帰分析：遊技頻度（ダミー化して投入）と行きつけの店舗数（ローデータのまま投入）を独立変数、問題ギャンブリングにおける「重度の疑い」の有無を従属変数とした二項ロジスティック回帰分析にかけた結果では、遊技頻度と店舗数の両方が独立した影響力をもっていることが示された。
②重回帰分析：遊技頻度（階級値を暫定値として投入）と行きつけの店舗数（ローデータのまま投入）を独立変数、PPDS 得点を従属変数とした重回帰分析においても、遊技頻度と店舗数の両方が独立した影響力をもっていることを確認した。
③二元配置分散分析：遊技頻度と行きつけの店舗数を独立変数、PPDS 得点を従属変数とした分散分析の結果でも、遊技頻度と店舗数、それぞれの単独の影響力は見られたものの、交互作用は見られなかった。

図表 4-31　行きつけの店舗数と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
0軒	90.2%	1.7%	3.8%	4.2%	100.0%	287
1軒	84.4%	2.8%	7.0%	5.7%	100.0%	823
2軒	78.2%	4.0%	8.2%	9.6%	100.0%	1089
3軒	72.2%	3.8%	11.5%	12.5%	100.0%	608
4軒	75.9%	6.3%	7.6%	10.1%	100.0%	79
5軒以上	89.0%	2.0%	4.9%	4.0%	100.0%	2470
合計	84.1%	2.8%	6.6%	6.5%	100.0%	5356

p<.001

図表 4-32　店舗滞在時間と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
1時間未満	90.7%	2.2%	3.3%	3.8%	100.0%	183
1時間以上～2時間未満	91.0%	0.8%	4.9%	3.3%	100.0%	511
2時間以上～3時間未満	81.1%	3.3%	6.8%	8.8%	100.0%	752
3時間以上～4時間未満	75.5%	4.5%	8.7%	11.3%	100.0%	600
4時間以上～5時間未満	72.1%	3.8%	14.2%	9.9%	100.0%	416
5時間以上～6時間未満	74.1%	4.7%	9.0%	12.2%	100.0%	255
6時間以上～7時間未満	65.4%	6.5%	15.0%	13.1%	100.0%	107
7時間以上～8時間未満	65.4%	2.5%	13.6%	18.5%	100.0%	81
8時間以上	89.7%	2.2%	4.6%	3.6%	100.0%	2451
合計	84.1%	2.8%	6.6%	6.5%	100.0%	5356

p<.001

⑦ 使用額

パチンコ・パチスロにおける 1 か月あたりの平均使用額との関連では（図表 4-33）、月に「1 万円まで」の層では「重度の疑いあり」の割合は 3～6%に留まっていたのに対し、「2 万円以上」の層では、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が 1 割超となっていた。

⑧ 負け額

パチンコ・パチスロにおける 1 か月あたりの平均負け額では（図表 4-34）、月に「1 万円まで」の層では「重度の疑いあり」の割合は 3～6%に留まっていたのに対し、月に「1 万円以上」負けている層では問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高くなっていた。特に「8 万円以上」の層では、おおよそ 4 人に 1 人が「重度の疑いあり」となっていた。

図表 4-33　【パチンコ・パチスロ】使用額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
5千円まで	92.3%	1.1%	3.2%	3.4%	100.0%	534
5千円を超えて1万円まで	85.3%	2.5%	6.5%	5.7%	100.0%	598
1万円を超えて2万円まで	77.5%	4.8%	7.8%	9.9%	100.0%	688
2万円を超えて4万円まで	72.4%	4.6%	10.6%	12.3%	100.0%	689
4万円を超えて8万円まで	69.5%	4.8%	12.2%	13.5%	100.0%	311
8万円以上	67.7%	2.0%	16.4%	13.9%	100.0%	201
合計	79.0%	3.5%	8.4%	9.1%	100.0%	3021

p<.001

図表 4-34　【パチンコ・パチスロ】負け額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
負けていない	92.1%	0.7%	2.5%	4.6%	100.0%	432
5千円まで	91.0%	2.2%	3.4%	3.4%	100.0%	558
5千円を超えて1万円まで	84.8%	2.5%	6.8%	5.8%	100.0%	600
1万円を超えて2万円まで	73.7%	4.2%	10.2%	11.8%	100.0%	567
2万円を超えて4万円まで	67.5%	6.1%	14.3%	12.0%	100.0%	440
4万円を超えて8万円まで	66.7%	4.2%	13.1%	16.0%	100.0%	237
8万円以上	52.9%	7.5%	16.6%	23.0%	100.0%	187
合計	79.0%	3.5%	8.4%	9.1%	100.0%	3021

p<.001

なお、2017 年調査においては、「『(月の負け額）／（世帯年収：年の世帯収入）＝.003～.005［＝3～5%］』を超えると、遊技障害のうたがいが高まる」[51]とされていたものの、今回の調査においては、図表 4-35 のとおり、「(月の負け額）／（世帯年収)」が 1%を超えた層で問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合は 1 割超となっていた。特に負け額が世帯年収の「4%以上 5%未満」では 4 人に 1 人が「重度の疑いあり」、「10%以上」では 3 人に 1 人が「重度の疑いあり」となっており、世帯年収に占める負け額の割合が 4%を超えると「重度の疑いあり」と判別されるリスクは急激に上昇することが示された。

[51] 日工組社会安全研究財団（2020）p.26 参照。[] 内は引用者。

図表 4-35　【パチンコ・パチスロ】世帯年収に占める負け額の割合と、問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
1%未満	81.2%	2.7%	7.6%	8.5%	100.0%	2279
1%以上2%未満	65.4%	4.2%	13.6%	16.8%	100.0%	191
2%以上3%未満	55.7%	13.1%	16.4%	14.8%	100.0%	61
3%以上4%未満	82.8%	-	3.4%	13.8%	100.0%	29
4%以上5%未満	43.3%	6.7%	23.3%	26.7%	100.0%	30
5%以上10%未満	48.8%	9.8%	24.4%	17.1%	100.0%	41
10%以上	46.2%	7.7%	11.5%	34.6%	100.0%	26
合計	78.2%	3.2%	8.7%	9.9%	100.0%	2657

p<.001

⑨ 参加動機

パチンコ･パチスロをする動機との関連においては（図表 4-36）、「万能感」、「非現実感追求」、「無動機」、「金銭的利益」のすべてで相関係数は r=.40 前後であり、いずれの動機であっても、それが強い人ほど「重度の疑いあり」と判別されやすいことが示された。

図表 4-36
動機と問題ギャンブリング疑い

	PPDSとの相関	p
万能感	0.423	<.001
非現実感追求	0.406	<.001
無動機	0.421	<.001
金銭的利益	0.377	<.001

⑩ 補論：問題ギャンブリングの疑いの有無と遊技状況の中央値

2017 年調査においては、PPDS によって問題ギャンブリングの「疑いなし」と判断された人と「疑いあり」と判断された人において、遊技状況の中央値にどのような相違があるかを見ている[52]。

そこで、本調査においても同様に、問題ギャンブリングの疑いの有無と遊技状況の中央値を算出し、2017 年調査と比較を行った（図表 4-37）。

緑色で塗ったセルが 2017 年調査と 2023 年調査の相違であるが、これを見ると、まず、問題ギャンブリングの「疑いなし」の人のプレイスタイルにおいて、2017 年と 2023 年では、「パチンコ・パチスロのプレー比率」、「通常台と低価格台のプレー比率」、「行きつけの店舗数」、「1 日の遊技時間」が相違しており、本稿 第 2 章 第 3 項で示したとおり、パチンコとパチスロのいずれかだけではなく両方を楽しむ人が増えたこと、通常価格の玉やメダルを使用した台で楽しむ人が増えたこと、1 店舗で長く遊ぶのではなく、複数店舗で短い時間遊ぶ人が増えたことといった、パチンコ・パチスロ業界におけるプレイスタイルの変化が見て取れる。

[52] 日工組社会安全研究財団（2020）p.27 参照。

図表 4-37　問題ギャンブリングの疑いの有無と遊技状況の中央値
2017 年調査[53]と 2023 年調査の比較

	2017年		2023年	
	疑いなし（PPDS60点以下）の人の中央値	疑いあり（PPDS61点以上）の人の中央値	疑いなし（PPDS60点以下）の人の中央値	疑いあり（PPDS61点以上）の人の中央値
遊技頻度	月2～3回	**週2～3回**	月2～3回	**週1回**
パチンコ・パチスロのプレー比率	主にパチンコ	主にパチスロ	半々	半々
通常台と低価格台のプレー比率	半々	**通常台が多い**	通常台が多い	通常台が多い
行きつけの店舗数	1店舗	**2店舗**	2店舗	2店舗
1日の遊技時間	3～4時間	**5～6時間**	2時間～3時間	**3時間～4時間**
1か月の使用額	1万円～2万円	**4万円～8万円**	1万円～2万円	**2万円～4万円**
1か月の負け額	5千円～1万円	**4万円～8万円**	5千円～1万円	**1万円～2万円**

※　緑色で塗ったセルは、2017年と2023年を比べた場合の相違点。
※　太字は、各調査年において「疑いなし」と「疑いあり」の人を比べた場合の相違点。

また、問題ギャンブリングの「疑いあり」と判断された人について、2017 年調査と 2023 年調査の違いについて見てみると、「遊技頻度」が低下するとともに、「1 日の遊技時間」も短くなっており、「1 か月の使用額」や「1 か月の負け額」も低額化している。つまり、問題ギャンブリングの「疑いあり」と判断される人の遊技スタイルは、低頻度化、短時間化、低額化の傾向にあることがわかる。「短時間化」については（先ほど述べたとおり）問題ギャンブリングの「疑いなし」の人においても同様の傾向が見られるが、問題ギャンブリングの「疑いあり」の人の中央値である「3 時間～4 時間」という時間数は、2017 年調査では問題ギャンブリングの「疑いなし」の人の中央値であり、つまりは、以前と変わらず短い時間で遊んでいる人であっても、2023 年時点では問題ギャンブリングの「疑いあり」と判断されるリスクが高まっていたことが示唆されている。

とはいえ、ここで言う問題ギャンブリングの「疑いあり」の人の中には、PPDS 得点が 61～63 点の「軽度の疑いあり」の人も含まれており、こうした「軽度の疑いあり」の人は、確かに「遊技障害となりうるリスク」を負ってはいるものの、そのほとんどは「危険な遊び方」とされる範疇にとどまっており、いわゆる「依存症」や「遊技障害」とは区別されるべきとの主張も散見される。

そこで、図表 4-38 では、2023 年の調査データのみに焦点を当て、問題ギャンブリングの疑いの程度別に各遊技状況の中央値を求めることで、より深刻度の高い「重度の疑いあり」の人びとの遊技状況を示すことを試みた。

[53] 2017 年調査の結果については、日工組社会安全研究財団（2020）p.27 参照.

図表 4-38　問題ギャンブリングの疑いの程度と遊技状況の中央値（2023 年）

	疑いなし（PPDS60点以下）の人の中央値	軽度の疑いがあり（PPDS61～63点）の人の中央値	中度～重度の疑いあり（PPDS64～72点）の人の中央値	重度の疑いあり（PPDS73点以上）の人の中央値
遊技頻度	月2～3回	月2～3回	週1回	週1回
パチンコ・パチスロのプレー比率	半々	半々	半々	半々
通常台と低価格台のプレー比率	通常台が多い	半々	通常台が多い	通常台が多い
行きつけの店舗数	2店舗	2店舗	2店舗	2店舗
1日の遊技時間	2時間～3時間	3時間～4時間	3時間～4時間	3時間～4時間
1か月の使用額	1万円～2万円	1万円～2万円	2万円～4万円	2万円～4万円
1か月の負け額	5千円～1万円	1万円～2万円	1万円～2万円	1万円～2万円

これを見ると、まず、問題ギャンブリングの「疑いなし」の人と「疑いあり」(「軽度の疑いあり」～「重度の疑いあり」) の人では、主に「1 日の遊技時間」と「1 か月の負け額」が異なっていることがわかる。そして、問題ギャンブリングの「疑いのない人」や「軽度の疑いあり」の人と、「中度以上の疑いがある人（「中度～重度の疑いあり」と「重度の疑いあり」の人)」では、「遊技頻度」、「1 か月の使用額」に違いがあることがわかる。

こうした結果からは、問題ギャンブリングのリスクを軽度以下に抑える鍵は、特に「遊技頻度」や「1 か月の使用額」にあることが示されるだろう。

３）競馬の遊技状況と問題ギャンブリング疑い

続いて、競馬の遊技状況と問題ギャンブリング疑いとの関連について見ていく。競馬を含む公営競技 4 種は、パチンコ・パチスロに比べ質問項目が少なく、参加頻度、1 年前と比較した場合の参加時間の変化、使用額、負け額の 4 項目しか訊ねていないため、これら 4 項目との関連を見ていく。

① 参加頻度

競馬への参加頻度と問題ギャンブリングとの関連では（図表 4-39)、「週に 4 回以上」の人で、問題ギャンブリングの「疑いなし」の割合が若干少なく、「中度～重度の疑いあり」がやや多くなっているものの、その差は有意傾向（p=.055）に留まった。

② 参加時間の変化

1 年前と比較した場合の競馬への参加時間の変化を訊ねた項目では（図表 4-40)、1 年前に比べて参加頻度が「増えた」と自覚している層において、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高く、15%ほどとなっていた。

図表 4-39　【競馬】参加頻度と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
年に1回程度	85.8%	2.4%	5.7%	6.0%	100.0%	332
半年に1回程度	86.4%	1.0%	3.8%	8.7%	100.0%	391
2～3ヶ月に1回程度	87.3%	1.9%	5.5%	5.3%	100.0%	513
月に1回程度	82.5%	3.2%	6.7%	7.6%	100.0%	434
月に2～3回程度	82.9%	2.3%	6.7%	8.0%	100.0%	475
週に1回程度	81.3%	3.1%	7.2%	8.5%	100.0%	556
週に2～3回程度	82.4%	2.7%	7.2%	7.7%	100.0%	443
週に4回以上	74.0%	3.3%	13.8%	8.9%	100.0%	123
合計	83.6%	2.4%	6.5%	7.5%	100.0%	3267

p=0.055

図表 4-40　【競馬】参加時間の変化と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
増えた	72.2%	3.6%	9.3%	14.9%	100.0%	471
変わらない	86.3%	2.0%	5.8%	6.0%	100.0%	2163
減った	81.6%	3.2%	7.6%	7.6%	100.0%	538
競馬を始めたのは最近1年以内のこと	90.5%	3.2%	2.1%	4.2%	100.0%	95
合計	83.6%	2.4%	6.5%	7.5%	100.0%	3267

p<.001

③ 使用額

競馬における 1 か月あたりの平均使用額との関連では（図表 4-41）、月に「1 万円まで」の層では問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が 3～8%であったのに対し、月に「1 万円以上」の層では問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が 1 割以上となっていた。

図表 4-41　【競馬】使用額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
5千円まで	90.9%	1.9%	3.8%	3.4%	100.0%	1388
5千円を超えて1万円まで	84.6%	1.5%	6.5%	7.3%	100.0%	723
1万円を超えて2万円まで	73.7%	4.4%	9.8%	12.0%	100.0%	498
2万円を超えて4万円まで	76.5%	3.1%	7.9%	12.5%	100.0%	353
4万円を超えて8万円まで	75.8%	2.0%	10.5%	11.8%	100.0%	153
8万円以上	68.4%	4.6%	12.5%	14.5%	100.0%	152
合計	83.6%	2.4%	6.5%	7.5%	100.0%	3267

p<.001

競馬における 1 か月あたりの平均負け額では（図表 4-42)、月に「1 万円まで」の層では問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が 4～8%であったのに対し、月に「1 万円以上」負けている層では問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が 1 割以上となっていた。特に「8 万円以上」の層では 4 人に 1 人くらいの割合が「重度の疑いあり」であった。

図表 4-42　【競馬】負け額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
負けていない	88.3%	1.5%	5.6%	4.6%	100.0%	409
5千円まで	89.8%	2.2%	3.3%	4.7%	100.0%	1476
5千円を超えて1万円まで	81.5%	2.0%	8.7%	7.8%	100.0%	606
1万円を超えて2万円まで	73.2%	3.4%	11.0%	12.4%	100.0%	355
2万円を超えて4万円まで	73.6%	5.0%	9.1%	12.3%	100.0%	220
4万円を超えて8万円まで	67.0%	3.0%	16.0%	14.0%	100.0%	100
8万円以上	61.4%	3.0%	12.9%	22.8%	100.0%	101
合計	83.6%	2.4%	6.5%	7.5%	100.0%	3267

p<.001

４）ボートレースの遊技状況と問題ギャンブリング疑い

続いて、ボートレースの遊技状況と問題ギャンブリング疑いとの関連について見ていく。

① 参加頻度

ボートレースへの参加頻度と問題ギャンブリングとの関連では（図表 4-43)、「半年に 1 回以上」の頻度で参加する人びとにおいて、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が 1 割を超えており、特に「週に 1 回程度」と「週に 4 回以上」の人でおおよそ 4 人に 1 人が「重度の疑いあり」となっていた。

図表 4-43　【ボートレース】参加頻度と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
年に1回程度	80.7%	3.3%	6.1%	9.9%	100.0%	181
半年に1回程度	72.7%	5.7%	8.0%	13.6%	100.0%	176
2～3ヶ月に1回程度	79.1%	2.8%	6.6%	11.4%	100.0%	211
月に1回程度	71.8%	2.1%	10.8%	15.4%	100.0%	195
月に2～3回程度	67.3%	2.5%	12.3%	17.9%	100.0%	162
週に1回程度	60.4%	4.4%	11.0%	24.2%	100.0%	91
週に2～3回程度	75.7%	1.4%	12.9%	10.0%	100.0%	70
週に4回以上	50.9%	-	20.8%	28.3%	100.0%	53
合計	72.4%	3.1%	9.7%	14.8%	100.0%	1139

p<.001

② 参加時間の変化

1 年前と比較した場合のボートレースへの参加時間の変化を訊ねた項目では（図表 4-44)、1 年前に比べて参加時間が「増えた」と自覚している層において、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高く、25%ほどとなっていた。また、1 年前と比較した参加時間が「変わらない」、あるいは「減った」と回答した人びとにおいても、「重度の疑いあり」の割合は 1 割以上となっており、パチンコ・パチスロや競馬と比較すると相対的に高い割合になっていた。

図表 4-44　【ボートレース】参加時間の変化と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
増えた	56.5%	3.1%	15.7%	24.6%	100.0%	191
変わらない	74.7%	3.3%	8.3%	13.8%	100.0%	676
減った	75.8%	3.0%	10.0%	11.3%	100.0%	231
ボートレースを始めたのは最近1年以内のこと	90.2%	-	2.4%	7.3%	100.0%	41
合計	72.4%	3.1%	9.7%	14.8%	100.0%	1139

p<.001

③ 使用額

ボートレースにおける 1 か月あたりの平均使用額との関連では（図表 4-45)、月に「5 千円を超えて 1 万円まで」の人で、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が約 15%、「1 万円以上」では「重度の疑いあり」の割合は 2 割を超え、「8 万円以上」では 3 人に 1 人が「重度の疑いあり」となっていた。ただし、サンプル数の関係上、このクロス集計表に有意差があるかどうかの検定は行えなかった[54]。

④ 負け額

ボートレースにおける 1 か月あたりの平均負け額では（図表 4-46)、月に「5 千円以上」負けている層で問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高くなっていた。特に

---

[54] χ^2検定では、一般的に、期待度数が 5 未満のセル数が全体のセル数の 20%を上回る場合（例えば、図表 4-45 では、独立変数が 6 カテゴリー、従属変数が 4 カテゴリーあるため、全体で 6×4＝24 セルが存在するが、そのうちの 2 割にあたる 5 セル以上で期待度数が 5 未満となった場合)、検定結果の正確さが損なわれるとされる。図表 4-45 では、期待度数が 5 未満のセルが 6 セル（全体の 25%）存在していたため、χ^2検定は無効とされた（表右下に記載した「not valid」が「検定無効」の意)。

また、上述の理由によりχ^2検定が無効となった場合には、通常、フィッシャーの正確検定を行うが、正確検定は全体のセル数が多いと PC のスペックの問題で上手く機能しないことが多い。本分析においても、24 セルで正確検定を行おうとしたところ、PC がフリーズした。

こうした場合、通常は、カテゴリーを統合して（例えば「5 千円まで」と「5 千円を超えて 1 万円まで」を統合して「1 万円まで」というカテゴリーを作成するなどして）クロス表のセル数を少なくした上で再度正確検定を行うことが多いが、カテゴリー統合を行うと他のギャンブル等の種目と比較することが難しくなるため、今回は、統計的な検定よりも他のギャンブル等と同じカテゴリーでクロス表を作成・呈示することを優先した。

「1 万円を超えて 2 万円まで」の層では 4 人に 1 人が、「2 万円を超えて 4 万円まで」と「8 万円以上」の層では 3 人に 1 人以上が「重度の疑いあり」となっていた。ただし、サンプル数の関係上、このクロス集計表に有意差があるかどうかの検定は行えなかった。

図表 4-45　【ボートレース】使用額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
5千円まで	82.4%	3.2%	6.8%	7.6%	100.0%	500
5千円を超えて1万円まで	72.8%	2.8%	10.2%	14.2%	100.0%	254
1万円を超えて2万円まで	65.2%	3.9%	10.7%	20.2%	100.0%	178
2万円を超えて4万円まで	55.6%	3.2%	14.3%	27.0%	100.0%	126
4万円を超えて8万円まで	57.6%	3.0%	12.1%	27.3%	100.0%	33
8万円以上	47.9%	-	18.8%	33.3%	100.0%	48
合計	72.4%	3.1%	9.7%	14.8%	100.0%	1139

not valid

図表 4-46　【ボートレース】負け額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
負けていない	80.7%	1.3%	7.3%	10.7%	100.0%	150
5千円まで	79.8%	3.8%	7.2%	9.2%	100.0%	530
5千円を超えて1万円まで	67.6%	2.3%	12.7%	17.4%	100.0%	213
1万円を超えて2万円まで	58.5%	4.2%	13.6%	23.7%	100.0%	118
2万円を超えて4万円まで	50.0%	1.9%	14.8%	33.3%	100.0%	54
4万円を超えて8万円まで	71.0%	3.2%	9.7%	16.1%	100.0%	31
8万円以上	44.2%	2.3%	16.3%	37.2%	100.0%	43
合計	72.4%	3.1%	9.7%	14.8%	100.0%	1139

not valid

５）競輪の遊技状況と問題ギャンブリング疑い

続いて、競輪の遊技状況と問題ギャンブリング疑いとの関連について見ていく。

① 参加頻度

競輪への参加頻度との関連における問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合は（図表 4-47）、「半年に 1 回程度」～「2～3 か月に 1 回程度」の頻度で参加する人びとでは 1 割超、「月に 1 回程度」～「週に 2～3 回程度」では 17～20%程度、「週に 4 回以上」では 3 割弱が「重度の疑いあり」となっていた。

図表 4-47　【競輪】参加頻度と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
年に1回程度	78.3%	6.2%	6.8%	8.7%	100.0%	161
半年に1回程度	78.5%	3.7%	5.2%	12.6%	100.0%	135
2～3ヶ月に1回程度	77.5%	1.7%	8.1%	12.7%	100.0%	173
月に1回程度	68.0%	3.6%	8.3%	20.1%	100.0%	169
月に2～3回程度	70.0%	2.5%	10.0%	17.5%	100.0%	160
週に1回程度	71.7%	-	9.8%	18.5%	100.0%	92
週に2～3回程度	59.8%	8.7%	14.1%	17.4%	100.0%	92
週に4回以上	56.3%	-	15.6%	28.1%	100.0%	64
合計	71.7%	3.4%	9.0%	15.9%	100.0%	1046

p<.001

② 参加時間の変化

1 年前と比較した場合の競輪への参加時間の変化を訊ねた項目では（図表 4-48）、参加時間が「増えた」と自覚している層において、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高く、25%となっていた。また、ボートレースと同様に、参加頻度が「変わらない」、あるいは「減った」と回答した人びとにおいても、「重度の疑いあり」の割合は 1 割以上となっており、パチンコ・パチスロや競馬と比較し、相対的に高い割合となっていた。

図表 4-48　【競輪】参加時間の変化と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
増えた	60.8%	3.3%	10.8%	25.0%	100.0%	240
変わらない	73.3%	3.6%	8.5%	14.5%	100.0%	551
減った	73.5%	3.8%	9.2%	13.5%	100.0%	185
競輪を始めたのは最近1年以内のこと	91.4%	1.4%	5.7%	1.4%	100.0%	70
合計	71.7%	3.4%	9.0%	15.9%	100.0%	1046

p<.001

競輪における 1 か月あたりの平均使用額との関連では（図表 4-49）、月に「5 千円を超えて 1 万円まで」の人で、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が約 17%、「1 万円以上」では 2 割以上となっており、特に「2 万円を超えて 4 万円まで」と「8 万円以上」では 3 割前後の人が「重度の疑いあり」となっていた。ただし、サンプル数の関係上、このクロス集計表に有意差があるかどうかの検定は行えなかった。

図表 4-49　【競輪】使用額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
5千円まで	81.4%	3.5%	6.8%	8.2%	100.0%	511
5千円を超えて1万円まで	74.7%	0.5%	7.9%	16.8%	100.0%	190
1万円を超えて2万円まで	57.9%	7.2%	11.8%	23.0%	100.0%	152
2万円を超えて4万円まで	58.2%	-	10.0%	31.8%	100.0%	110
4万円を超えて8万円まで	42.4%	15.2%	18.2%	24.2%	100.0%	33
8万円以上	52.0%	2.0%	18.0%	28.0%	100.0%	50
合計	71.7%	3.4%	9.0%	15.9%	100.0%	1046

not valid

③ 負け額

競輪における 1 か月あたりの平均負け額との関連では（図表 4-50）、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合は、月に「5 千円を超えて 1 万円まで」では約 2 割、「1 万円を超えて 2 万円まで」の層ではほぼ 3 割、「2 万円以上」の層では 3 割以上となっていた。ただし、サンプル数の関係上、このクロス集計表に有意差があるかどうかの検定は行えなかった。

図表 4-50　【競輪】負け額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
負けていない	85.4%	1.4%	4.9%	8.3%	100.0%	144
5千円まで	80.0%	3.2%	7.9%	8.9%	100.0%	505
5千円を超えて1万円まで	65.9%	4.6%	9.2%	20.2%	100.0%	173
1万円を超えて2万円まで	56.1%	2.6%	11.4%	29.8%	100.0%	114
2万円を超えて4万円まで	45.0%	3.3%	15.0%	36.7%	100.0%	60
4万円を超えて8万円まで	33.3%	23.8%	4.8%	38.1%	100.0%	21
8万円以上	37.9%	-	27.6%	34.5%	100.0%	29
合計	71.7%	3.4%	9.0%	15.9%	100.0%	1046

not valid

６）オートレースの遊技状況と問題ギャンブリング疑い

続いて、オートレースの遊技状況と問題ギャンブリング疑いとの関連について見ていく。ただし、本調査対象者におけるオートレース参加者は 1000 人を切っており、サンプル数の関係上、すべてのクロス集計表において、有意差があるかどうかの検定は行えなかった。そのため、以下の結果はあくまで参考として読まれたい。

① 参加頻度

オートレースへの参加頻度との関連における問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合は（図表 4-51)、他のギャンブル等と比べて高く、「年に 1 回程度」の場合でも 1 割以上が「重度の疑いあり」となっていた。特に「月に 2～3 回程度」から「週に 2～3 回程度」では 3 割近くの人が「重度の疑いあり」となっていた。

図表 4-51　【オートレース】参加頻度と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
年に1回程度	73.3%	5.6%	7.8%	13.3%	100.0%	90
半年に1回程度	69.9%	1.1%	9.7%	19.4%	100.0%	93
2～3ヶ月に1回程度	74.5%	1.0%	11.2%	13.3%	100.0%	98
月に1回程度	70.7%	2.3%	9.0%	18.0%	100.0%	133
月に2～3回程度	57.3%	1.0%	12.5%	29.2%	100.0%	96
週に1回程度	61.0%	-	11.9%	27.1%	100.0%	59
週に2～3回程度	58.8%	2.9%	8.8%	29.4%	100.0%	34
週に4回以上	65.4%	-	11.5%	23.1%	100.0%	26
合計	67.7%	1.9%	10.2%	20.2%	100.0%	629

not valid

② 参加時間の変化

1 年前と比較した場合のオートレースへの参加時間の変化を訊ねた項目では（図表 4-52)、1 年前に比べて参加時間が「増えた」と自覚している層において、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高く、3 人に 1 人が「重度の疑いあり」と判別されていた。また、1 年前と比較した参加時間が「変わらない」と回答した人びとにおいても「重度の疑いあり」の割合が 1 割以上となっていた点はボートレースや競輪と同様であるものの、「減った」と回答した人びとにおいても 2 割超が「重度の疑いあり」と判別されており、他のギャンブル等と比較し顕著に高い割合になっていた。

図表 4-52　【オートレース】参加時間の変化と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
増えた	51.3%	-	16.0%	32.8%	100.0%	119
変わらない	72.8%	1.9%	8.6%	16.7%	100.0%	360
減った	66.7%	2.4%	9.8%	21.1%	100.0%	123
オートレースを始めたのは最近1年以内のこと	77.8%	7.4%	7.4%	7.4%	100.0%	27
合計	67.7%	1.9%	10.2%	20.2%	100.0%	629

not valid

③ 使用額

オートレースにおける 1 か月あたりの平均使用額との関連では（図表 4-53）、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合は、すべての金額階級において 1 割を超えていた。中でも、「2 万円を超えて 4 万円まで」と回答した人びとでは 48.3%と、半数近くが「重度の疑いあり」の兆候を示していた。また、「4 万円以上」と回答した人びとにおいても、3 割前後が「重度の疑いあり」と判別されていた。

図表 4-53　【オートレース】使用額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
5千円まで	76.6%	2.3%	7.4%	13.7%	100.0%	299
5千円を超えて1万円まで	72.0%	0.8%	7.2%	20.0%	100.0%	125
1万円を超えて2万円まで	58.2%	4.1%	19.4%	18.4%	100.0%	98
2万円を超えて4万円まで	41.4%	-	10.3%	48.3%	100.0%	58
4万円を超えて8万円まで	48.0%	-	20.0%	32.0%	100.0%	25
8万円以上	58.3%	-	12.5%	29.2%	100.0%	24
合計	67.7%	1.9%	10.2%	20.2%	100.0%	629

not valid

④ 負け額

オートレースにおける 1 か月あたりの平均負け額との関連においても（図表 4-54）、使用額の場合と同様に、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合は非常に高く、すべての金額階級において 1 割を超えており、負け額が「5 千円以上」の層では 3 割弱から 4 割弱の人が「重度の疑いあり」となっていた。特に、「1 万円を超えて 2 万円まで」と回答した人びとにおいては、「重度の疑いあり」は約 4 割ともっとも多かった。

図表 4-54　【オートレース】負け額と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
負けていない	74.3%	1.9%	9.5%	14.3%	100.0%	105
5千円まで	77.4%	2.3%	7.4%	12.9%	100.0%	310
5千円を超えて1万円まで	54.1%	1.0%	15.3%	29.6%	100.0%	98
1万円を超えて2万円まで	45.2%	2.7%	12.3%	39.7%	100.0%	73
2万円を超えて4万円まで	52.4%	-	14.3%	33.3%	100.0%	21
4万円を超えて8万円まで	45.5%	-	18.2%	36.4%	100.0%	11
8万円以上	54.5%	-	18.2%	27.3%	100.0%	11
合計	67.7%	1.9%	10.2%	20.2%	100.0%	629

not valid

7）【小括】各ギャンブル等の遊技状況と「重度の」問題ギャンブリング疑い

ここまで、ギャンブル等の種類別に問題ギャンブリング疑いとの関連性について見てきた。本項では小括として、ギャンブル等の種類別に問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別された人びとの割合のみを取り出し、比較を試みる。比較対象とするのは、パチンコ・パチスロと公営競技に共通して訊ねている「参加頻度」、「参加頻度の増減」、「使用額」、「負け額」の 4 項目である。

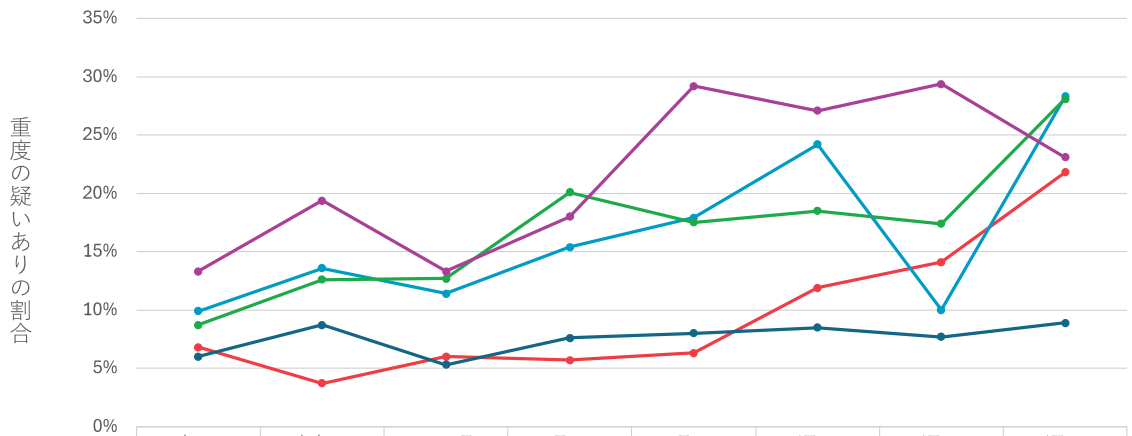
① 参加頻度

まず、各ギャンブル等への参加頻度と「重度の」問題ギャンブリング疑いとの関連を見ると（図表 4-55）、パチンコ・パチスロ、ボートレース、競輪、オートレースでは、参加頻度に比例して、「重度の疑いあり」の人の割合が増えていく傾向にあることが見て取れる一方で、「競馬」は頻度とほとんど相関せず、一貫して「重度の疑いあり」の人が少なかった。

また、パチンコ・パチスロでは、「重度の疑いあり」の人の割合は、「週 2～3 回程度」の人では 14.1%、「週 4 回以上」では 21.8%と若干高くなっているものの、「月 2～3 回」までの遊び方であれば「重度の疑いあり」の割合は 3～7%ほどに留まっており、全体としてもっとも問題ギャンブリング疑いのリスクの少ない「競馬」と同じ程度か、またはそれ以下のリスクであることがわかる。

それに対し、ボートレース、競輪、オートレースは、「月に 1 回程度」の参加頻度であっても、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合は 15～20%ほどとなっており、全体的に問題ギャンブリング疑いのリスクが高い種目であることが窺える。

図表 4-55　各ギャンブル等への参加頻度と「重度の」問題ギャンブリング疑い



	年に1回程度	半年に1回程度	2～3ヶ月に1回程度	月に1回程度	月に2～3回程度	週に1回程度	週に2～3回程度	週に4回以上
パチンコ・パチスロ	6.8%	3.7%	6.0%	5.7%	6.3%	11.9%	14.1%	21.8%
競馬	6.0%	8.7%	5.3%	7.6%	8.0%	8.5%	7.7%	8.9%
ボートレース	9.9%	13.6%	11.4%	15.4%	17.9%	24.2%	10.0%	28.3%
競輪	8.7%	12.6%	12.7%	20.1%	17.5%	18.5%	17.4%	28.1%
オートレース	13.3%	19.4%	13.3%	18.0%	29.2%	27.1%	29.4%	23.1%

② 参加時間の変化

次に、各ギャンブル等への参加時間の変化と「重度の」問題ギャンブリング疑いとの関連では（図表 4-56)、いずれのギャンブル等においても、参加時間が 1 年前よりも「増えた」と自覚している人において「重度の疑いあり」の割合がもっとも高かった。

図表 4-56　各ギャンブル等への参加時間の変化と「重度の」問題ギャンブリング疑い

	パチンコ・パチスロ	競馬	ボートレース	競輪	オートレース
増えた	20.1%	14.9%	24.6%	25.0%	32.8%
変わらない	8.7%	6.0%	13.8%	14.5%	16.7%
減った	5.4%	7.6%	11.3%	13.5%	21.1%
該当のギャンブル等を始めたのは最近1年以内のこと	3.1%	4.2%	7.3%	1.4%	7.4%
合計	9.1%	7.5%	14.8%	15.9%	20.2%

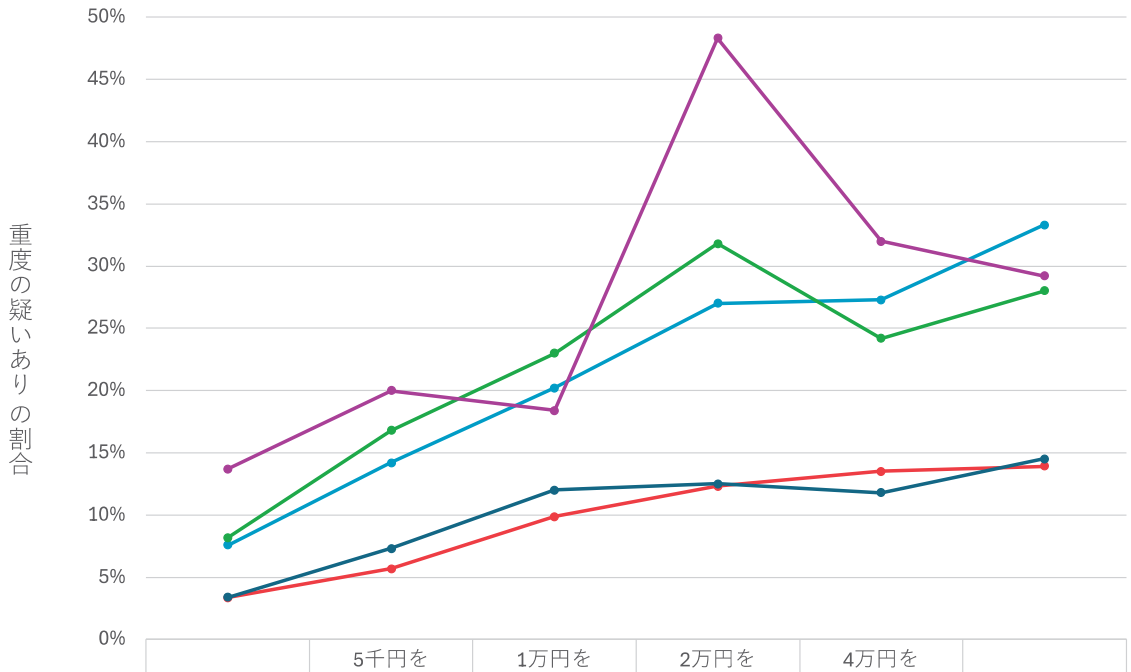
また、パチンコ・パチスロと競馬においては、参加時間が 1 年前と「変わらない」、あるいは 1 年前よりも「減った」と回答した人では問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合は 1 割未満であったのに対し、ボートレース、競輪、オートレースにおいては「変わらない」あるいは「減った」と回答した人でも「重度の疑いあり」の割合は 1 割～2 割強となっていた。

③ 使用額

各ギャンブル等での使用額と「重度の」問題ギャンブリング疑いとの関連では（図表 4-57）、いずれのギャンブル等においても、1 か月あたりの使用額が高額であるほど「重度の疑いあり」と判別される割合は高くなっていた。

また、使用額においてもやはり、パチンコ・パチスロと競馬は総じて問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」が少なく、月に「1 万円以上」使用している人でも「重度の疑いあり」は 10～15%程度であるのに対し、ボートレース、競輪、オートレースでは、「1 万円未満」であっても「重度の疑いあり」の割合が 7～20%となっており、「2 万円以上」ではおおよそ 25～50%の人が「重度の疑いあり」と判別されていた。

図表 4-57　各ギャンブル等での使用額と「重度の」問題ギャンブリング疑い

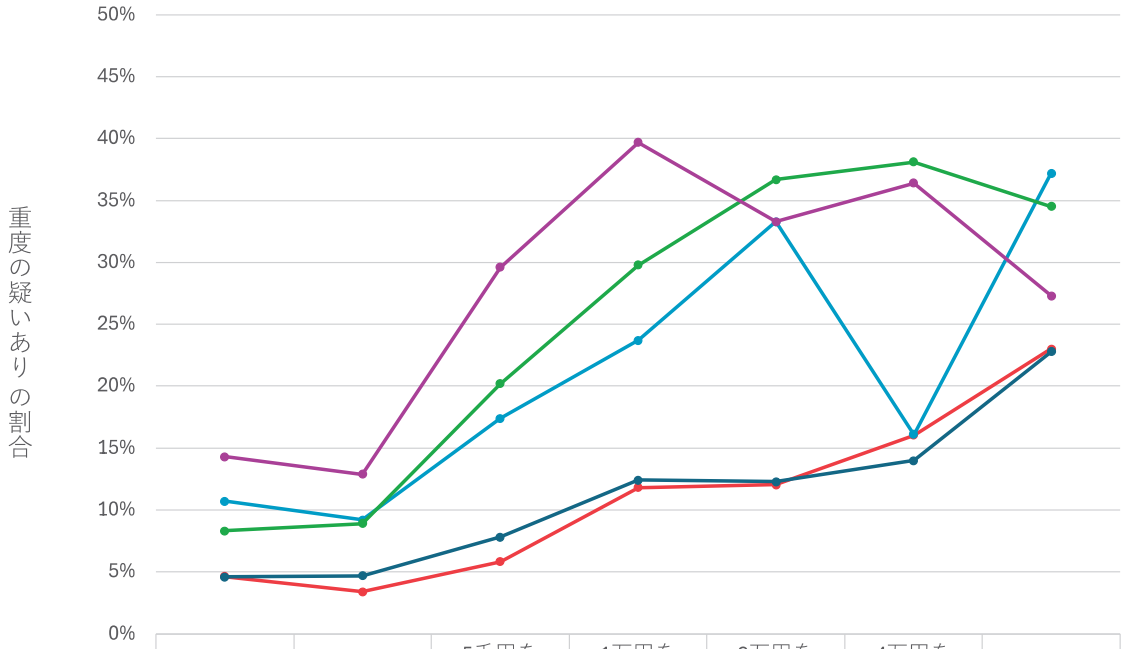


	5千円まで	5千円を超えて1万円まで	1万円を超えて2万円まで	2万円を超えて4万円まで	4万円を超えて8万円まで	8万円以上
パチンコ・パチスロ	3.4%	5.7%	9.9%	12.3%	13.5%	13.9%
競馬	3.4%	7.3%	12.0%	12.5%	11.8%	14.5%
ボートレース	7.6%	14.2%	20.2%	27.0%	27.3%	33.3%
競輪	8.2%	16.8%	23.0%	31.8%	24.2%	28.0%
オートレース	13.7%	20.0%	18.4%	48.3%	32.0%	29.2%

④ 負け額

各ギャンブル等での負け額と「重度の」問題ギャンブリング疑いとの関連も（図表 4-58）、「③使用額」（図表 4-57）と同様、いずれのギャンブル等においても、1 か月あたりの負け額が高額であるほど「重度の疑いあり」の割合は高くなっていた。

図表 4-58　各ギャンブル等での負け額と「重度の」問題ギャンブリング疑い



	負けていない	5千円まで	5千円を超えて1万円まで	1万円を超えて2万円まで	2万円を超えて4万円まで	4万円を超えて8万円まで	8万円以上
パチンコ・パチスロ	4.6%	3.4%	5.8%	11.8%	12.0%	16.0%	23.0%
競馬	4.6%	4.7%	7.8%	12.4%	12.3%	14.0%	22.8%
ボートレース	10.7%	9.2%	17.4%	23.7%	33.3%	16.1%	37.2%
競輪	8.3%	8.9%	20.2%	29.8%	36.7%	38.1%	34.5%
オートレース	14.3%	12.9%	29.6%	39.7%	33.3%	36.4%	27.3%

しかし、グラフの形状は「③使用額」（図表 4-57）とはやや異なっており、「③使用額」のグラフが（上下の激しいオートレース以外においては）いずれも緩やかに右上がりで上昇していたのに対し、「④負け額」（図表 4-58）の場合には、「重度の疑いあり」の人の割合が急激に上昇するポイントが存在しているように見受けられる。

まず、パチンコ・パチスロと競馬では、他 3 種目と比較し、総じて「重度の疑いあり」の割合は少ないものの、「1 万円」を境に 5 ポイント程度、「8 万円」を境に 7～9 ポイント程度、「重度の疑いあり」の割合が上昇する傾向が見られる。

一方、ボートレース、競輪、オートレースでは、負け額が「5 千円以内」という低額の場合でも 1 割前後の人が問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別されるだけでなく、「5 千円」を境に「重度の疑いあり」の割合が 8～17 ポイント上昇しており、その後も、オートレースでは「2 万円まで」、ボートレースと競輪では「4 万円まで」、それぞれ負け額が 1 階級大きくなるごとに「重度の疑いあり」の割合も 6～10 ポイント程度上昇している。したがって、この 3 種目は、パチンコ・パチスロや競馬に比べ、負け額の増加が「重度の」問題ギャンブリング疑いに強く関連しやすい種目であると言えるだろう。

３．公営競技のインターネット投票と問題ギャンブリング疑い

本節では、公営競技におけるインターネット投票と問題ギャンブリング疑いとの関連、および、パチンコ・パチスロ店内でのインターネットを通じた公営競技への参加と問題ギャンブリング疑いとの関連について見ていく。

１）インターネット投票と問題ギャンブリング疑い

① インターネット投票券の購入経験の有無

まず、インターネット投票券の購入経験の有無と問題ギャンブリング疑いとの関連では（図表 4-59）、購入経験の「ある」人のほうが、「ない」人に比べ、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が若干高かった。

図表 4-59　インターネット投票券の購入経験の有無と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
ある	82.2%	2.6%	6.9%	8.3%	100.0%	3131
ない	88.2%	1.6%	5.8%	4.3%	100.0%	621
合計	83.2%	2.5%	6.7%	7.6%	100.0%	3752

p=0.001

② 投票券購入時における窓口とインターネットの使用比率

投票券購入時における窓口とインターネットの使用比率と問題ギャンブリング疑いとの関連については、図表 4-60 のとおりである。

図表 4-60　投票券購入時における
窓口とインターネットの使用比率と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
多くの場合、窓口や自動発売機で購入した	72.8%	4.6%	8.8%	13.8%	100.0%	261
どちらかといえば、窓口や自動発売機で購入することが多かった	58.4%	3.1%	14.6%	23.9%	100.0%	226
どちらも同じくらいだった	71.9%	2.0%	13.1%	13.1%	100.0%	199
どちらかといえば、インターネットで購入することが多かった	75.9%	3.0%	7.7%	13.3%	100.0%	465
多くの場合、インターネットで購入した	88.7%	2.3%	4.9%	4.1%	100.0%	1980
合計	82.2%	2.6%	6.9%	8.3%	100.0%	3131

p<.001

「どちらかといえば、窓口や自動発売機で購入することが多かった」と回答した人において問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人が 4 人に 1 人ともっとも多く、「多くの場合、インターネットで購入した」と回答した人において「重度の疑いあり」の人がもっとも少なかった。

③ インターネットでの投票券購入の頻度の変化

インターネットでの投票券購入の頻度の変化については（図表 4-61）、「増えた」と自覚している人において、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別される人が 15%と有意に多かった。

図表 4-61　インターネットでの投票券購入の頻度の変化と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
増えた	71.7%	3.8%	9.5%	15.0%	100.0%	1042
変わらない	87.8%	1.8%	5.3%	5.1%	100.0%	1775
減った	80.0%	4.5%	10.0%	5.5%	100.0%	200
インターネット購入を始めたのは最近1年以内のこと	95.6%	0.9%	2.6%	0.9%	100.0%	114
合計	82.2%	2.6%	6.9%	8.3%	100.0%	3131

p<.001

④ インターネット投票サイトへのアクセス頻度

インターネット投票サイトへのアクセス頻度では（図表 4-62）、「月に 11 日以上」の人びとにおいて、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人の割合が 1 割を超えており、「月に 10 日」以下の場合では 8 割以上の人が「疑いなし」となっていた。

図表 4-62　インターネット投票サイトへのアクセス頻度と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
最近1ヶ月間では、一度もインターネット投票サイトにアクセスしていない	92.0%	1.6%	3.7%	2.7%	100.0%	437
月に1日程度	84.0%	2.4%	6.5%	7.0%	100.0%	626
月に2～3日程度	81.9%	1.7%	6.8%	9.6%	100.0%	592
月に4～5日程度	80.8%	3.4%	7.5%	8.3%	100.0%	506
月に6～10日程度	82.6%	3.6%	7.5%	6.3%	100.0%	505
月に11～20日程度	74.3%	2.7%	8.9%	14.0%	100.0%	257
月に21～30日程度	69.2%	3.8%	9.6%	17.3%	100.0%	208
合計	82.2%	2.6%	6.9%	8.3%	100.0%	3131

p<.001

⑤ インターネット投票において重要と考える事柄

次に、インターネット投票において重要と考える事柄と問題ギャンブリング疑いとの関連性について見ていく。なお、本分析においては、インターネット投票において重要と考える事柄では「重要」と「まあ重要」の選択肢を＜重要＞としてまとめ、「あまり重要でない」と「重要でない」の選択肢を＜重要でない＞としてまとめた。また、問題ギャンブリング疑いの程度については「重度の疑いあり」とそれ以外（「重度の疑いなし」）にまとめ、いずれの質問項目についても 2×2 のクロス集計を作成した上で正確検定を行った。

その結果、図表 4-63 に示す 7 項目（「静かな環境でレースを楽しめる」、「全国のレースを満遍なくチェックできる」、「中継映像のほうがズームアップやハイライトがあって楽しめる」、「複数の公営競技に同時に投票できる」、「買うつもりのなかった投票券を買わなくて済む」、「投票券の購入や払い戻しの履歴が残る」、「手元に現金がなくても投票できる」）において、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人とそうでない人との間に有意差が見られた。

図表 4-63　インターネット投票において重要と考える事柄と問題ギャンブリング疑い

	PPDS	＜重要＞	＜重要でない＞	合計	n	p
静かな環境でレースを楽しめる	重度の疑いあり	88.0%	12.0%	100.0%	259	＜.001
	重度の疑いなし	78.3%	21.7%	100.0%	2872	
全国のレースを満遍なくチェックできる	重度の疑いあり	83.8%	16.2%	100.0%	259	＜.001
	重度の疑いなし	70.3%	29.7%	100.0%	2872	
中継映像のほうがズームアップやハイライトがあって楽しめる	重度の疑いあり	88.4%	11.6%	100.0%	259	＜.001
	重度の疑いなし	67.5%	32.5%	100.0%	2872	
複数の公営競技に同時に投票できる	重度の疑いあり	83.4%	16.6%	100.0%	259	＜.001
	重度の疑いなし	55.3%	44.7%	100.0%	2872	
買うつもりのなかった投票券を買わなくて済む	重度の疑いあり	79.2%	20.8%	100.0%	259	＜.001
	重度の疑いなし	54.6%	45.4%	100.0%	2872	
投票券の購入や払い戻しの履歴が残る	重度の疑いあり	79.5%	20.5%	100.0%	259	0.002
	重度の疑いなし	70.4%	29.6%	100.0%	2872	
手元に現金がなくても投票できる	重度の疑いあり	87.6%	12.4%	100.0%	259	＜.001
	重度の疑いなし	64.3%	35.7%	100.0%	2872	

いずれの項目においても、「重度の疑いあり」の人の方が、そうでない人よりも、インターネット投票のさまざまな点について「重要」と考えている人が多いことが見て取れる。

特に、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人とそうでない人との間で差が大きかった項目としては、「中継映像のほうがズームアップやハイライトがあって楽しめる」、「複数の公営競技に同時に投票できる」、「買うつもりのなかった投票券を買わなくて済む」、「手元に現金がなくても投票できる」の 4 項目が挙げられ、いずれも、「重度の疑いなし」の人に比べ、「重度の疑いあり」の人は＜重要＞と回答した人の割合が 20 ポイント以上高くなっていた。

⑥ 小括

本項では、公営競技におけるインターネット投票と問題ギャンブリング疑いとの関連について見てきたが、ここまでの結果を整理しながら、インターネット投票というシステムは結局、問題ギャンブリング疑いのリスクを高めるのか否かについて考えてみたい。

まず、「①インターネット投票券の購入経験の有無」では、投票券をインターネットで購入した経験の「ある」人は、「ない」人に比べ、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高かった（図表 4-59）。しかし、現在、公営競技を行う人の 8 割以上はインターネット投票を行っている（図表 2-22）ことを考えると、インターネット投票はもはや主流であり、図表 4-59 の結果から安易に「インターネットでの投票券購入は問題ギャンブリングのリスクを高める」と言うことはできないように思われる。

次に、「②投票券購入時における窓口とインターネットの使用比率」では、「どちらかといえば、窓口や自動発売機で購入することが多かった」と回答した人において「重度の疑いあり」の人がもっとも多く、「多くの場合、インターネットで購入した」と回答した人において「重度の疑いあり」の人がもっとも少なかった（図表 4-60）。①の結果とは正反対にも見えるこうした結果がどういうことを意味しているのかを考えるために、公営競技の競技場に行く頻度と問題ギャンブリング疑いとの関連について見てみよう。図表 4-64 を見るに、総じて、競技場へ行く頻度の高い人ほど、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別される割合も高かった。

図表 4-64　公営競技の競技場に行く頻度と問題ギャンブリング疑い

	疑いなし（60点以下）	軽度の疑いあり（61～63点）	中度～重度の疑いあり（64～72点）	重度の疑いあり（73点以上）	合計	n
これまでに一度も競技場に行ったことがない	88.5%	2.1%	5.0%	4.5%	100.0%	867
年に1回未満	89.6%	2.2%	4.8%	3.4%	100.0%	1251
年に1回程度	81.9%	2.7%	7.6%	7.8%	100.0%	370
半年に1回程度	80.8%	2.0%	8.3%	8.9%	100.0%	448
2～3ヶ月に1回程度	76.1%	4.0%	7.5%	12.4%	100.0%	372
月に1回程度	67.2%	4.8%	13.8%	14.3%	100.0%	189
月に2～3回程度	61.5%	0.7%	11.5%	26.4%	100.0%	148
週に1回以上	63.6%	2.8%	12.1%	21.5%	100.0%	107
合計	83.2%	2.5%	6.7%	7.6%	100.0%	3752

p<.001

つまり、②の結果（図表 4-60）と図表 4-64 の結果を合わせて考えるに、おそらく、「競技場に行き、窓口や自動発売機で投票券を購入する人は、それだけその公営競技が好き、あるいは熱中している（ゆえに、深みにもはまりやすい）」ということなのではないか。

逆に言えば、「多くの場合、インターネットで購入した」と回答した人（1980 人）は直近 1 年で公営競技に参加したことがある人（3131 人）のおおよそ 3 分の 2 を占めており、

そのうちの約 9 割は、問題ギャンブリングの「疑いなし」となっている（図表 4-60 参照）ことを考えるに、インターネットを介して投票券を購入している人びとの多くは、おそらく、手軽にギャンブルを楽しむライト層なのではないかと思われる。

つまり、投票券購入にインターネットを使用するか否か、それ自体は、問題ギャンブリング疑いのリスクとは関係がないものと推察される。

しかしその一方で、「③インターネットでの投票券購入の頻度の変化」の結果（図表 4-61）からは、インターネット投票券の購入頻度が「増えた」と自覚している人には、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の人も多かったこと、ならびに、「④インターネット投票サイトへのアクセス頻度」の結果（図表 4-62）からは、インターネット投票サイトへのアクセス頻度が「月に 11 日以上」の人びとで「重度の疑いあり」の割合が高かったこと、などが指摘された。それらを考え合わせると、投票券購入にインターネットを使用するか否か、それ自体は、問題ギャンブリング疑いのリスクとは無関係である可能性が高いとはいえ、インターネット投票サイトを訪れる頻度が一定値（本調査では「月に 11 日以上」）を超えたり、あるいは、一定値を超えなくとも自分自身で「最近インターネットでの購入頻度が増えているなぁ」と自覚されたりする場合には、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」のリスクは上昇する可能性が高いと言ってよい。

さらに、「⑤インターネット投票において重要と考える事柄」の結果（図表 4-63）を見ると、「重度の疑いあり」と判別された人の 8 割以上は、「中継映像のほうがズームアップやハイライトがあって楽しめる」ことや「複数の公営競技に同時に投票できる」こと、「手元に現金がなくても投票できる」ことを＜重要＞と見做している。また、ほぼ 8 割が＜重要＞と回答した「買うつもりのなかった投票券を買わなくて済む」とは、つまり、窓口や自動発売機では買うつもりのなかった投票券も買ってしまうことがあることを示唆していると解釈できる。

以上の結果を踏まえると、「もともとギャンブルを好み、複数の競技に関心をもち、競技場にも行くし中継も見る、買うつもりのなかった投票券まで買ってしまうことがあるし、手元に現金がなくてもお金を賭けてしまう」といったヘビー層の人びとにとっては、インターネット投票というシステムは、ギャンブルに参加できる機会を増加させ、問題を深刻化させる可能性があるものと考えられる。

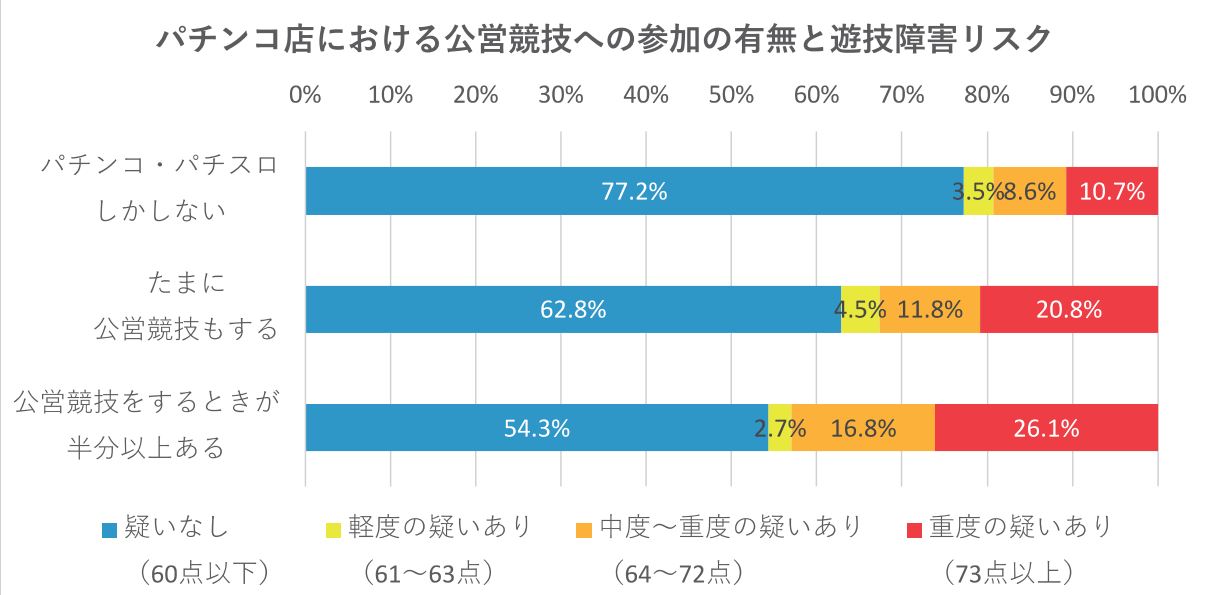
２）「ながら参加」と問題ギャンブリング疑い

前項では、公営競技のインターネット投票と問題ギャンブリング疑いについて見てきた。続く本項では、公営競技だけではなく、そこにパチンコ・パチスロが加わった場合の問題について見るために、パチンコ・パチスロ店においてパチンコやスロットをしながらも、インターネットを用いていずれかの公営競技の投票にも参加する行為＝「ながら参加」（第 3 章 第 3 節参照）と問題ギャンブリング疑いとの関連性について見ていく。

なお、第 3 章 第 3 節で見たとおり、パチンコ・パチスロ店においてパチンコやスロットをしながらも公営競技への投票にも参加している日の方が多い人はごく少数であったため、ここでは、①パチンコ店では「パチンコ・パチスロしかしない人」627 人（53.8%）、②「日によっては公営競技の投票にも参加する人」355 人（30.4%）、③「公営競技の投票

にも参加する日が半分以上となっている人」184 人（15.8%）、の 3 群に分けて分析を行った。

図表 4-65　「ながら参加」と問題ギャンブリング疑い



図表 4-65 のとおり、パチンコ・パチスロ店においては「パチンコ・パチスロしかしない」人に比べ、公営競技にも参加する頻度が高くなるほど、問題ギャンブリングにおける「重度の疑いあり」の割合は増加していくことが示された（p<.001）。特に、「公営競技をするときが半分以上ある」人では、4 人に 1 人が「重度の疑いあり」となっている。

第 4 章 第 1 節 第 4 項 ⑩～⑫（図表 4-15～図表 4-24）でも見たとおり、やはり複数のギャンブルを重複して行う行為は、問題ギャンブリングにおいて「重度の疑いあり」のリスクを高める行為になると見てよいだろう。

【コラム⑤】

スマート PLAY スタイルのすすめ

遊技業界は、ギャンブル等依存症対策基本法の制定を受け、各国のギャンブリングでの取り組みにならって、自己申告プログラムと家族申告プログラムを導入している。自己の申告によって遊技金額、回数、時間などが制限できる。また家族の申告によって、同様の仕組みが実施できるようにし、全国では 95%を超える店舗で導入を終えている。

この仕組みは、ユーザーの遊んでいる機種、時間、投資金額、勝ち額など遊技に関するデータをほぼ完全に把握できる会員カードシステムを使うことによって実現できる。

そこで、西村らは (2022)、この会員カードシステムを使って、大手ホールチェーン内でのユーザーの遊技量（頻度、時間、金額、遊技種）を把握し、いわゆるギャンブル等依存症疑い（ギャンブリング障害＋危険な遊び方：西村の項参照）のリスクアラートシステムの構築を目指した。もし、遊技量でいわゆるギャンブル等依存症疑いが予測できるなら、会員カードシステム側からアラートを発するのが予防対策として有効であると考えたからである。

しかし、遊技量といわゆるギャンブル等依存症疑いとには有意な相関は見られたものの、アンケートでの調査と異なり、その効果量はきわめて小さかった。一方、ワシントン大の Woods らの positive play scale を援用して健全遊技尺度をつくり、いわゆるギャンブル等依存症疑いとの関連を調べたところ、有意で効果量も大きい関連が得られた。さらに遊技量と positive play scale を説明変数とし、いわゆるギャンブル等依存症疑いを予測する機械学習モデルでは、遊技量の影響は消え去り、「先月、パチンコ・パチスロに使ったお金について、家族もしくは友人に対して嘘やごまかしはなかった」「先月パチンコ・パチスロに使ったお金は、失っても構わない範囲で済んだ」「先月は、自分自身をコントロールして、パチンコ・パチスロを打っていたと思う」「先月、パチンコ・パチスロを打つ前に、どこまでお金を使っても良いか、決めてから打ち始めた」の 4 項目でいわゆるギャンブル等依存リスクの 75%ほどが説明できた（西村ら 2022)。

したがって、遊技量制限を主とする自己申告プログラムや家族申告プログラムは、ギャンブリング障害レベルや危険な遊び方がギャンブリング障害に進行するのを予防するには役立つであろうものの、健全な遊び方をしているユーザーや危険な遊び方が軽度なユーザーに対しては、健全遊技の推進が予防的に必要なのではないかと考えられた。

そこで業界では、ユーザーにわかりやすく、以下の「スマート PLAY スタイル 3 か条」をつくり、その推進を目指している（日本遊技産業事業協会 2024)。

なお、60 代 70 代パチンコパチスロプレーヤーを対象とした、健全遊技と危ない遊び方および認知機能を調べた研究では、健全遊技を励行していることと、危ない遊び方の程度が低いこと、認知機能が高いことが関連しており、スマート PLAY スタイルの推進がユーザーの脳を守ることにつながりうるかもしれない（篠原ら 2024）。

［引用文献］

西村直之，戸塚綾乃，堀内智，櫻井哲朗，奥原正夫，篠原菊紀、会員カード常時使用者におけるパチンコ・パチスロ遊技障害、健全遊技、遊技量の関係～会員カードデータを用いた遊技障害リスクアラートシステムの可能性について～、アディクションと家族 37(1) 76-84 2022 年 2 月

日本遊技産業事業協会、自己申告・家族申告プログラムの広報強化策 啓発チラシ＆新共通標語　運用開始、https://www.nichiyukyo.or.jp/event/22688/　2024 年 3 月 7 日　最終確認 2025 年 1 月 31 日

篠原菊紀，堀内智，櫻井哲朗、60 代、70 代パチンコ・パチスロプレイヤーの認知機能、危ない遊び方傾向、健全遊技傾向のかかわり、文理シナジー 28(1) 7-21 2024 年 5 月

（篠原菊紀）

第５章　まとめ

第１章で述べたとおり、本報告書では、パチンコ・パチスロとオンライン化した公営競技との比較検討をとおし、どのような遊び方が依存症につながるリスクが高いのかを明らかにすることで、今後の予防や軽減へ役立てることを目的に分析を行ってきた。

以下では、こうした観点から本報告書全体のまとめを行う。

「第２章　各種ギャンブル等への参加状況」の小括

まず、「第２章　各種ギャンブル等への参加状況」において明らかとなったのは、主に以下の点である。

［ギャンブル等全般への参加状況］

- 直近１年での参加者数は、「競馬」と「パチンコ・パチスロ」において高く、次いで「ボートレース」と「競輪」が挙げられ、「オートレース」は参加者数がもっとも少ない。
- 参加頻度は、「パチンコ・パチスロ」でもっとも高く、次いで「競馬」となっており、「ボートレース」、「競輪」、「オートレース」は参加頻度が低い傾向にある。
- １年前と比べた参加時間の変化では、「競輪」のみ、参加時間が「減った」人よりも「増えた」人が多かった。「パチンコ・パチスロ」は公営競技に比べ、参加時間が「減った」と回答した人が多かった。
- 使用額や負け額については、「パチンコ・パチスロ」は、公営競技に比べ、使用額も負け額も大きい傾向にあった。
- 参加動機では、「公営競技のみをする人」は「万能感」をより多く求める傾向にあったが、「パチンコ・パチスロのみをする人」では、「非現実感追求」「無動機」「金銭的利益」をより多く求める傾向にあった。また、「パチンコ・パチスロと公営競技の両方をする人」においては、パチンコ・パチスロに対しては「非現実感追求」や「無動機」をより多く求めるのに対し、公営競技に対しては「金銭的利益」をより多く求めていることがわかった。

［各ギャンブル等の種類別 遊技状況］

- パチンコ・パチスロでは、2017 年調査に比べ、パチンコだけ、あるいはパチスロだけをする人が減少し、両方を同じくらいする人が増加した。また、低価格台でプレーする人が減少し、通常価格台でプレーする人が増加した。行きつけの店舗数が多くある人が増加した。
- 公営競技の競技場へ行く頻度では、4 人に１人がこれまでに一度も行ったことがなく、3 人に１人が「年に１回未満」となっていた。
- 公営競技の投票に参加したことがある人の８割以上は、投票券をインターネットで購入した経験があった。
- インターネットで投票券を購入した経験がある人の８割近くは、窓口や自動発売機よりもインターネットで投票券を購入することの方が多く、競技場に「月１回以上」行

く人であっても過半数はインターネットで投票券を購入することの方が多かった。

- インターネット投票サイトへのアクセス頻度は、「ボートレース」、「競輪」、「オートレース」において高かった。
- 「パチンコを高頻度で続けている人」は、「パチンコをやめた人」や「パチンコを低頻度で続けている人」に比べ、公営競技にも「1 万円以上」のお金を使っている人が多かった。

「第３章　ギャンブル等の重複」の小括

続いて、「第 3 章　ギャンブル等の重複」において明らかとなったのは、主に以下の点である。

- 直近 1 年で何かしらのギャンブル等に参加したことがある人の 65%は「1 種類」のギャンブル等にしか参加していない。「2 種類」のギャンブル等に参加した人、および「3 種類以上」のギャンブル等に参加した人は、それぞれ 17%台であった。
- 直近 1 年で何かしらのギャンブル等に参加したことのある人の 6 割は、「週 1 回以上参加するギャンブル等の種類数」が「0 種類」であると回答しており、ギャンブル等への参加頻度も高くなかった。
- パチンコ・パチスロ店では、過半数の人がパチンコ・パチスロのみをしており、パチンコやパチスロをしながらオンラインで公営競技の投票にも参加する人はあまり多くなかった。また、パチンコ・パチスロ店に行った日に「公営競技にも参加することのほうが多い」人は 4%のみに留まっていた。
- パチンコ・パチスロ店において、インターネットを通じて公営競技にも参加する理由として半数前後の人が挙げていたのは、公営競技も好きだから、あるいは公営競技にも関心があるから、というものであった。

「第４章　問題ギャンブリング」の小括

次に、本報告書の主題となる「第 4 章　問題ギャンブリング」において明らかとなったのは、主に以下の点である。

［ギャンブル等全般への参加状況］

- PPDS 得点で判断する場合、全体の 8 割以上が問題ギャンブリングの「疑いなし」と判別され、「重度の疑いあり」は 6.5%のみであった。
- ロジスティック回帰分析の結果からは、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別される確率が高い基本属性として、男性、年齢が若い人、子どものいる人、扶養家族のいる人、世帯の預貯金がない人が挙げられた。また、直近 1 年で参加したギャンブル等の種類数や、全ギャンブル等の参加頻度の高い人ほど、「重度の疑いあり」と判別される確率が高くなっていた。

［各ギャンブル等の種類別 遊技状況］

- 種類別で見ると、パチンコ・パチスロと競馬は、ボートレース、競輪、オートレースと比べ相対的に、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別される人の割合が

低かった[55]。

- パチンコ・パチスロに限って言えば、特に、「週 1 回以上」の頻度、1 年前に比べて参加時間が「増えた」と自覚している人、「月 2 万円以上」の使用額、「月 1 万円以上」の負け額（あるいは「世帯収入の 1%以上」の負け額）といった条件で、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別される確率が高くなっていた。また、「パチンコとパチスロを同じくらいの比率で行うこと」や、来店した際に「半分以上の割合で通常価格台をプレーしていること」もまた、「重度の疑いあり」と判別される確率を上げていた。
- 公営競技のオンライン投票に限って言えば、インターネットでの投票券購入の頻度が「増えた」と自覚している人、あるいは、インターネット投票サイトへのアクセス頻度が「月に 11 日以上」の人において、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別される人が多かった。
- パチンコ・パチスロ店におけるインターネットを利用した公営競技への参加については、公営競技への参加頻度が高い人ほど、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高くなることがわかった。

全体のまとめ

ここまでの小括をもとに、再度、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」に分類されやすいリスク要因をまとめると以下のようになる。

- 参加しているギャンブル等の種類数が多くなると、それに比例して、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別されるリスクは高くなる。
- 全ギャンブルを合わせた年間合計参加回数が多くなると、それに比例して、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別されるリスクは高くなる。

---

[55] 逆に言えば、パチンコ・パチスロや競馬に比べ、ボートレースや競輪、オートレースは、総じて、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別されるリスクが高くなっていた。

しかし、分析を行った佐藤の見解では、これら 3 種の公営競技における「重度の疑いあり」の人の割合の多さは、その種目自体に何かしらのリスク要因があるわけでは決してなく、その参加人口に由来するものであると考える。

つまり、パチンコ・パチスロや競馬は、現在、比較的ポピュラーな遊技・ギャンブルとなっており、自身が参加したことはなくとも、周囲を見渡せば参加経験のある人が数人は見つかるだろう。一方で、ボートレース、競輪、オートレースは、もともと参加経験者が少なく、身近に参加経験者がいない人も多いことだろう。そうした状況下ではおそらく、多くの人は（ギャンブル等に興味をもって、あるいは、周囲の人に誘われて）まずパチンコ・パチスロや競馬から始め、そこで「飽き」や「物足りなさ」を感じたり、そこで知り合った人びとから誘われたりといったことをきっかけとして、初めてボートレースや競輪、オートレースに参入するのではないか。すると、必然的に、ボートレース、競輪、オートレースには、パチンコ・パチスロや競馬に比べ、ギャンブル等が好きな人、熱中しやすい人、のめり込みやすい人が集まりやすくなることだろう。ボートレースや競輪、オートレースにおいて問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」の割合が高くなる原因には、こうした参入経緯が関連しているものと想像される（早野（2023）においても、「平均値の高い順に並べると、オートレース（4.35）、競輪（3.76）、競艇（3.61）、パチンコ（3.13）、競馬（2.36）となって」いることについて、「参加人数が少ない種目ほど平均 SOGS スコアが高くなっています。これは、参加者が多い種目ほどニューカマーが多いからと推測できます」としており（早野 2023:14）、佐藤も、早野と同様の見解をとるものである）。

しかしながら、これはあくまで想像の範囲に留まり、本調査の中ではそうした想像の正しさを検証する術はないため、今後、ボートレースや競輪、オートレース参加者の参入経路等に関する研究等がなされることに期待したい。

- どのギャンブル等においても、1 年前に比べ、参加頻度が「増えた」と自覚している場合には、問題ギャンブリングの「重度の疑いあり」と判別されるリスクは高くなる。
- 公営競技におけるインターネット投票では、投票サイトへのアクセス頻度が高くなると（月 11 日以上）「重度の疑いあり」と判別されるリスクは高くなる。
- 公営競技におけるインターネット投票は、「もともとギャンブルが好きで、競技場にも行くし中継も見る、買うつもりのなかった投票券を買ってしまうことがある、手元にお金がなくてもギャンブルに手を出してしまう」といったような、いわゆる「ヘビー層」の人びとが抱えている問題を深刻化させる可能性がある。

したがって、以上を踏まえるに、依存症の予防や軽減のためには、**①参加するギャンブル等の種類数は 1～2 種類に留めておく、②インターネット投票を通じて複数のギャンブル等を同時に（あるいは同時期に）しようとしない、③いずれのギャンブル等に参加する場合にも参加頻度や時間、負け額の上限を決め、それ以上はやらない、④去年に比べて参加時間が「増えたな」と感じている場合には参加を控える**、などの対策が効果的であると考えられる。

引用参考資料

秋山久美子，祥雲暁代，坂元章，河本泰信，佐藤拓，西村直之，篠原菊紀，石田仁，牧野暢男，2016「パチンコ・パチスロ遊技障害尺度の作成および信頼性・妥当性の検討」『精神医学』58(4)：307-316.

Ferris, J., & Wynne, H. J.，2001，*The Canadian Problem Gambling Index：Final Report,* Ottawa, ON: Canadian Centre on Substance Abuse.
（https://www.greo.ca/Modules/EvidenceCentre/files/Ferris%20et%20al(2001)The_Canadian_Problem_Gambling_Index.pdf）

早野慎吾，2023「そんなにパチンコが悪いのか：社会学から見たギャンブル依存」第 12 回全国遊技業青年部交流会基調講演　講演録
（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/gambletou_izonsho/kaigi/dai11/abe2.pdf）

亀谷義浩，2024「パチンコ店における高齢者の遊技状況―高齢者率と来店目的―」,『日本建築学会技術報告集』30(76)：1446-1451.
（https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijt/30/76/30_1446/_pdf/-char/ja）

警察庁生活安全局保安課，2024『令和 5 年における風俗営業等の現状と風俗関係事犯等の取締り状況について』
（https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/hoan/R6kouaniinnkaihoukoku3.pdf）

Komoto Yasunobu, Kaneko Makoto, Nobayashi Koji，2022，Development and Evaluation of a Modified Gambling Motivation Scale (Japanese Version)，*Journal of Gambling Issues* 50：48-72.
（https://cdspress.ca/wp-content/uploads/2022/09/JGI-Dec-20-RES-393.R3_FINALSep5.pdf）

久里浜医療センター（独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター），2021『令和 2 年度　依存症に関する調査研究事業　「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」報告書』
（https://www.ncasa-japan.jp/pdf/document41.pdf）

久里浜医療センター（独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター），2024a「令和 5 年度 依存症に関する調査研究事業『ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査』報告書 概要」
（https://www.ncasa-japan.jp/pdf/document97.pdf）

久里浜医療センター（独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター），2024b『令和 5 年度　依存症に関する調査研究事業　「ギャンブル障害およびギャンブル関連問題の実態調査」報告書』
（https://www.ncasa-japan.jp/pdf/document99.pdf）

日本遊技関連事業協会，2024『遊技業界データブック』

日工組社会安全研究財団，2018『パチンコ・パチスロ遊技障害全国調査　調査報告書』
（https://www.syaanken.or.jp/?p=10120）

日工組社会安全研究財団，2020『パチンコ・パチスロ遊技障害　研究成果　中間報告書』
（https://www.syaanken.or.jp/?p=11265）

日工組社会安全研究財団，2021『パチンコ・パチスロ遊技障害　研究成果　最終報告書』
（https://www.syaanken.or.jp/?p=11674）

付録：調査票

ご自身に関するアンケート

アンケートにご参加いただきありがとうございます。

このアンケートには、あなたの年収や過去のご経験など、
「デリケートな内容」についてお伺いする質問が含まれております。

回答をしたくないと判断された場合はお手数ですが、
「回答をやめる」ボタン、あるいはブラウザを閉じて、
アンケートを終了してください。
また、ご回答を途中でやめたくなった場合には、
途中でやめてくださっても構いません
（ポイント付与は各サイトの取り決めに基づきます）。

ご回答いただいた内容は、
「〇〇と答えた人が△△人」あるいは「□□％」といったように、
すべて統計的な数字としてまとめますので、
みなさまの個人情報が特定されることは決してありません。

当アンケートにより取得した回答結果につきましては、
市場実態の把握や学術研究のために活用させていただきます。

以上のことを同意いただける場合には、「次へ」ボタンをクリックして
アンケートの１問目にお進みください。

下記アンケートにご協力お願いいたします。

※ 本調査は web で実施したため、
実際の回答画面とはレイアウトが異なります。

スクリーニング

Q1　あなたの性別を教えて下さい。

1．男　　2．女
3．その他（　　）　　4．答えたくない

Q2　あなたはこれまでに、以下のことをしたことがありますか。

		最近１年以内にしたことがある	最近１年以内にはしていないが、**１年以上前に**したことがある	今までに一度もしたことがない
a	**国内旅行**（日帰り含む）	1	2	3
b	**海外旅行**	1	2	3
c	**コンサート、ライブ**に行く	1	2	3
d	**遊園地、水族館、美術館**などに行く	1	2	3
e	**映画館**で映画を見る	1	2	3
f	**スポーツ、運動**をする	1	2	3
g	**スポーツ観戦**をする（TV等含む）	1	2	3
h	**読書**	1	2	3
i	**飲酒**	1	2	3
j	**喫煙**	1	2	3
k	**宝くじ**購入	1	2	3
l	**LOTO**購入	1	2	3
m	**ナンバーズ**購入	1	2	3
n	**スポーツくじ**（サッカーくじなど）購入	1	2	3
o	**パチンコ・パチスロ**（ゲームセンターは除く）	1	2	3
p	**競馬**の馬券購入 ※「競馬」には、中央競馬・地方競馬・ばんえい競馬を全て含めます。	1	2	3
q	**ボートレース**の舟券購入	1	2	3
r	**競輪**の車券購入	1	2	3
s	**オートレース**の車券購入	1	2	3
t	**カジノ**	1	2	3
u	ソーシャルゲームでの**ガチャへの課金**	1	2	3
v	**証券等取引、FX**など	1	2	3

本　調　査

【調査会社デフォルト質問項目】

性別、年齢、居住都道府県、未既婚の別、子どもの有無、世帯年収、個人年収、職業

【本調査項目】

以下は、最近**1年以内にパチンコ・パチスロをしたことのある人**にお聞きします。

問１　最近１年間で、あなたは、どれくらいの頻度でパチンコ・パチスロ店でパチンコ・パチスロをしましたか。

１．年に１回程度　　２．半年に１回程度　　３．２～３ヶ月に１回程度
４．月に１回程度　　５．月に２～３回程度　　６．週に１回程度
７．週に２～３回程度　　８．週に４～５回程度　　９．週に６～７回程度

問２　あなたが普段プレーするのは、パチンコとパチスロのどちらですか。

１．パチンコだけしている
２．主にパチンコをしている
３．両方を同じぐらいずつしている
４．主にパチスロをしている
５．パチスロだけしている

問３　あなたが普段プレーするのは、通常価格の貸し玉や貸しメダルの台と、低価格（貸し玉が１円や２円のパチンコ機、貸しメダルが５円や１０円のパチスロ機）の貸し玉や貸しメダルの台の、どちらが多いですか。もっとも近いものを１つお選びください。

１．全て（あるいはほとんど）通常価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーしている
２．通常価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーすることが多い
３．低価格の台と通常価格の台とを半々ぐらいでプレーしている
４．低価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーすることが多い
５．全て（あるいはほとんど）低価格の貸し玉や貸しメダルの台でプレーしている

問４　あなたがふだん、行きつけにしているパチンコ・パチスロ店は何店舗ありますか。行けつけの店舗がない場合には「0」と記入してください。

（　　）店舗

問５　最近１年間で、あなたがパチンコ・パチスロ店でパチンコ・パチスロをした日には、平均して何時間くらいしましたか。

１．１時間未満
２．１時間以上～２時間未満
３．２時間以上～3 時間未満
４．３時間以上～４時間未満
５．４時間以上～５時間未満
６．５時間以上～６時間未満
７．６時間以上～７時間未満
８．７時間以上～８時間未満
９．８時間以上～10 時間未満
10．10 時間以上～12 時間未満
11．12 時間以上～14 時間未満
12．14 時間以上～16 時間

問６　１年前と比べ、パチンコ・パチスロをする時間に変化はありましたか。

１．増えた　→　問８へ
２．変わらない　→　問８へ
３．減った　→　問７へ
４．１年以上前にパチンコ・パチスロをすることはなかった
（パチンコ・パチスロを始めたのは最近１年以内のこと）　→　問８へ

以下は、1 年前と比べ、**パチンコ・パチスロをする時間が「減った」と回答した人**にお聞きします。

問 7　パチンコ・パチスロをする時間が減った理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。（いくつでも）

1．　飽きたから
2．　おもしろく感じられなくなったから
3．　パチンコ･パチスロ以外のギャンブルの方がおもしろいと感じるようになったから
4．　遊ぶのにお金がかかりすぎるから
5．　遊ぶのに時間がかかりすぎるから
6．　遊び方が難しそうだから（難しくなったから）
7．　おもしろい機種（台）がないから（なくなったから）
8．　今のパチンコ・パチスロは、あまり勝てないから
9．　今のパチンコ・パチスロには不正がありそうだから
１０．今のパチンコ店には、なんとなく入りづらいから
１１．パチンコ・パチスロに対する世間のイメージが悪いから
１２．近場のパチンコ店が休業／廃業したから
１３．その他（自由回答欄）
１４．特に理由はない

→　問 8 へ

以下は、最近１年以内にパチンコ・パチスロをしたことのある人**全員**にお聞きします。

問８　最近１年間で、あなたは１ヶ月あたり、平均してどれくらいの金額をパチンコ・パチスロに使いましたか。

１．５千円まで
２．５千円を超えて１万円まで
３．１万円を超えて２万円まで
４．２万円を超えて４万円まで
５．４万円を超えて８万円まで
６．８万円を超えて 12 万円まで
７．12 万円を超えて 16 万円まで
８．16 万円を超えて 20 万円まで
９．20 万円を超える額

問９　最近１年間で、あなたは１ヶ月あたり、平均していくらぐらいパチンコ・パチスロ店で負けましたか。

１．負けていない
２．５千円まで
３．５千円を超えて１万円まで
４．１万円を超えて２万円まで
５．２万円を超えて４万円まで
６．４万円を超えて８万円まで
７．８万円を超えて 12 万円まで
８．12 万円を超えて 16 万円まで
９．16 万円を超えて 20 万円まで
10．20 万円を超える額

問 10　パチンコ・パチスロをする理由についてどの程度あてはまりますか。はい、いいえでお答えください。

		はい	いいえ
a	偉くなったような気分にさせてくれるから	1	2
b	自分のことを有能と感じることができるから	1	2
c	お金を得るためではあるが、続けるべきか否か迷う時がある	1	2
d	自制心の強さを試すことができるから	1	2
e	お金を得るためではあるが、どうやって止めようかと悩む時がある	1	2
f	欲しいものを買うお金を手に入れるため	1	2
g	張りつめた気持ちを和らげるために私が知っている最良の方法だから	1	2
h	強烈な感覚を体験できるから	1	2
i	他の人たちから羨ましがられたいから	1	2
j	雑念を払うことで気持ちをすっきりとさせることができるから	1	2
k	自分の才能に気付くのが楽しいから	1	2
l	手早く簡単にお金が得られるから	1	2
m	お金を得るためではあるが、本当に自分にとって良いことか否か迷う事がある	1	2
n	大金が手にはいるから	1	2
o	スリルや強烈な感覚を体験させてくれるから	1	2

以下は、最近１年以内に**何らかの公営競技（競馬、ボートレース、競輪、オートレース）の投票券**を購入したことのある人にお聞きします。

問 11　最近１年間で、あなたは、以下の公営競技の投票券をどれくらいの頻度で購入しましたか。競技場、場外、オンラインを含めた頻度を教えてください。

	年に１回程度	年に２～３回程度	半年に１回程度	月に１回程度	月に２～３回程度	週に１回程度	週に２～３回程度	週に４回以上
競馬	2	3	4	5	6	7	8	9
ボートレース	2	3	4	5	6	7	8	9
競輪	2	3	4	5	6	7	8	9
オートレース	2	3	4	5	6	7	8	9

問 12　１年前と比べ、以下の公営競技をする時間に変化はありましたか。

	増えた	変わらない	減った	１年以上前に公営競技をすることはなかった（公営競技を始めたのは最近1年以内のこと）
競馬	1	2	3	4
ボートレース	1	2	3	4
競輪	1	2	3	4
オートレース	1	2	3	4

問 13　最近１年間で、あなたは１ヶ月あたり、以下の公営競技に、平均してどれくらいの金額を以下の公営競技に使いましたか。

	5千円まで	5千円を越えて1万円まで	1万円を超えて2万円まで	2万円を超えて4万円まで	4万円を超えて8万円まで	8万円を超えて12万円まで	12万円を超えて16万円まで	16万円を超えて20万円まで	20万円を超える額
競馬	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ボートレース	1	2	3	4	5	6	7	8	9
競輪	1	2	3	4	5	6	7	8	9
オートレース	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問 14　最近１年間で、あなたは１ヶ月あたり、平均していくらぐらい以下の公営競技で負けましたか。

	負けていない	5千円まで	5千円を越えて1万円まで	1万円を超えて2万円まで	2万円を超えて4万円まで	4万円を超えて8万円まで	8万円を超えて12万円まで	12万円を超えて16万円まで	16万円を超えて20万円まで	20万円を超える額
競馬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ボートレース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
競輪	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
オートレース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問 15　公営競技（競馬、ボートレース、競輪、オートレース）をする理由についてどの程度あてはまりますか。はい、いいえでお答えください。

		はい	いいえ
a	偉くなったような気分にさせてくれるから	1	2
b	自分のことを有能と感じることができるから	1	2
c	お金を得るためではあるが、続けるべきか否か迷う時がある	1	2
d	自制心の強さを試すことができるから	1	2
e	お金を得るためではあるが、どうやって止めようかと悩む時がある	1	2
f	欲しいものを買うお金を手に入れるため	1	2
g	張りつめた気持ちを和らげるために私が知っている最良の方法だから	1	2
h	強烈な感覚を体験できるから	1	2
i	他の人たちから羨ましがられたいから	1	2
j	雑念を払うことで気持ちをすっきりとさせることができるから	1	2
k	自分の才能に気付くのが楽しいから	1	2
l	手早く簡単にお金が得られるから	1	2
m	お金を得るためではあるが、本当に自分にとって良いことか否か迷う事がある	1	2
n	大金が手にはいるから	1	2
o	スリルや強烈な感覚を体験させてくれるから	1	2

問 16　最近 1 年間で、あなたは、どれくらいの頻度で公営競技の競技場（競馬場、ボートレース場、競輪場、オートレース場）に行きましたか。

1．年に 1 回未満　　2．年に 1 回程度
3．半年に 1 回程度　　4．2～3 ヶ月に 1 回程度
5．月に 1 回程度　　6．月に 2～3 回程度
7．週に 1 回以上

→ 問 17 へ

8．最近 1 年に限らず、これまでに一度も競技場に行ったことがない → 問 19 へ

以下は、これまでに**公営競技の競技場（競馬場、ボートレース場、競輪場、オートレース場）に行ったことのある人**にお聞きします。

問 17　最近 1 年間で、公営競技の競技場（競馬場、ボートレース場、競輪場、オートレース場）に行った日には、平均して何時間くらい居ましたか。

1．1 時間未満
2．1 時間以上～2 時間未満
3．2 時間以上～3 時間未満
4．3 時間以上～4 時間未満
5．4 時間以上～5 時間未満
6．5 時間以上～6 時間未満
7．6 時間以上～7 時間未満
8．7 時間以上～8 時間未満
9．8 時間以上

問 18　あなたが公営競技の競技場（競馬場、ボートレース場、競輪場、オートレース場）に行く理由として、以下のことはどの程度あてはまりますか。

		そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない
a	臨場感が味わえる	1	2	3	4
b	声を出して応援等ができるのでスッキリできる	1	2	3	4
c	レジャー施設として楽しめる	1	2	3	4
d	家などより競技に集中できる	1	2	3	4
e	騎手や選手を直接見ることができる	1	2	3	4
f	競走馬、レーサー（競技用自転車のこと）、ボート、競走車を直接見ることができる	1	2	3	4
g	実際の（紙の）投票券（馬券、車券、舟券）が入手できる	1	2	3	4
h	騎手や競走馬、選手などに声援を送ることがで	1	2	3	4
i	他の客や本場の職員などとのコミュニケーションが楽しめる	1	2	3	4
j	本場に行くことで友人・知人ができる	1	2	3	4

以下は、最近１年以内に**公営競技（競馬、ボートレース、競輪、オートレース）の投票券を購入したことのある人全員**にお聞きします。

問 19　あなたは**これまでに**、インターネットで投票券（馬券、車券、舟券）を購入したことはありますか。

１．ある　→　問 20 へ　　２．ない　→　問 27 へ

以下は、これまでに**インターネットで投票券（馬券、車券、舟券）を購入したことのある人**にお聞きします。

問 20　あなたが初めてインターネットで投票券（馬券、車券、舟券）を購入したのは何歳のときですか。

満（　　）歳

問 21　最近１年間で、あなたは、投票券（馬券、車券、舟券）を購入するさい、競技場や場外に設置された窓口・自動発売機（UMACA 投票機含む）と、インターネットでは、どちらで購入することが多かったですか。

１．　多くの場合、窓口や自動発売機で購入した
２．　どちらかといえば、窓口や自動発売機で購入することが多かった
３．　どちらも同じくらいだった
４．　どちらかといえば、インターネットで購入することが多かった
５．　多くの場合、インターネットで購入した

問 22　１年前と比べ、インターネットで投票券（馬券、車券、舟券）を購入する頻度に変化はありましたか。

１．　インターネットで購入する機会が、増えた
２．　インターネットで購入する機会が、変わらない
３．　インターネットで購入する機会が、減った

問 23　**最近１か月間**で、あなたは、どれくらいの頻度で、公営競技（競馬、ボートレース、競輪、オートレース）のインターネット投票サイトにアクセスしましたか。（投票券を購入したかどうかは問いません。）

１．月に１日程度　　２．月に２～３日程度
３．月に 4～5 日程度　　４．月に 6～10 日程度
５．月に 11～20 日程度　　６．月に 21～30 日程度
７．最近１ヶ月間では、一度もインターネット投票サイトにアクセスしていない

問 24　インターネットで投票券（馬券、車券、舟券）を購入する上で、あなたにとって、以下のことはどの程度重要ですか。

		重要	まあ重要	あまり重要でない	重要でない
a	場所を問わず、どこからでも投票できる	1	2	3	4
b	曜日や時間を問わず、いつでも投票できる	1	2	3	4
c	仕事や家事などの隙間時間に投票できる	1	2	3	4
d	ひとりでゆっくり／自分のペースでレースを楽しめる	1	2	3	4
e	静かな環境でレースを楽しめる	1	2	3	4
f	全国のレースを満遍なくチェックできる	1	2	3	4
g	中継映像のほうがズームアップやハイライトがあって楽しめる	1	2	3	4
h	複数の公営競技に同時に投票できる	1	2	3	4
i	買うつもりのなかった投票券を買わなくて済む	1	2	3	4
j	投票券を買うために並ばなくて良い	1	2	3	4
k	投票券の購入や払い戻しの履歴が残る	1	2	3	4
l	交通費や入場料がかからない	1	2	3	4
m	手元に現金がなくても投票できる	1	2	3	4

以下は、最近**パチンコ・パチスロと公営競技（競馬、ボートレース、競輪、オートレース）の両方をしたことのある人**にお聞きします。

問 25　現在、公営競技（競馬、ボートレース、競輪、オートレース）においてはインターネット投票が主流となったことで、パチンコ・パチスロをしながらインターネットを用いて公営競技の投票にも参加することが可能となりました。
あなたは、パチンコ・パチスロをしているときに、公営競技（競馬、ボートレース、競輪、オートレース）の投票に参加することがありますか。もっとも近いものを 1 つお選びください。

1. パチンコ店に行ったときには、パチンコ・パチスロだけをする　→　問 27 へ
2. 基本的にはパチンコ店ではパチンコ・パチスロだけをするが、日によっては公営競技の投票にも参加することがある
3. パチンコ店では、パチンコ・パチスロだけをする日と、公営競技への投票にも参加する日が、半々くらいある
4. パチンコ店では、パチンコ・パチスロだけをする日は少なく、たいていは公営競技への投票にも参加している
5. パチンコ店にいるときにはいつも、公営競技への投票にも参加している

→　問 26 へ

問 26　あなたがパチンコ店にいるときに、公営競技への投票にも参加する理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（いくつでも）

1．　パチンコ店に行ける日と、公営競技の開催日が被るため
2．　パチンコ・パチスロも好きだが、公営競技も好きだから
3．　パチンコ・パチスロをしている間の隙間時間を活用するため
4．　パチンコ・パチスロの休憩や息抜き、気分転換のため
5．　気になるレース（重賞や、その日の勝負レースなど）があるから
6．　前売りで買うとオッズが変わることがあるため、なるべくリアルタイムで投票したいから
7．　より多くのお金を得るチャンスが得られるから
8．　一方で負けても、他で勝つことで、帳尻を合わせられる可能性があるから
9．　出先であれば、同居家族の目などを気にせずに投票券を購入することができるから
１０．その他（　　）

以下は、最近**1年以内にいずれかのギャンブル等（パチンコ・パチスロ、競馬、ボートレース、競輪、オートレース）をしたことのある人**にお聞きします。

問 27　**最近1年間**における、あなたのお気持ちや状況にもっとも近いものを1つ選んで○をつけて下さい。なお、ここで言う「ギャンブル等」とは、パチンコ・パチスロ、競馬、ボートレース、競輪、オートレースの5種目を指します。

		よくある	ときどきある	ほとんどない	まったくない
a	ギャンブルのことがいつも気になって仕方がない	1	2	3	4
b	ギャンブルのことが頭に浮かぶと、やらずには済まなくなる	1	2	3	4
c	ギャンブルをしている間だけは気分が落ち着いている	1	2	3	4
d	ギャンブルをしている間は、ほかのことを何も考えないで済んでいる	1	2	3	4
e	私にとってギャンブルは、ストレスから逃れるためになくてはならないものだ	1	2	3	4
f	もっと多くのお金を得たいと思うあまりに、ギャンブルに使う金額が増えてきた	1	2	3	4
g	ギャンブルで負けても以前ほどは不安や後悔を感じなくなったために、より一層、時間やお金を費やすようになった	1	2	3	4
h	ギャンブルをする回数や時間を減らしたら、気持ちが落ち着かなくなった	1	2	3	4
i	ギャンブルをやめようとしたら、仕事や家事や勉強などが手につかなくなった	1	2	3	4
j	ギャンブルをすることで、治療中の自分自身のからだの病気が悪くなった	1	2	3	4
k	ギャンブルをすることで、治療中の自分自身のこころの病気が悪くなった	1	2	3	4
l	ギャンブルで負けた時、負けた分を取り返すために、その日のうち、または翌日に同じギャンブルをしにいったことがある	1	2	3	4
m	一日のうちに、予定していたよりもはるかに多くの金額をギャンブルに使ったことがある	1	2	3	4
n	ギャンブルをすることで生じた問題について、家族や周りの人に迷惑をかけて申し訳ないと感じたことがある	1	2	3	4
o	ギャンブルをしていることに、罪悪感を覚えることがある	1	2	3	4
p	ギャンブルをすることで生じた私自身の問題を考えて、人に対してきまり悪さや恥ずかしさを感じたことがある	1	2	3	4
q	ギャンブルによる負けや借金を隠すために、嘘をついたことがある	1	2	3	4
r	家族、友人、同僚などに嘘をついて、ギャンブルをしたことがある	1	2	3	4
s	ギャンブルをすることによって、経済的困難におちいり、お金を出してくれるよう人に頼ったことがある	1	2	3	4
t	ギャンブルをするために、人からお金を借りたことがある	1	2	3	4
u	ギャンブルをすることによって、教育を受ける機会を失いそうになったり、または失ったことがある	1	2	3	4
v	ギャンブルをすることによって、仕事で失敗したり、職を失いそうになったことがある	1	2	3	4

		よくある	ときどきある	ほとんどない	まったくない
w	ギャンブルのことで悩んで、自殺をはかったことがある	1	2	3	4
x	ギャンブルの問題で悩んだ末、みずから命を絶とうと思ったことがある	1	2	3	4
y	ギャンブルをすることで、家族や恋人との関係が破たんしそうになった、あるいは破たんしたことがある	1	2	3	4
z	ギャンブルに関する自分のお金の使い方をめぐって、同居している人や家族と口論になったことがある	1	2	3	4

問 28　最近 1 年間において、あなたはギャンブル等をするために、またはギャンブル等による借金を返すために、以下のところからお金を借りたことがありますか。あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

1．家族または家計
2．友人または知人
3．銀行
4．ローン会社
5．サラ金
5．ヤミ金
7．その他（　　）
8．借りたことはない

問 29　最近 1 年間における、あなたのお気持ちや状況にもっとも近いものを 1 つお選びください。

		ほとんどいつもそう	たいていそう	ときどきそう	まったくない
a	これ以上失ってはいけない金額を超えてギャンブルをしたことがありますか	1	2	3	4
b	同じような興奮を得るために、もっと大きな金額でギャンブルをしたいと思ったことがありましたか	1	2	3	4
c	ギャンブルをするとき、損した分を取り戻そうと別の日に同じギャンブルに行ったことがありましたか	1	2	3	4
d	ギャンブルをする資金を得るために、お金を借りたり、何かを売ったりしたことがありましたか	1	2	3	4
e	自分のギャンブルへのかかわり方に問題があるかもしれないと感じたことがありましたか	1	2	3	4
f	ギャンブルをすることによってストレスや不安を含めて、健康上の問題が生じたことがありましたか	1	2	3	4
g	あなたがそのことを正しいと思うかどうかはともかく、あなたのギャンブルに関するお金の使い方について、人から批判されたり、ギャンブルへのかかわり方に問題があると言われたことがありますか	1	2	3	4
h	ギャンブルをすることによって、あなたやあなたの家族に何らかの経済的な問題が生じたことがありましたか	1	2	3	4
i	あなたのギャンブルのやり方や、あなたがギャンブルをすることで生じたことについて、罪悪感を感じたことがありましたか	1	2	3	4

以下は、**全員**お答えください。

問 30　あなた自身のふだんのお考えについてお答えください。
世間では、男性と女性の違いについて、さまざまなことが言われています。以下の記述について、あなたはどう思われますか。

		そう思う	どちらかというとそう思う	どちらかというとそう思わない	そう思わない
a	最終的に頼りになるのは、やはり男性である	1	2	3	4
b	中学生になると、男の子の成績の方が伸びる	1	2	3	4
c	家庭のこまごまとした管理は、女性でなくては、と思う	1	2	3	4
d	子育ては、やはり母親でなくては、と思う	1	2	3	4
e	人前では、妻は夫を立てた方がよい	1	2	3	4
f	論理的思考は、男性の方がすぐれている	1	2	3	4
g	女性は男性にくらべ、感情的である	1	2	3	4
h	女性は視野がせまい	1	2	3	4
i	体力において男性がまさる以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのは、やむをえない	1	2	3	4
j	女性は出産する可能性があるため、男性と仕事の上で互角に並ぶのは無理である	1	2	3	4
k	男（女）に生まれてよかったと思う。	1	2	3	4
l	生まれるとき性別を選べるとしたら、違う性別になりたかった。	1	2	3	4
m	私は男性的な性格だと思う。	1	2	3	4
n	私は女性的な性格だと思う。	1	2	3	4

問 31　あなたの職業は、以下のどれにあたりますか。(学生でアルバイトをしている方は「学生」を選択して下さい。)

働いている方

1．正社員（職員）　2．派遣・契約・嘱託・非常勤社員（職員）
3．パート・アルバイト　4．自営業・自由業
5．自営業の家族従業員　6．経営者

働いていない方

7．学生　8．専業主婦・主夫
9．家事手伝い　10．年金受給者（老齢、障害、遺族年金等）
11．失業手当受給者　12．生活保護受給者
13．無職

14．その他（　　）

問 32　あなたは現在、結婚していらっしゃいますか。

1．未婚（今まで一度も結婚したことはない）
2．現在結婚している（内縁や事実婚を含む）
3．現在配偶者はいないが、結婚の経験がある（離別あるいは死別した）

問 33　現在、あなたには、扶養すべき家族はいますか。扶養家族がいる場合には、あてはまる続き柄すべてに○をつけてください。

扶養家族がいない人

1．扶養家族はいない

扶養家族がいる人

2．配偶者　3．子ども
4．親（義理の親を含む）　5．その他（　　）

問 34　あなたが最後に在籍した（または在籍中の）学校はどちらですか。

1．中学校　2．高等学校　3．専修・専門学校（高卒後）
4．短大・高専　5．大学（6年制含む）　6．大学院
7．その他（　　）

問 35　あなたの 1 ヶ月の遊興費(余暇や趣味などに使うお金)は、平均していくらですか。

1．５千円未満
2．５千円～１万円未満
3．１万円～１万５千円未満
4．１万５千円～２万円未満
5．２万円～２万５千円未満
6．２万５千円～３万円未満
7．３万円～３万５千円未満
8．３万５千円～４万円未満
9．４万円～４万５千円未満
10．４万５千円～５万円未満
11．５万円以上

問 36　あなたのお宅（生計を共にする家族）の年間収入（年収）をそれぞれお知らせ下さい。臨時収入、副収入、受け取った年金等も含めた、税込金額をお答え下さい。

1．100 万円未満
2．100 万円～200 万円未満
3．200 万円～300 万円未満
4．300 万円～400 万円未満
5．400 万円～500 万円未満
6．500 万円～600 万円未満
7．600 万円～700 万円未満
8．700 万円～800 万円未満
9．800 万円～900 万円未満
10．900 万円～1000 万円未満
11．1000 万円～1100 万円未満
12．1100 万円～1200 万円未満
13．1200 万円～1300 万円未満
14．1300 万円以上
15．わからない・答えたくない

問 37　現在、あなたのお宅（生計を共にする家族）では、預貯金がありますか。

1．預貯金はない
2．50 万円未満
3．50 万円～100 万円未満
4．100 万円～200 万円未満
5．200 万円～300 万円未満
6．300 万円～400 万円未満
7．400 万円～500 万円未満
8．500 万円～700 万円未満
9．700 万円～1000 万円未満
10．1000 万円～1500 万円未満
11．1500 万円～2000 万円未満
12．2000 万円～2500 万円未満
13．2500 万円～3000 万円未満
14．3000 万円以上
15．わからない・答えたくない

アンケートは以上で終わりです。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

パチンコ・パチスロ遊技障害研究会

牧野　暢男（まきの・のぶお）　【コラム③】
パチンコ・パチスロ遊技障害研究会 会長。日本女子大学名誉教授。

河本　泰信（こうもと・やすのぶ）　【コラム②】
医療法人社団 正心会 よしの病院 院長。

坂元　章（さかもと・あきら）　【コラム①】
国立大学法人お茶の水女子大学 理事・副学長、国立大学法人お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授。

佐藤　拓（さとう・たく）
成瀬メンタルクリニック 院長。

篠原　菊紀（しのはら・きくのり）　【コラム⑤】
学校法人東京理科大学 公立諏訪東京理科大学 工学部情報応用工学科 教授。

西村　直之（にしむら・なおゆき）　【コラム④】
特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク 代表理事。

佐藤　麻衣（さとう・まい）　【報告書本文】
公益財団法人 日工組社会安全研究財団 特任研究員、名寄市立大学 保健福祉学部社会福祉学科 講師。

※【】内は本報告書 執筆担当箇所。

パチンコ・パチスロ遊技障害
および
公営競技における問題ギャンブリング
調査研究報告書

2025 年（令和 7 年）7 月 31 日発行

発行者：公益財団法人 日工組（にっこうそ）社会安全研究財団

〒101-0047　東京都千代田区内神田 1-7-8 大手町佐野ビル 6 階
Tel　03-3219-5177　　Fax　03-3219-2338

企画・編集：公益財団法人 日工組社会安全研究財団内「パチンコ・パチスロ遊技障害研究会」（代表：牧野暢男、研究会員：河本泰信、坂元章、佐藤拓、篠原菊紀、西村直之、佐藤麻衣）
著者：佐藤麻衣、牧野暢男、河本泰信、坂元章、佐藤拓、篠原菊紀、西村直之

印刷・製本：株式会社 正文社

ⓒ The Nikkoso Research Foundation for Safe Society, 2025

ISBN 978-4-904181-38-6　　Printed in Japan

ISBN978-4-904181-38-6